

2012年度年報 巻頭言



はじめに

平成 24 年度は診療報酬の改訂があり、回復期病棟入院基本料に大きな変化がありました。それまでの 2 段階のランク分けから、新たに 1 ランク上乘せされた形で 3 段階の入院基本料が設定されたのです。新たに設定された新回復期病棟入院料 1 とは、今まで以上に成果主義の締め付けが厳しいもので、「在宅復帰率 7 割以上」「重症患者入院割合 3 割以上」「看護必要度 A 項目 1 点以上の入院患者割合 1.5 割以上」「看護配置 13 対 1 以上」の他、種種の高いハードルが設定された内容でありました。厚生労働省もこのハードルをクリアできる病院はごく少数だろうと想定していたと聞きます。当院ではこれに対応するべく準備をはじめ、改定初月の 4 月には 3F 病棟を新回復期病棟 1 へランクアップし、5 月には 2F 病棟を、6 月には 4F 病棟を含めて 3 病棟全てを新回復期病棟 1 へランクアップすることができました。これもひとえに当院のチームワークの良さと自負しております。

平成 25 年 6 月 吉日
院長 佐藤 信也

病院理念

「愛し愛される病院」

理念の実行目標

1. 患者さん個人の人権を尊重し、障がいを負っても人間らしさの復権のために貢献する
2. 地域社会の要請に応え住民の健康、福祉向上に貢献する
3. 職員のやる気とアイデアを大切にする

基本方針

1. 何人も平等に医療を受けられる病院づくり
2. プライバシー保護とインフォームドコンセントに基づいた患者さん中心の医療
3. 確固たるチームワークによる復帰へのサポート
4. 地域住民、地域医療機関との密着した医療
5. 医療人としての自覚と技術向上のための教育

患者さんの権利

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受ける事ができます
2. あなたは、医療行為について、自由な意思に基づき、同意・選択することができます
3. あなたは、医療行為に関し、医療者から十分な説明・報告を受ける事ができます
4. あなたは、自由に医療機関を選択する事ができます
5. あなたは、医療行為に関し、いつでも他の医療者の意見を求めることができます
6. あなたの個人の情報は、保護されます

2012年度 病院目標

当院は129床の回復期リハビリテーション病床を有するリハビリテーション専門病院です。開設11年目を向かえます。5000人近い患者様をお引き受けしその7割以上の方々を自宅にお返しして来ました。地域での認知度も高く、TMGのみならずCMS内でもリーダー的存在です。多くの人たちが我々の動向に関心を寄せています。人口10万人当たり50床設置を目途に進められてきた回復期病床も急激に増加し、巷では回復期適応患者の奪い合いが生じているのが現状です。この状況下で129床もの回復期病床を運営していくのは今後さらに難しくなっていきます。そのためにも我々は質を高め効率よく治療していくという責務を負わされています。そして多くの期待に応えるためにも、他より一歩先んじなければなりません。先ずは今回の診療報酬改定に早々に対応し、新設の回復期病棟入院料1取得を実現します。さらにリハビリテーション専門医を招集し、研修指定病院の取得をします。教諭経験者のリハビリスタッフを招集し、教育や学会活動も盛んに行います。リハクリニック外来においては、地域の要請に答えるために診療時間の一部延長をします。さらに在宅リハビリテーションサービスの実施検討をします。以下計画を立案します。

1. リハビリテーション専門病院としてのアピール

- ① 新設回復期リハビリテーション病棟1の早期取得
- ② 研修指定病院の取得
- ③ リハビリテーション施行単位の充実と業務の効率化
- ④ 質の向上のためのスタッフ教育体制の強化充実、在宅復帰率やADL改善度などの管理
- ⑤ リハクリニック診療時間の一部延長
- ⑥ リハクリニック在宅リハビリテーションサービスの実施検討

2. ブランドイメージの確立（継続）

- ① 学生の指導
- ② 学会等での研究、発表

3. 病病連携、病診連携の充実

- ① 情報提供の効率化と工夫：看護必要度A項目1点以上の患者の優先的入院
- ② 年報の早期発行・発送

4. 地域に優しいオープンな病院となる（継続）

- ① 当院の療法士勉強会を地域医療機関に開放する
- ② 当院主催のリハビリテーション研究会を通じ、地域医療機関の種々の職種のスタッフと定期的に交流を図る
- ③ 地域活動への参加

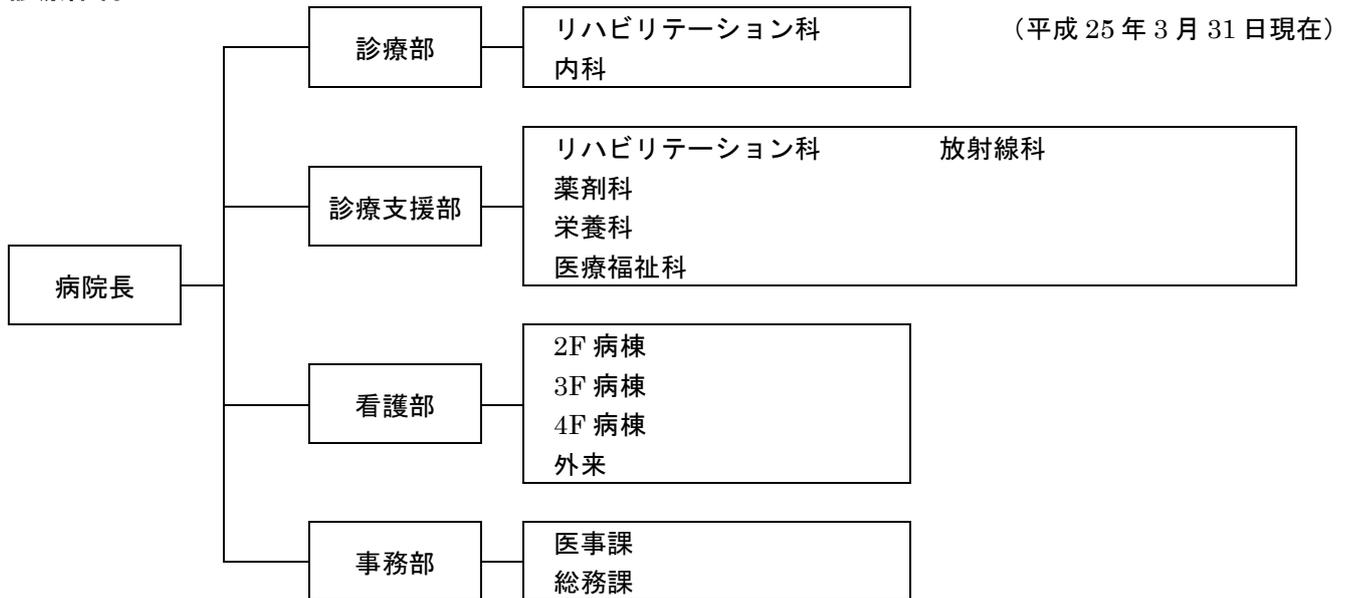
病院概要

- 名称 医療法人社団東光会 戸田中央リハビリテーション病院
- 所在地 〒335-0023 埼玉県戸田市本町1丁目14番1号
TEL048 (442) 1116 FAX048 (442) 3500
- 開設年月 平成14年 4月
- 開設者 理事長 中村 毅
- 管理者 院長 佐藤 信也
- 診療科目 内科、リハビリテーション科
- 許可病床数 療養 129床
- 建物概要 鉄筋コンクリート造 地上5階建
(工期：平成13年3月15日～平成14年2月15日)
- 施設の規模 建築面積 941.9239 m²、延床面積 3614.3550 m²、敷地面積 1813.5600 m²
- 指定医療 保険医療機関、生活保護法指定病院、労災保険指定病院、結核予防法指定病院
- 認定施設
 - 日本医療機能評価機構認定病院（審査体系区分1 Ver5.0）
 - 実習指定病院【看護学校】
戸田中央看護専門学校、蕨戸田医師会看護専門学校、さいたま市立高等専門学校
 - 実習指定病院【リハビリテーション学校】
社会医療技術学院、両国リハビリテーション専門学院、目白大学保健医療学部
横浜リハビリテーション学院、埼玉県立大学保健医療福祉学部、医学アカデミー
東都リハビリテーション学院、国際医療福祉大学保健医療学部、城西医療技術専門学校
首都大学東京健康福祉学部、文京学院大学保健医療技術学部、日本工学院専門学校
早稲田医療技術専門学校、多摩リハビリテーション学院、西武学園医学技術専門学校
帝京平成大学健康メディカル学部
- 施設基準等 回復期リハビリテーション病棟入院料1
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）、運動器リハビリテーション料（I）
地域連携診療計画退院時指導料（I）、医療安全対策加算2、薬剤管理指導料
患者サポート充実体制加算、入院時食事療養（I）
休日リハビリテーション提供体制加算、リハビリテーション充実加算
- 顧問教授 柏森 良二（帝京大学医学部附属病院リハビリテーション科教授）
山科 章（東京医科大学病院内科学第二講座主任教授）
山本 謙吾（東京医科大学病院整形外科主任教授）

沿革

平成 14 年	4 月	開院（内科、リハビリテーション科 129 床） ・ 2F 療養 43 床、3F 療養 43 床、4F 療養 43 床 ・ 保険医療機関、労災保険指定、生活保護法指定、結核予防法指定
	7 月	2F 病棟 回復期リハビリテーション病棟 承認
平成 15 年	4 月	4F 病棟 回復期リハビリテーション病棟 承認
平成 16 年	5 月	日本医療機能評価機構による施設 認定（第 JC210 号）
平成 18 年	8 月	3F 病棟 回復期リハビリテーション病棟 承認 （全床 129 床が回復期リハビリテーション病床）
	9 月	「患者さんのための 3 つの宣言」 認定
	12 月	クリスマスイルミネーション 開始（毎年 12 月実施）
平成 19 年	5 月	地域連携診療計画退院時指導料 承認
	7 月	埼玉県子育て応援宣言企業 登録
	10 月	駐輪場 増設
平成 20 年	5 月	リハビリテーション室 拡張（+82 m ² ）、言語療法室 2 室 増設
	6 月	2F 病棟一般浴室を個浴（4 ヶ所） 改修
	10 月	医事システム 更新（オンライン請求対応）
	11 月	電子カルテ、オーダーリングシステム 導入、稼動
平成 21 年	4 月	中村 毅理事長 就任
	5 月	日本医療機能評価機構の病院機能評価更新審査 認定
	8 月	休日リハビリテーション 開始（理学療法）
平成 22 年	1 月	休日リハビリテーション 開始（作業療法）
	6 月	休日リハビリテーション 開始（言語聴覚療法）
平成 23 年	7 月	戸田中央リハクリニック 開院
平成 24 年	4 月	屋上緑化庭園 開園
	5 月	日本リハビリテーション医学会研修施設 認定
	6 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1（新） 全病棟取得
	7 月	戸田中央リハクリニック 訪問リハビリテーション 開始
	12 月	開院 10 周年式典 開催
平成 25 年	2 月	全日本病院協会 入会

診療体制



職員数

(平成 25 年 3 月 31 日現在 人員数は勤務の実人数)

職 種	常勤	非常勤	計	職 種	常勤	非常勤	計
医 師	4	3	7	診療放射線技師	0	2	2
看 護 師	51	3	54	管理栄養士	2	0	2
准 看 護 師	8	0	8	理学療法士	42	0	42
高 看 学 生	0	3	3	作業療法士	29	0	29
准 看 学 生	0	1	1	言語聴覚士	19	0	16
介 護 福 祉 士	19	3	22	医療福祉科	4	0	4
看 護 助 手	7	2	9	事務職員	12	0	12
看護クランク	2	0	2	その他職員	0	0	0
薬 剤 師	2	0	2	合 計	198	17	215

入退職の報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 転入・転出も含)

職 種	入職数		退職数		職 種	入職数		退職数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤		常勤	非常勤	常勤	非常勤
医 師	1	1	1	2	診療放射線技師	0	0	0	0
看 護 師	7	0	8	2	管理栄養士	1	0	1	0
准 看 護 師	1	1	1	0	理学療法士	8	0	4	0
高 看 学 生	0	2	0	1	作業療法士	2	0	2	0
准 看 学 生	0	0	0	0	言語聴覚士	5	0	2	0
介 護 福 祉 士	2	1	2	0	医療福祉科	1	0	1	0
看 護 助 手	0	2	1	0	事務職員	2	0	3	0
看護クランク	0	0	0	1	その他職員	0	0	0	0
薬 剤 師	0	0	1	0	合 計	30	7	27	6

病棟構成

(平成25年3月31日現在)

病棟名	定床	個室	4人室	設備
2F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、個別浴室(4槽)
3F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、機械浴槽(2槽)
4F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、個別浴室(3槽)

IT化の整備・業務委託等

▶ 稼動中のシステム

No	システム名	開始年月	開発元
1	超小型コージェネレーションシステム	2002.4	東京ガス(株)
2	ホスピタルフードサービスシステム (Hospia)	2002.4	(株)セントラルユニ
3	コダック CR システム	2002.4	コダック
4	遠隔監視システム (Rings)	2003.7	東テック(株)
5	人事給与システム (ADPS)	2005.4	(株)カシオソフト
6	デビットカードサービス	2006.12	日本デビットカード推進協議会
7	医事会計システム	2008.10	中央ビジコム(株)
8	リハビリテーション支援システム (電子カルテ、オーダーリングシステム含)	2008.11	(株)エムビーテック
9	オムロン絶縁監視装置 (キューピクル)	2008.12	シンクス(株)

▶ システムの構成

No	システム名	ハード構成	台数
1	ホスピタルフードサービスシステム (Hospia80-III)	富士通 (FMV8MLK161)	1
2	コダック CR システム	800 特型	1
3	遠隔監視システム	録画機・カメラ	4・25
4	人事給与システム (ADPS)	DELL (INSPIRON6000) HP (CONPAQ nx6120)	1
5	デビットカードサービス	Panasonic ZEC-14A00	1
6	医事会計システム	サーバ・端末 (デスクトップ) プリンター (レーザー・ドット・ラベル)	1・4 各1
7	リハビリテーション支援システム (電子カルテ・オーダーリング)	サーバ・プリンター 端末 (デスクトップ・ノート型)	2・5 1・60

病院概要－業務委託状況

➤ 業務委託状況

No	委託内容	業者名	
1	検体検査業務	(株)戸田中央臨床検査研究所、(株)BML	
2	寝具、リネン、白衣管理業務	(株)東基	
3	食事サービス提供	日清医療食品(株)北関東支店	
4	清掃業務	(株)ダスキン	
5	鼠族昆虫駆除業務	西武消毒(株)	
6	感染性廃棄物回収業務	(株)メッドトラスト東京	
7	カーテンメンテナンス、職員ユニフォーム管理	(株)三和企商	
8	設備管理業務	(1) 消防設備	(株)能美防災
		(2) 昇降機遠隔監視	SEC エレベーター(株)
		(3) 受水槽清掃	山大物産(株)
		(4) 水質分析	(株)分析
		(5) 消防設備	(株)能美防災
		(6) 昇降機遠隔監視	SEC エレベーター(株)
		(7) 受水槽清掃	山大物産(株)
		(8) 水質検査	(株)分析
		(9) 自家用電気工作物	垣内電機管理事務所
		(10) 空調機器	東京ガス(株)北部 GHP メンテナンス
		(11) ガスコージェネレーションシステム	東京ガス(株)
		(12) 院内電話	英工電機(株)
		(13) 医療ガス設備	東京エアウォーター(株)
		(14) 放射線設備線量測定	ラドセーフテクニカテクニカルサービス(株)
		(15) Dry View8200 CR システム 800	(株)エルクコーポレーション
9	ホームページ	(株)ウィッツジャパン	
10	カード式 TV	(株)パースジャパン	
11	エコロジーガーデン	(株)竹中庭園緑化	
12	売店販売	(株)テンソウ商事	
13	防犯監視カメラ・セキュリティーシステム	(株)セコム	
14	診療録・フィルム等保管	(株)ふれあい広場	

病院統計

No	項目		24年度		23年度		
1	病床利用率	2階病棟	年延入院患者数	15,250	97.2%	15,338	97.5%
			年延病床数	15,695		15,738	
		3階病棟	年延入院患者数	15,405	98.2%	15,346	97.5%
			年延病床数	15,695		15,738	
		4階病棟	年延入院患者数	15,332	97.7%	15,495	98.5%
			年延病床数	15,695		15,738	
合計	年延入院患者数	45,987	97.7%	46,179	97.8%		
年延病床数	47,085	47,214					
2	1日平均患者数	回復期リハ	年延入院患者数	46,353	127.0人	46,107	126.0人
			診療実日数	365		366	
		療養	年延入院患者数	272	0.7人	152	0.4人
			診療実日数	365		366	
		合計	年延入院患者数	46,625	127.7人	46,259	126.4人
			診療実日数	365		366	
		外来	年延外来患者数	185	1.1人	146	1.0人
			診療実日数	174		148	
3	診療単価	回復期リハ	年入院収入	1,903,847,606	41,073円	1,795,546,806	38,943円
			年延入院患者数	46,353		46,107	
		療養	年入院収入	5,733,582	21,079円	3,445,840	22,670円
			年延入院患者数	272		152	
		合計	年入院収入	1,909,581,188	40,956円	1,798,992,646	38,890円
			年延入院患者数	46,625		46,259	
		外来	年外来収入	617,282	3,337円	504,230	3,454円
			年延外来患者数	185		146	
4	PT1人1日当りの実施単位	延実施単位数	186,315	17.6単位	172,893	17.7単位	
延職員数	533	484					
5	OT1人1日当りの実施単位	延実施単位数	122,202	17.4単位	118,490	17.5単位	
		延職員数	362		333		
6	ST1人1日当りの実施単位	延実施単位数	63,466	17.2単位	56,586	16.8単位	
		延職員数	185		165		
7	外来・入院患者比率	年延外来患者数	185	0.4%	146	0.3%	
		年延入院患者数	46,625		46,259		
8	職員1人1日当たりの平均取扱患者数	全職員	1日平均患者数	127.7	0.59人	126.4	0.60人
			平均職員数	216.9		212.4	
		医師	1日平均患者数	127.7	21.28人	126.4	23.41人
			平均職員数	6.0		5.4	

病院概要－統計資料

No.	項 目		24 年度		23 年度		
9	医業収入に対する割合 (構成)	入院料	年入院収入	918,742,630	46.5%	858,203,744	46.0%
			年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298	
		リハビリテーション料	年リハビリ収入	890,402,880	45.1%	841,088,386	45.1%
			年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298	
		食事療養費	年食事療養費収入	96,940,786	4.7%	96,688,272	5.2%
			年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298	
室料差額	年室料差額収入	45,906,810	2.3%	44,109,975	2.4%		
	年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298			
保険外	年保険外収入	19,445,771	1.0%	22,546,447	1.2%		
	年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298			
10	医業収入に対する割合 (経費)	薬品費	年薬品費	10,780,242	0.5%	10,128,331	0.5%
			年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298	
		医療材料費	年医療材料費	8,804,471	0.4%	10,064,014	0.5%
			年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298	
人件費	年人件費	1,065,267,081	53.9%	1,018,657,598	54.6%		
	年医業収入	1,975,605,051		1,866,153,298			
11	労働効率 (1人当り収入)	全職員	年医業収入	1,975,605,051	9,108 千円	1,866,153,298	8,786 千円
			平均職員数	216.9		212.4	
		医師	年医業収入	1,975,605,051	329,268 千円	1,866,153,298	345,534 千円
			平均職員数	6.0		5.4	
12	病床効率	年入院収入	1,972,721,469	41,897 円	1,862,994,668	39,459 円	
		年延病床数	47,085		47,214		
13	病床回転数	回復期リハ	年暦日数	365	4.3 回転	366	4.4 回転
			平均在院日数	84.4		83.3	
		療養	年暦日数	365	4.5 回転	366	10.8 回転
			平均在院日数	82.0		34.0	
		合計	年暦日数	365	4.3 回転	366	4.4 回転
			平均在院日数	84.3		83.0	
14	死亡率	院内死亡数	0	0.0%	1	0.2%	
		退院数	546		546		

診療部門

年次報告

4月からリハビリテーション指導医の入職がありました。マンパワーが充実し、さらに研修指定病院となることが出来ました。嚥下に関しても積極的に取り組み、嚥下認定看護師の養成も成って、嚥下ラウンド他、チーム医療が充実して質の向上につながりました。

11月に内科医師が突然退職したため一時混乱しましたが、医局員が協力し合って乗り切ることが出来ました。

①患者属性

ア) 基本属性（年齢）

年代	24年度		23年度		前年比
	数	構成比	数	構成比	
20歳代	0	0.0%	0	0.0%	+0
30歳代	8	1.5%	4	0.7%	+4
40歳代	26	4.8%	19	3.4%	+7
50歳代	29	5.3%	29	5.3%	+0
60歳代	123	22.5%	118	21.4%	+5
70歳代	170	31.1%	175	31.8%	▲5
80歳代	162	29.7%	171	31.0%	▲9
90歳代	28	5.1%	34	6.2%	▲6
100歳代	0	0.0%	1	0.2%	▲1
計	546	100.0%	551	100.0%	▲5
平均年齢	73.0歳		74.6歳		▲1.6歳

イ) 基本属性（性別）

年代	24年度		23年度		前年比
	数	構成比	数	構成比	
女性	278	50.9%	275	49.9%	+3
男性	268	49.1%	276	50.1%	▲8
計	546	100.0%	551	100.0%	▲5

ウ) 原因疾患（入院時の疾患）

区 分	リハビリテーション科		内 科		年間総入院患者数	
年間総入院患者数	46,260人		272人		46,532人	
脳血管系	33,359	72.1%	42	15.4%	33,401	71.8%
整形外科系	10,026	21.7%	195	71.7%	10,221	22.0%
廃用症候群	1,946	4.2%	35	12.9%	1,981	4.2%
神経・筋・靭帯損傷	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
置換術後	929	2.0%	0	0.0%	929	2.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

エ) 発症から入院までの期間（入院患者 546 件、再入院数 30 件は除く）

期 間	入院数	割 合
14 日以下	10	1.9%
15 日～30 日	169	32.8%
31 日～60 日	328	63.6%
61 日～90 日	8	1.5%
91 日以上	1	0.2%
平 均	36.6 日	100.0%

オ) 在院期間（退院患者 545 件）

期 間	退院数	割 合
30 日以下	37	6.8%
31 日～60 日	99	18.2%
61 日～90 日	206	37.8%
91 日～120 日	112	20.5%
121 日～150 日	85	15.6%
151 日～180 日	6	1.1%
180 日以上	0	0.0%
平 均	84.4 日	100.0%

カ) 入院経路

前 入 院 機 関	脳 血 管 疾 患	骨 折	神 経 ・ 筋 肉 ・ 靱 帯 損 傷	廃 用 症 候 群	置 換 術 後	療 養	計
戸田中央総合病院	92	40	0	19	15	2	168
関連病院（TMG）	3	1	0	0	0	0	4
そ の 他	267	94	0	11	0	2	374
計	362	135	0	30	15	4	546

キ) 退院経路

年 度		24 年度		23 年度		増減	
区 分		件数	割合	件数	割合	ポイント	
回復期リハビリ病床	転 帰	軽 快	470	87.0%	453	83.9%	+3.1
		治 癒	2	0.4%	6	1.1%	▲0.7
		不 変	24	4.4%	28	5.2%	▲0.8
		寛 解	2	0.4%	7	1.3%	▲0.9
		増 悪	42	7.8%	45	8.3%	▲0.5
		死 亡	0	0.0%	1	0.2%	▲0.2
	希 望	0	0.0%	0	0.0%	+0.0	
	退 院 先	在 自 宅	397	73.5%	350	64.8%	+8.7
		宅 居 宅 施 設	11	2.0%	19	3.5%	▲1.5
		老 健 施 設	64	11.9%	78	14.4%	▲2.5
急 性 期 病 院		66	12.2%	86	15.9%	▲3.7	
	慢 性 期 病 院	2	0.4%	6	1.1%	▲0.7	
退院数		540		540			

年度		24年度		23年度		増減	
区分		件数	割合	件数	割合	ポイント	
療養病床	転	軽快	5	100.0%	5	83.3%	+16.7
		治癒	0	0.0%	0	0.0%	+0.0
		不変	0	0.0%	1	16.7%	▲16.7
		寛解	0	0.0%	0	0.0%	+0.0
		増悪	0	0.0%	0	0.0%	+0.0
		死亡	0	0.0%	0	0.0%	+0.0
		希望	0	0.0%	0	0.0%	+0.0
	退院先	在宅	3	60.0%	2	33.3%	+26.7
		自宅居宅施設	0	0.0%	1	16.7%	▲16.7
		老健施設	2	40.0%	1	16.7%	+23.3
		急性期病院	0	0.0%	2	33.3%	▲33.3
慢性期病院		0	0.0%	0	0.0%	+0.0	
退院数		5		6			

②リハビリテーション効果（24年4月1日～25年3月31日、病状悪化等による転院を除く）

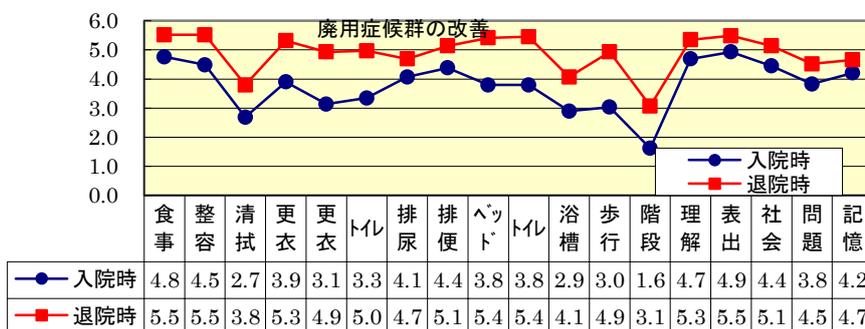
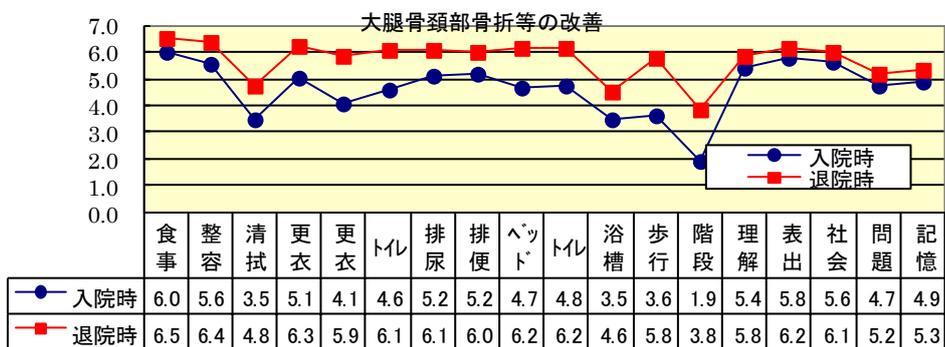
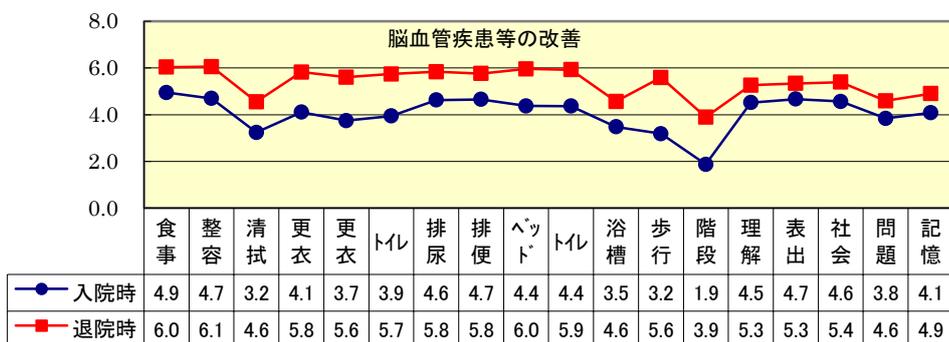
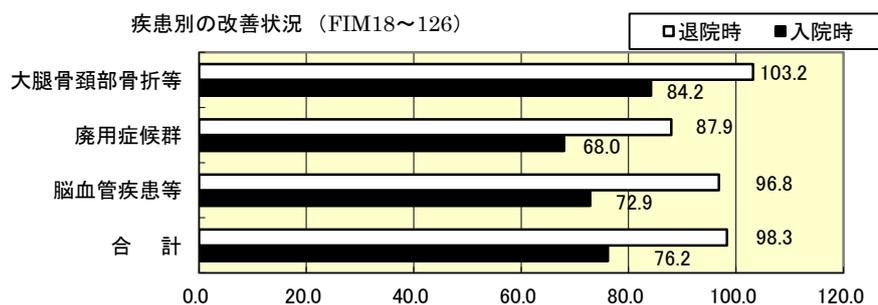
リハビリテーションの効果を入院時と退院時のFIM指数の変化で捉えました。

入院時の平均が76.2点、退院時の平均は98.3点となっており、平均で22.1点の向上・良化が見られました。

FIMの変化（効果）を患者数でみると、患者の98.3%でFIM指数が向上しています。

区分	患者数	年齢			FIM指数（入院時－退院時）		
		平均	最高年齢	最若年齢	平均	最高値	最低値
脳血管系	298	68.9	90	36	23.9	67	+0
整形外科系	152	78.8	98	35	19.0	57	▲25
廃用症候群	29	77.8	91	59	19.9	42	+0
神経・筋・靭帯損傷	0	—	—	—	—	—	—
その他	0	—	—	—	—	—	—
計	479	72.6	98	35	22.1	67	▲25

区分	患者数	改善度									
		効果あり		10点以上		20点以上		30点以上		40点以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
脳血管系	298	293	98.3%	73	24.9%	75	25.6%	64	21.8%	33	11.3%
整形外科系	152	151	99.3%	52	34.4%	33	21.6%	19	12.6%	8	5.3%
廃用症候群	29	27	93.1%	5	18.5%	5	18.5%	7	25.9%	2	7.4%
神経・筋・靭帯損傷	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	479	471	98.3%	130	27.6%	113	24.0%	90	19.1%	43	9.1%



FIM 指数とは？

FIM は、世界的に使われている ADL(日常生活活動(動作))の評価法です。身の回りの動作を 18 項目で分け各 7 段階の採点をするもので、全自立で 126 点、全介助レベルで 18 点となる指標です。当院は、平成 19 年 6 月より『バーセル指数』から『FIM 指数』に変更しました

外来担当医表

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

区 分		月	火	水	木	金	土
リハビリテーション科	午前	－	－	－	佐藤	－	－
内 科	午前	－	露口	－	－	－	－

病棟担当医表

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

区 分		月	火	水	木	金	土
2 階 病 棟		幡谷	幡谷	幡谷	幡谷		幡谷
3 階 病 棟		露口	露口	露口		露口	露口
4 階 病 棟		佐藤・西野	佐藤 (pm)	佐藤(am) 西野	佐藤・西野	佐藤・西野	佐藤・西野
整 形 外 科		遠藤(am)					
リハビリテーション科			山本 (am) 第 2・4 週				
皮 膚 科		並木(pm)			並木(am)		
歯 科		ラムザ歯科クリニック					
当 直		原田	山本	交代勤務	並木	交代勤務	交代勤務

実績

① 入院患者・病棟の稼働状況

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
2 階 病棟	在 院 数	1,263	1,311	1,275	1,315	1,304	1,250	1,237
	入 院 数	17	17	17	14	19	15	18
	退 院 数	16	18	16	17	16	18	19
	平均在院日数	76.5	74.4	82.7	86.6	74.3	71.5	69.1
	稼働率	99.1%	99.7%	100.1%	99.9%	99.0%	98.3%	94.2%
3 階 病棟	在 院 数	1,281	1,322	1,277	1,324	1,332	1,271	1,259
	入 院 数	12	15	11	16	18	19	12
	退 院 数	12	15	11	16	18	20	13
	平均在院日数	106.8	88.1	120.5	80.8	75.4	63.6	99.1
	稼働率	100.2%	100.3%	99.8%	100.5%	101.3%	100.1%	95.4%
4 階 病棟	在 院 数	1,284	1,318	1,277	1,319	1,308	1,269	1,279
	入 院 数	17	15	16	16	12	18	13
	退 院 数	17	18	13	18	11	19	13
	平均在院日数	73.9	74.2	95.4	75.6	114.7	69.3	97.3
	稼働率	100.9%	100.2%	100.0%	100.3%	98.9%	99.8%	96.9%
合 計	在 院 数	3,828	3,951	3,829	3,958	3,944	3,790	3,775
	1 日平均入院数	129.1	129.1	129.0	129.3	128.7	128.2	123.2
	入 院 数	46	47	44	46	49	52	43
	退 院 数	45	51	40	51	45	57	45
	平均在院日数	83.7	78.6	97.5	80.7	84.5	67.8	86.7
稼働率	100.1%	100.1%	100.0%	100.3%	99.7%	99.4%	95.5%	

診療部門－稼働状況・在院日数・外来

区 分		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2階 病棟	在 院 数	1,182	1,288	1,311	1,196	1,318	15,250	1,270.8
	入 院 数	15	13	20	13	14	192	16.0
	退 院 数	15	10	19	14	13	191	15.9
	平均在院日数	82.0	109.7	66.7	83.9	106.3	—	80.2
	稼働率	92.8%	97.4%	99.8%	100.5%	99.8%	—	98.4%
3階 病棟	在 院 数	1,205	1,284	1,322	1,195	1,333	15,405	1,283.8
	入 院 数	10	13	13	12	12	163	13.6
	退 院 数	10	12	12	12	12	163	13.6
	平均在院日数	126.9	103.9	115.6	97.3	113.6	—	95.4
	稼働率	94.2%	97.2%	100.1%	100.2%	100.9%	—	99.2%
4階 病棟	在 院 数	1,181	1,262	1,315	1,195	1,325	15,332	1,277.7
	入 院 数	20	18	12	16	18	191	15.9
	退 院 数	20	16	12	17	17	191	15.9
	平均在院日数	57.2	72.4	116.4	69.0	79.7	—	79.7
	稼働率	93.1%	95.9%	99.5%	100.7%	100.7%	—	98.9%
合計	在 院 数	3,568	3,834	3,948	3,586	3,976	45,987	3,832.3
	1日平均入院数	120.4	124.9	128.7	129.6	129.6	—	127.5
	入 院 数	45	44	45	41	44	546	45.5
	退 院 数	45	38	43	43	42	545	45.4
	平均在院日数	80.1	92.4	93.2	81.9	97.8	—	84.7
	稼働率	93.4%	96.8%	99.8%	100.5%	100.5%	—	98.8%

② 疾患別平均在院日数

区 分	24年度	23年度	22年度
脳血管疾患、脊椎損傷等	92.2日	93.0日	90.6日
骨 折 等	72.0日	70.8日	71.6日
廃用症候群	61.4日	60.7日	69.2日
神経・筋・靭帯損傷	—	—	—
準 ず る も の	—	—	—
療 養 対 象	82.0日	58.7日	122.5日
全 体	84.3日	83.0日	89.4日

③ 外来

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
外来延数	11	15	22	14	13	10	13
区 分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
外来延数	9	14	14	15	36	186	15.5

④ 規程・マニュアルの整備

- ア) 戸田中央リハビリテーション病院医局員業務規程
- イ) 診療のガイドライン (I～XII)
- ウ) 疼痛管理ガイドライン
- エ) 電子カルテ・オーダーリング使用マニュアル
- オ) 人事考課基準

医局会

開催日 第3月曜日 11:00～
構成員 院長、常勤医師
開催回数 12回

看護部門

看護部

看護部長 黒井 有子

年次報告

平成 24 年度は、下記の目標を掲げ活動しました。

看護部目標

1. 回復期リハビリテーション病棟新入院料 1 の早期取得と維持
 - 1) 重症患者の受け入れシステムの構築
 - ①必要に応じた人員配置
 - ②亜急性期看護ケアの充実
 - 2) 自宅退院率向上
 - ①外出外泊訓練 80%目標
 - ②外出外泊中のアクシデント 0 件
2. ここに入院して良かったと言われる環境づくり
 - 1) 安全な環境
 - 2) 快適な環境
 - 3) 患者家族参加したチーム作り
3. 専門性のアピール
 - 1) 摂食・嚥下訓練のシステムの強化
 - 2) 効果の可視化
 - 3) 専門職業人としての自覚と自信
4. 組織人・専門職業人としての成長
 - 1) 専門職業人としての自覚と自信
 - 2) 働きやすい職場づくり

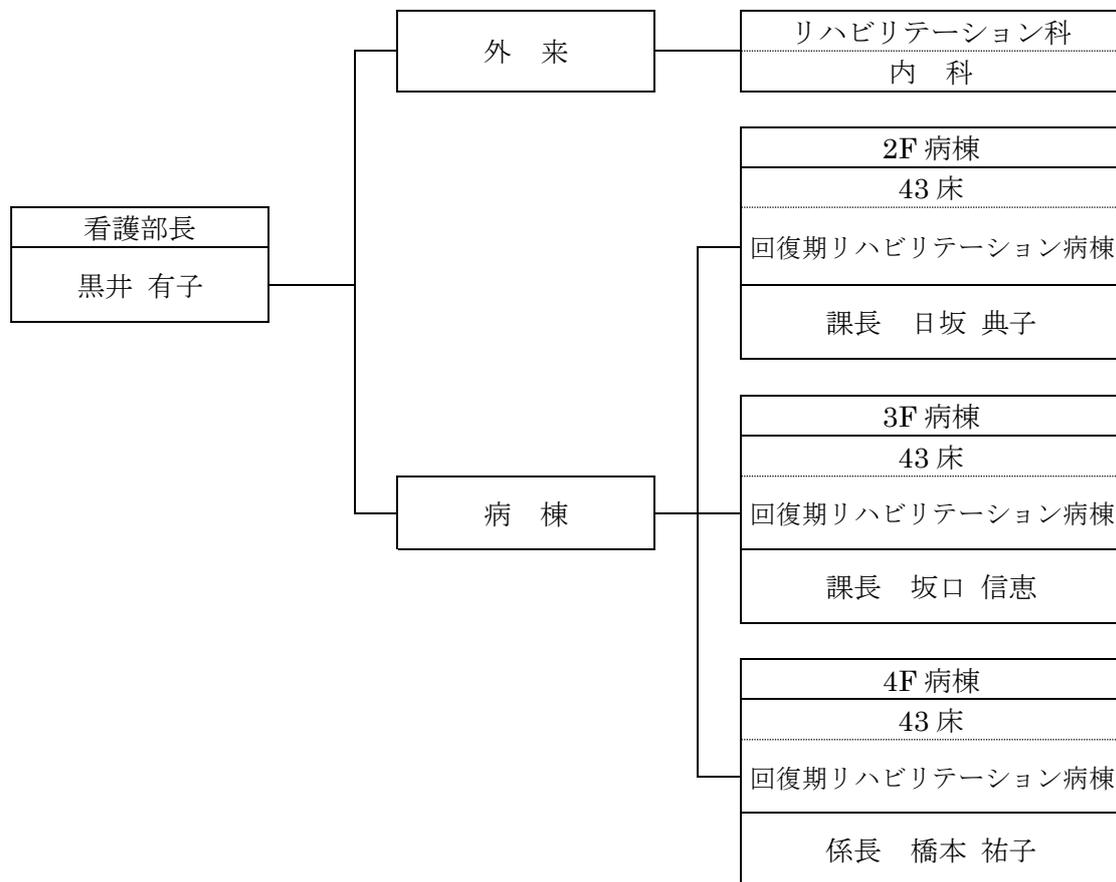
平成 24 年 6 月 1 日より看護部長の交代があり、赴任して急性期と回復期の違いに戸惑いながらも職員の協力のもと一年を無事に経過することができました。平成 24 年 4 月の診療報酬改定に伴い、回復期リハビリテーション病棟新入院料 1 の早期取得と維持という目標を掲げ、取り組んでまいりましたが、4 月には 3F、5 月 2F、6 月 4F 病棟と早々に取得することができ、現在も維持しております。それに伴い、看護部では亜急性期の患者の受け入れ態勢の整備に力を入れて取り組んできました。リハビリ中の患者様の状態変化にも迅速に対応できるように 1 階に救急カートを設置しました。また、急変時の対応にも迅速に取り組めるよう中堅看護師が中心となって勉強会を企画、戸田中央総合病院の重症ケア認定看護師を招いての研修会も実施することができました。自信を持って看護・介護が行えるように今後さらに強化していきたいと思っております。そして、当院では初めての介護福祉士の副主任が 2 名誕生しました。介護士たちの指導はもとよりリーダーシップを発揮し委員会や研修で力を発揮しています。また、当院にも 7 月に認定看護師が誕生しました。摂食・嚥下認定看護師です。

誤嚥の改善と予防への取り組み、病棟看護師や他職種と連携を強化できるよう取り組んでおります。まだ手探り状態ではありますが少しでも多くの患者さんに口からおいしく食事を摂取していただけるよう日々取り組んでいきます。「戸田中央リハクリニック」も H24 年 7 月で 1 年目を迎え順調に取り組んできています。さらに在宅リハビリの導入に伴い、退院後自宅でも継続してリハビリが実施できる環境ができたことは大変良かったと思っています。そして、さらに今年度も安心して自宅での介護が実践できるよう、介護教室の充実を図り取り組んでまいりました。

今後は入院患者さんのご家族はもちろん、地域で介護しているご家族も参加できる介護教室の開催を目指していきたいと思っています。

また、昨年度に引き続き「患者さんの声」のご意見箱に、スタッフの接遇に対するお褒めの言葉を頂き嬉しく思います。10 周年という節目の年を迎え、看護職員一同一丸となり、これからも安心して入院してリハビリに励んでいただけるよう、笑顔と気配りを忘れない看護・介護を提供し、選んでいただける病院をめざして精進していきたいと思っています。

組織図（平成 25 年 3 月 31 日現在）



昇進・転勤

➤ 昇進

看護係長 今川 寛海
看護副主任 大森 真由美、小林 里子（院内昇進）

看護部門－職員動態・看護配置・平均年齢

➤ 転入

- 黒井 有子・・・6月1日付（戸田中央総合病院）
- 山崎 藍・・・7月5日付（戸田中央総合病院）
- 田鎖 愛理・・・10月1日付（戸田中央総合病院）

➤ 転出

- 竹田 聖子・・・6月1日付（特別養護老人ホームとだ優和の杜準備室）
- 檜山 禪・・・8月1日付（新座志木中央総合病院）
- 鈴木 正子・・・25年3月1日付（戸塚共立リハビリテーション病院）

動態

（産休・育休者2名、転勤者2名は除く）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
採用	看護 師	3		1	1			1						6
	准看護 師				1									1
	高看学生													
	介護福祉士	2							1					3
	看護 助手									1		1		2
	ク ラ ーク													
合 計		5		1	2			1	1	1		1		12
退職	看護 師			2		1					2	2	1	8
	准看護 師			1										1
	高看学生													
	介護福祉士				1									1
	看護 助手				1									1
	ク ラ ーク													
合 計				3	2	1					2	2	1	11

看護単位・配置人員

（平成25年3月31日現在（ ）は非常勤）

所 属	病 床	看護 師	准看護 師	介護福祉士	看護 助手	ク ラ ーク	合 計
2 階 病 棟	43床	18(1)	1(0)	7(0)	2(3)	1(0)	29(4)
3 階 病 棟	43床	14(0)	5(1)	9(1)	1(0)		29(2)
4 階 病 棟	43床	14(2)	4(1)	6(1)	3(1)	1(0)	28(5)
部 長 室		2(0)					2(0)
合 計	129床	49(3)	10(2)	22(2)	6(4)	2(0)	86(11)

平均年齢

看護 師	准看護 師	介護福祉士	看護 助手
34.9	38.4	36.1	39.2

会議・委員会

(1) 看護部会

- 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）
 - 部 長：黒井 有子
 - 部 員：日坂 典子、坂口 信恵、橋本 祐子
- 目 的

病院の方針、看護部の方針に基づき、看護管理に関する連絡調整や看護組織の運営、改善等協議し看護の質向上を図る。
- 運 営

毎月 2 回 計 24 回実施
- 開催報告

開催日	議 事 内 容	参加数
4/2	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 取得について	4
4/23	リハクリニック応援体制の検討、看護部総会について	4
5/1	屋上オープンセレモニー喫茶開催について、看護部総会について	4
5/24	目標面接（初期）について、各委員会の活動状況確認	5
6/5	看護学生就職説明会について、認定看護師のシステムについて	4
6/19	ふれあい看護体験受け入れについて、人事考課面接について	4
7/3	人事考課について、ユニホーム変更について	4
7/17	インターンシップ受け入れについて、中国人留学生病院見学について	4
8/6	看護師賠償責任保険について、ふるさと祭りの救護について	4
8/21	職員満足度調査について、TMG50 周年について	4
9/5	新田クリニックへの応援体制について、新ユニホームの件について	4
9/18	目標面接（後期）について、服装規定の作成について	4
10/4	障害者雇用について、ボランティアコンサートについて	4
10/15	不潔リネン庫の改修工事について、各委員会の活動状況確認	4
11/6	ふれあいコンサートについて、障害者雇用の件について	4
11/20	職員満足度調査結果について、保健所立ち入り調査について	4
12/4	脳卒中リハビリテーション認定看護師実習受け入れについて 本部昇進者推薦について、昇進者面接について	4
12/18	新ユニホームの切り替え方法の検討、主任昇進について院内面接日程調整	4
1/8	感染予防について 救急カートの内容の確認と見直しについて検討	4
1/15	年末年始の業務の振り返り、戸田高看の就職説明会の検討	4
2/5	来年度の TMG の方針について、持ち込みオムツの運用方法について	4
2/19	2013 年度の事業計画について、看護研究コンサルテーション内容の検討 人員配置について	4
3/5	新入職者人員配置について、新委員会メンバーについて、新入職者オリエンテーションについて、看護研究コンサルテーション実施日程調整	4
3/19	認定看護師専従について 部署面接での確認事項、来年度の委員会メンバーについて	4

（２）看護部主任・副主任会議

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

委員長：看護副主任 清水 睦子

委員：松原 昌子、井関 和江、佐藤 絵馬、小林 里子、野口 亜紀子、加藤 正美
大森 真由美、望月 真理子

顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 目的

ア) 主任・副主任として病院・看護部・各部署の目標達成のために部署横断的な活動をする

イ) 上司とスタッフのパイプ役として機能し、働きやすい職場作りのために活動する

ウ) 管理者として成長するための情報収集・情報交換の場とする

エ) 質向上のため看護研究の定着を図る

➤ 成果目標

ア) 定期的な会議により組織の方針の共通理解を図る

イ) 管理に必要な知識の共有の習得の場となる

ウ) 役割を果たしていく中での疑問や不安ストレスを表出する場とし情報交換を行い協力し合う

エ) 看護・介護の質向上のために看護研究をサポートし、研究発表会を実施する

➤ 運営

委員会 毎月第 3 水曜日 15：30～

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/18	・今年度の活動目標報告 ・委員会運営について ・総会について	9
5/16	・今年度より介護福祉士副主任（小林・大森）参加 ・看護部総会について最終打ち合わせ	12
6/20	・看護部長から・各部署及びリハクリからの検討事項	9
7/18	・主任・副主任会の今後の持ち方及び方向性について ・看護研究について ・各部署からの検討事項	9
9/19	・看護研究の土台作り ・看護研究の研修報告	8
10/17	・看護研究のマニュアル・土台作り ・「看護研究」とは勉強会	7
11/21	・看護研究マニュアル作成について ・各階から急変時の対応について	9
12/19	・看護研究マニュアルの読み合せ・看護研究導入研修について ・コンサルテーションとは勉強会	7
1/16	・看護研究マニュアルガイドブックの作成 導入研修について ・各部署の問題点について	9
2/20	・看護研究導入研修最終打ち合わせ、今後の担当予定について ・伝達講習（ファーストレベル研修）	8
3/13	・看護研究導入研修実施の報告 ・クリニックより ・委員会時間変更について ・看護部今後の行事予定について ・各自一年の振り返り 看護部総会について検討	8

➤ 活動報告

1. 勉強会（管理研修の伝達等）実施し知識の共有
2. 看護研究の手引書の作成・導入研修を実施し、1年間かけて各階看護研究がスタートした
3. 各階・リハクリとの情報交換・課題や悩みの共有と解決の場とした
4. 管理に必要な知識を伝達講習を実施して習得した

（3）看護部教育委員会

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

委員長：看護副主任 加藤 正美

委員：日坂 典子、坂口 信恵、橋本 祐子、阿部 正子、本橋 亜紀子

顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 目的

- ア) 看護の質の向上を図るため、自己の責任と役割を持ち、実践する自立した職員を育成する。
 イ) 臨床指導者は教育的な関わりを持つことにより学生、患者、教育、病棟スタッフ間の良好な関係を持つことができる。

➤ 運営

毎月 2 回 計 24 回実施

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/2・4/16	・4月、5月研修打ち合わせ ・臨床指導者会（蕨戸田医師会看護専門学校、戸田中央看護専門学校指導者会）	4・7
5/7・5/21	・研修報告、5月、6月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校、蕨戸田医師会看護専門学校 実習中の経過報告）	7・5
6/4、6/18	・研修報告、6月、7月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校、蕨戸田医師会看護専門学校実習中の経過報告）	6・6
7/2、7/23	・介護福祉士の小林、大森副主任が教育委員のメンバーとなる ・研修報告、7月、8月の研修打ち合わせ ・インターンシップの打ち合わせ ・次年度看護研究について話し合い ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校実習報告と経過報告）	9・8
8/6・8/20	・研修報告、8月、9月の研修打ち合わせ ・インターンシップ結果報告 ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校実習報告）	6・5
9/3・9/18	・研修報告、9月、10月研修打ち合わせ ・次年度看護研究について話し合い ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校実習報告と経過報告）	6・7
10/1・10/15	・研修報告、10月、11月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校実習報告と経過報告）	5・8
11/5・11/19	・研修報告、11月、12月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校実習報告）	5・8

看護部門－会議・委員会（教育）

開催日	議事内容	参加数
12/3・12/18	・研修報告、12月、1月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（実習予定打ち合わせ）	5・8
1/7・1/21	・研修報告、1月、2月の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（蕨戸田医師会看護専門学校実習中の経過報告）	8・8
2/4・2/18	・研修報告、2月、3月の研修打ち合わせ ・次年度教育計画打ち合わせ ・臨床指導者会（蕨戸田医師会看護専門学校、戸田中央看護専門学校実習中の経過報告、教員との打ち合わせ）	8・8
3/4・3/18	・研修報告、3月と次年度の研修打ち合わせ ・臨床指導者会（戸田中央看護専門学校再、追実習中の経過報告）	8・7

➤ 院内研修実績（他委員会と共催のものは除く）

開催日	議事内容	参加数
4/21	基礎を固める研修「整形疾患看護基礎編」	9
5/12	基礎を固める研修「高次脳機能障害」	12
5/14	職場のメンタルヘルス	16
5/19	合併症予防・異常の早期発見（レベルⅠ～Ⅱ対象）	10
5/21	急変時の看護	34
5/22	2次救急（当院からの転院・救急搬送について）	27
5/28	基礎を固める研修「脳血管疾患看護」	31
5/30	介護研修 伝達講習会	7
6/15	介護研修 認知症ケアⅠ	15
6/25	第1回ケーススタディ発表会	35
6/29	介護研修 伝達講習会 「介護の専門性」	12
6/30	合併症予防・異常の早期発見（レベルⅡ～Ⅲ対象）	14
6/30	遊びりテーション基礎編	10
7/2	合併症予防・異常の早期発見Ⅱ	14
7/21	基礎を固める研修「家族ケア」	5
7/23	急変時の看護Ⅱ	32
7/26	新人フォローアップ研修	5
7/31	介護研修 伝達講習会「認知症タイプ別ケア7原則」	11
8/4	基礎を固める研修「摂食・嚥下障害」	5
8/25	リハビリの評価について	10
8/27	排泄障害へのアプローチ	24
8/31	介護研修 伝達講習会 「認知症老人ケアと遊びりテーション」	11
8/31	介護研修 伝達講習会「認知症ケア」	14
9/8	基礎を固める研修「言語障害」	7
9/18	合併症予防・異常の早期発見	13
9/24	急変時の看護Ⅲ	
9/28	介護研修 伝達講習会「医療のスキルアップ」	7
9/29	基礎を固める研修「排泄ケア」	4
10/6	褥瘡ケアを知ろう「褥瘡の予防と治療」	7
10/19	介護研修「認知症ケアⅡ」	10
10/23	介護保険	7
10/29	第2回ケーススタディ発表会	28

開催日	議事内容	参加数
10/31	介護研修 伝達講習会「脳卒中片麻痺障害とアプローチ」	17
11/5	夜勤体制での急変時の看護	17
12/3	遊びりテーション発展編	10
12/17	急変時の看護	64
1/21	家族看護	19
2/15	看護研究導入研修パート1	17
2/18	第3回ケーススタディ発表会	35
3/15	看護研究導入研修パート2	15

➤ 戸田中央看護専門学校 実習生受け入れ状況

ア) 老年看護学実習Ⅱ

- 4月9日～27日（15日間） 6名
- 5月7日～5月25日（15日間） 6名
- 5月28日～6月15日（15日間） 5名
- 6月18日～7月6日（15日間） 10名
- 7月10日～7月27日（15日間） 5名
- 9月17日～10月5日（15日間） 6名

イ) 基礎看護学実習Ⅱ

- 8月27日～9月14日（15日間） 12名

ウ) 成人Ⅰ

- 1月29日～2月17日（15日間） 12名

エ) 統合実習

- 9月17日～10月5日（15日間） 6名
- 10月15日～11月2日（15日間） 6名

➤ 蕨戸田医師会看護専門学校

ア) 成人・老年看護学実習

- 5月23日～6月7日（14日間） 6名
- 1月15日～31日（14日間） 6名
- 2月4日～2月14日（10日間） 6名
- 2月18日～28日（10日間） 6名

➤ 院外研修参加の実績

No	開催日	主催	研修内容	参加者		
				2F	3F	4F
1	4/8	雲母出版	老人介護基礎講座	1		1
2	4/28	雲母出版	高齢者の転倒予防アセスメント		2	1
3	4/28	埼看協	研究の取り組み講演会		1	
4	5/8	埼看協	認定看護師教育課程フォローアップ研修	1		
5	5/9	埼看協	新人のための医療安全・感染管理		1	2
6	5/11	埼看協	研究の基礎3日間		1	
7	5/12	国リハ	国際リハビリテーション研究会第26回公開研修会	1	2	1
8	5/13	在宅サポートセンター	介護技術講座		1	
9	5/15	埼看協	新人看護職員研修			1
10	5/21	埼看協	新人看護職員技術習得研修		1	1

看護部門－会議・委員会（教育）

No	開催日	主催	研修内容	参加者		
				2F	3F	4F
11	5/29	埼看協	生き生き2年目	2		2
12	5/30	埼看協	新人看護職員研修			1
13	6/2	㈱サラヤ	東京感染セミナー	1	1	
14	6/9	埼看協	人を育てること・教えることとは基礎編			1
15	6/11	埼看協	心電図の基礎			1
16	6/14	埼看協	看護に役立つコミュニケーション技法1			1
17	6/28	埼看協	看護に役立つコミュニケーション技法2			1
18	5/28・6/13	埼看協	新人のための救急看護・心電図		1	2
19	6/19	埼看協	効果的なリーダーシップを発揮するためには	1		1
20	6/26	埼看協	新人のための薬の管理		1	2
21	6/29	埼看協	フィジカルアセスメント入門		1	
22	6/17・7/15・ 8/19・9/16・10/21	ブリコラージュ	生活リハビリ講座2010（6回シリーズ）	1	3	4
23	6/21	TMG	介護福祉士 リーダーシップ研修		1	1
24	7/5	TMG	アサーティブコミュニケーション「2」			1
25	7/12	埼看協	看護の経営学	1		
26	7/12・7/13	埼看協	臨地実習指導者研修	1	1	
27	7/10	埼看協	ナイチンゲールに学ぶ看護師の意識改革		1	
28	7/14・7/15	看護診断学	日本看護診断学会 学術大会	1		
29	7/17・7/24・7/31	埼看協	糖尿病とフットケア研修		1	
30	6/28・7/26・2月	TMG	新係長研修「人的資源活用」			1
31	7/20	埼看協	医療安全基礎編	1		
32	7/28	CAPE	褥瘡対策と医療安全	1	1	
33	7/30・8/7・8/28	埼看協	災害支援ナース実務編		1	
34	8/1	埼看協	医療安全－中級編－	2		
35	8/7	TMG	プレゼンテーションスキル	2		
36	8/18	埼看協	倫理的思考による文章作成	1		
37	8/18	TMG	研究計画書を書く			1
38	8/24～25	国リハ	国際リハビリ看護研究会	2	1	2
39	8/25	埼看協	退院調整の理論と調整		1	
40	8/21	TMG	接遇マナー	1	1	
41	8/21～22	埼看協	基礎から学ぶ看護過程 2日間		1	
42	8/22	ブリコラージュ	夏季集中講座	1		
43	8/31	日本摂食嚥下障害看護研究会	第5回摂食・嚥下認定看護カンファレンス	1		
44	8/31	埼看協	基礎から学ぶ看護の実際		1	
45	8/31～9/1	日本摂食・嚥下リハ学会	第17回・18回共催日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 学術大会	1		
46	9/1～11/9	埼看協	認定看護管理者 教育課程ファーストレベル	1		
47	9/8	埼看協7支部	認知症について	2	2	
48	9/8	埼看協	認知症の介護－中級編－	1		
49	9/10	埼看協	効果的なプレゼンテーション	1		1
50	9/10	埼看協	介護教室－介護のレクレーション－	1		

No	開催日	主催	研修内容	参加者		
				2F	3F	4F
51	9/11	社会福祉協議会	孤独死防止フォーラム	1		
52	9/15	埼看協	看護実践の労務管理（ファーストレベルフォローアップ）			1
53	9/19	埼看協	臨床で実践！褥瘡ケアの実際看護・介護学会	1		
54	9/21	全日病学会	第54回全日病院学会 in 神奈川		3	
55	10/1～2	埼看協	アサーショントレーニング 2日間	2		
56	10/6	埼看協	認知症の理解	1		
57	10/6	東京摂食・嚥下研究会	第15回摂食・嚥下研究会	1		
58	10/13	埼看協	人を育てること・教えることとは一応用編ー			1
59	10/15	埼看協	家族看護			1
60	10/16	埼看協	せん妄の理解とその対応	1		
61	10/18	埼看協	新人のための臨床検査の基礎知識		1	2
62	10/22	TMG	研究論文の書き方			1
63	10/29	埼看協	高次脳機能障害の理解と看護	2	2	
64	10/30	埼看協	高齢者の皮膚排泄ケア/転倒・転落対策		1	
65	11/5～6	埼看協	アサーショントレーニング 2日間	1		1
66	11/9・1/11	(株)NSD	ヒューマンエラー防止手法セミナー	1	1	
67	11/10	埼看協	第6回 埼玉医療安全大会			1
68	11/20	埼看協	認知症になるということ	1		
69	11/21	埼看協	脳卒中の治療と看護	1		
70	1/18	埼看協	プリセプターシップ	1	2	2
71	1/26	NPO 救急・災害研修機構	災害実践教育研修		1	
72	1/29	埼看協	癒しのリンパケア		1	
73	1/30	TMG	ロジカルシンキング		2	1
74	2/6～8	マネージメント学会	医療安全教育セミナー			1
75	2/17		オムツ外し学会	1	1	1
76	2/20～22	日本静脈経腸栄養学会	第26回日本静脈経腸栄養学会	1		
77	3/1～2	回りハ協会	回復期リハビリテーション協会 第21回研究大会 in 金沢	2	2	1
78	3/15	TMG	効果的なプレゼンテーション		1	1
参加者数				48	47	45

埼看協：埼玉県看護協会、国リハ：国際リハビリテーション看護研究会

回りハ：全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会

➤ 長期研修

認定看護管理者ファーストレベル研修

松原昌子 9/1～11/9（埼玉県看護協会）

➤ 院内看護・介護ケーススタディ発表演題

開催日	演題名	所属	発表者
6/25	夜間の排泄方法が確立できない患者の関わりを振り返って	2F 看護師	中村 理恵
	認知症高齢者の介護を振り返って	3F 介護福祉士	加藤 多賀子
	家族看護を振り返って.	3F 看護師	山田 千恵子
	脳梗塞を発症した患者の排泄ケアを考える	4F 看護師	檜山 禅

開催日	演題名	所属	発表者
10/29	自宅退院を強く望んだ患者・家族との関わり方を振り返って	3F 看護師	鈴木 淑江
	人口股関節置換術後の患者との関わりを通しての学び	2F 看護師	重田 愛子
	うつ病を抱える患者家族との関わり ～親子の絆を取り戻すために～	4F 看護師	本下 早苗
2/18	慢性混乱の患者と関わって学んだこと	3F 介護福祉士	秋元 力也
	在宅復帰の難しさ	2F 介護福祉士	岩切 かず美
	リハビリ拒否が強い患者を受け持ってわかったこと ～失語患者とのコミュニケーション～	4F 看護師	蛭田 菜月

➤ 学会研究会等の発表実績

開催日	学会・研究会名	発表演題	所属	発表者
9/25	全日病学会	回復期リハビリテーション病棟における早期の外泊訓練の効果と課題	3F 看護師	本橋 亜紀子

（４）看護部記録委員会

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

委員長：日坂 典子
委員：菊池 園香、佐藤 絵馬、橋本 祐子
顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 目的

- ア) 患者の姿が見える、全職種で活用できる記録が書ける
- イ) 標準看護計画を整備し質の高い看護ケアが行えるよう支援する
- ウ) 退院サマリーの充実

➤ 運営

第 1 木曜 14：30～15：30

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/12	・合同新人記録研修について ・今年度委員会目標・計画について ・ FIM・日常生活機能評価研修打ち合わせ	5
5/19	・合同新人記録研修結果報告 ・新人日常生活機能評価研修結果報告	5
6/14	・ FIM 研修結果報告 ・ SOAP 研修結果報告 ・平成 24 年度看護記録研修計画確認 ・日常生活機能評価院内規定改訂	4
7/12	・看護サマリー研修打ち合わせ ・新人記録フォローアップ研修打ち合わせ	4
9/13	・新人記録フォローアップ研修結果報告 ・介護サマリー研修結果報告 ・看護サマリー見直しについて検討	4
10/4	・NANDA-I 改訂における見直しについて検討 ・介護サマリーについて確認	5
11/8	・TMG 本部記録指導者研修について報告 ・NDC セミナー報告 ・NANDA-I 定義見直し（領域 1～3）	3
12/13	・NANDA-I 定義見直し（領域 4～6） ・夜勤時・経過記録についての確認 ・平成 25 年度記録研修計画検討	4

開催日	議 事 内 容	参加数
1/10	・NANDA-I 定義見直し（領域 7～9） ・次年度記録指導者研修事例検討 ・看護記録監査について予定確認	4
2/14	・看護サマリー基準・手順の見直し ・記録監査進捗状況確認 ・今年度活動結果報告	4
3/3	・平成 25 年度新人記録研修確認 ・平成 24 年度看護記録監査終了 ・平成 25 年度記録委員会目標について	4

➤ 活動内容（職員教育も含む）

- ア) 記録監査 1 回／人以上
- イ) FIM・日常生活機能評価の研修会実施
- ウ) 日常生活機能評価院内規定改訂
- エ) 記録委員に対する勉強会
- オ) 介護サマリー基準・手順の周知
- カ) NANDA-I 改訂に伴う定義の見直し

(5) 看護部業務委員会

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

- 委員長：橋本 祐子
- 委員：小池 美由紀、大野 寛子、渡辺 美智子
- 顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 目 的

- ア) 亜急性期看護基準の作成
- イ) 看護基準の修正・評価により質の向上
- ウ) 退院指導・介護指導の強化

➤ 運 営

毎月 1 回 第 1 木曜日 15:30～16:30 計 13 回実施

➤ 開催報告

開催日	議 事 内 容	参加数
4/5	・昨年度の活動目標の評価・今年度の目標の確認 ・診療報酬変更に伴い、亜急性期の看護、抜糸、抜鉤の手順の検討	3
4/20	・亜急性期についての資料収集	4
5/10	・今年度の目標修正報告・急変時の対応（看護手順）修正 ・亜急性期の看護の手順検討	4
6/7	・亜急性期の看護手順検討 ・医師の変則勤務時間の明確化	5
7/5	・亜急性期の看護手順検討 ・患者指導パンフレット検討	5
8/2	・亜急性期の看護手順検討 ・救急カート、物品、薬品表の見直し ・患者指導パンフレット検討	5
9/6	・亜急性期の看護手順検討 ・救急カート等チェック表検討 ・防災バックの検討	5
10/4	・亜急性期の看護手順検討・患者指導パンフレット検討 ・救急カート等チェック表検討	5

開催日	議 事 内 容	参加数
11/8	・亜急性期の看護手順完成、周知報告 ・患者指導パンフレット検討 ・救急カートを1階に設置検討 ・救急カート内物品検討	4
12/6	・患者指導パンフレット検討 ・膝関節内注射の介助（看護手順）の叩き台検討	4
1/10	・看護手順の見直し ・抜鉤介助（看護手順）検討 ・患者指導パンフレットについて ・救急カート内整備検討（物品発注含）	3
2/7	・患者指導パンフレットについて ・救急カート内整備検討 ・亜急性期の看護（看護手順）評価・修正 ・次年度新人研修について	4
3/7	・救急カート内整備検討 ・患者指導パンフレットについて ・次年度新人研修について ・今年度の評価・反省・次年度に向けて	5

➤ 活動内容（職員教育も含む）

- ア) 診療報酬改定に伴い、亜急性期看護手順の作成
- イ) 患者指導・疾患指導パンフレットの充実・周知の充実
- ウ) 急変時対応に備えての、救急カート整備
- エ) 新治療開始に向けての、看護手順追加

（6）セーフティマネジメント対策委員会

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

委員長：4F 今川 寛海（係長）
 委員：2F 松原 昌子（副主任）、中村 理恵、3F 清水 睦子（副主任）、白尾 裕子
 4F 蛭田 菜月
 顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 目 的

- ア)、医療安全管理体制の充実を図り事故の未然防止活動を推進する
- イ)、看護部職員の事故に対するリスク感性を高める活動を行う

➤ 運 営

第 3 木曜日 15：30～16：30

➤ 開催報告

開催日	議 事 内 容	参加数
4/19	・今年度の方針・活動内容について ・3月のアクシデント報告・分析 ・高次脳機能障害勉強会今後2回制について検討 ・カンファレンス室、流し台撤去について ・入院時持参薬管理方法、翌朝分までセットするよう変更 ・転倒・転落アセスメントスコアの今後について検討	6
5/17	・4月のアクシデント報告・分析 ・院内ラウンド結果報告 ・内服自己管理導入時の、説明書作成について検討 ・内服床落ちが多いケースについて検討 ・転倒履歴確認表、各階にパウチし配布・使用開始 ・入院時持参薬管理方法、翌日朝分まで病棟管理で決定	4

開催日	議 事 内 容	参加数
6/16	<ul style="list-style-type: none"> ・5月のアクシデント報告・分析 ・内服床落ちのアクシデント対応法について ・事故報告書、基準等修正検討 	5
7/19	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のアクシデント報告・分析 ・内服自己管理説明用紙について評価・修正 ・緊急転院時等の事故報告書について ・内服落下関連のアクシデント報告 	4
8/23	<ul style="list-style-type: none"> ・7月のアクシデント報告・分析 ・内服自己管理患者の、内服落下アクシデントについて ・KYT 遵守状況確認 ・内服自己管理フローチャート、修正変更予定 ・内服持参ポーチ購入検討 	6
9/21	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のアクシデント報告・分析 ・院内ラウンド結果報告 ・オムツ持ち込みの管理方法について ・入浴時排水口での切創についての対応法 ・高次脳機能障害勉強会開催 	6
10/18	<ul style="list-style-type: none"> ・9月のアクシデント報告・分析 ・内服自己管理練習用に、内服ピルケース購入・使用していく ・チームサポート委員会 クレーム内容について報告 ・留置カテーテル自然抜去について ・院外研修予定報告 ・大規模災害訓練今後について検討 	5
11/15	<ul style="list-style-type: none"> ・10月のアクシデント報告・分析 ・医療安全大会の報告 ・内服自己管理方法の検討 ・急変時、看取り看護の必要性について検討 ・テレホンカードの盗難について 	5
12/20	<ul style="list-style-type: none"> ・11月のアクシデント報告・分析 ・院内ラウンド結果報告 ・ラウンドチェック表修正について検討 ・持参の内服処方箋、手書き修正にてアクシデントに繋がったケースについて 	6
1/17	<ul style="list-style-type: none"> ・12月のインシデント報告・分析 	2
2/28	<ul style="list-style-type: none"> ・1月のインシデント報告・報告 ・病院内で日中の表現を、6時～22時に統一する事への検討 ・ラウンドチェック表改訂実施 ・外泊時内服管理シート改訂版配布 ・各階での救急の勉強会実施状況報告 ・転倒・転落数増加傾向、KYT等遵守するよう注意喚起 	5
3/21	<ul style="list-style-type: none"> ・2月のインシデント報告・分析 ・急変時研修の今後の方針について検討 ・外泊時内服管理シートについて評価・修正 ・今年度の反省と来年度の課題 	5

➤ 活動内容

- 1) インシデント・アクシデントレポートの把握・分析・対策立案・修正・評価
- 2) インシデント・アクシデントレポート改訂
- 3) 医療安全に関する教育研修（5S活動について）
- 4) 入院時持参薬管理方法、マニュアル改訂
- 5) 外泊時内服管理シート改訂
- 6) ラウンドチェック用紙改定
- 7) 入院時持参薬基準改定、それに伴い専用用紙作成
- 8) 転倒履歴回数確認表作成

(7) 身体拘束廃止推進委員会

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

委員長：野口 亜紀子

委員：看護部長 黒井 有子、佐藤 静香、吉池 典子、山田 千恵子

➤ 目的

- ア) 患者の人権を尊重し、身体拘束「ゼロ」を目指し活動を行なう。
- イ) 事故防止の観点から、身体拘束の考え方を看護部職員に教育・指導する。
- ウ) 安全器具（センサー類）の管理。

➤ 運営

第 4 水曜日 15：30～16：00

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/25	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告、安全器具使用状況、24年度委員会目標） ・安全器具を4階の中央管理に変更とする	4
5/23	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・安全器具の在庫確認 ・基準の改正 ・年間目標について	3
6/27	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・安全器具の在庫確認 ・継続事項（規定改訂：身体拘束規定解除に向けたケアのポイントの見直し）	5
7/25	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・安全器具管理状況確認	5
8/22	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・継続事項（規定改訂：身体拘束規定解除に向けたケアのポイントの見直し）	5
9/26	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・継続事項（規定改訂：身体拘束規定解除に向けたケアのポイントの見直し）	5
10/24	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・安全ベルト、コールマットの不足あり購入を検討	5
11/28	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・安全ベルトを新たに2個購入	5
12/26	・報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） ・ミトン（ペリカンくん）不足あり、新しく購入を検討 ・認知症老人俳諧感知機器（声で呼べるコール）のデモ機の借用を検討 ・継続事項（規定改訂：身体拘束規定解除に向けたケアのポイントの見直し）	5

開催日	議事内容	参加数
1/23	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） 認知症老人俳諧感知機器（声で呼べるコール）のデモ機を借用。音に反応し、カメラもついているため夜間の見守りがしやすい。ナースコール連動型ではないため、値段を確認して購入を検討。 継続事項（規定改訂：身体拘束規定解除に向けたケアのポイントの見直し） 	5
2/27	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） 安全器具の管理方法変更について、今年度紛失なし。来年度も中央管理を継続していく。 	5
3/28	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡事項（身体拘束累計報告 安全器具使用状況） 身体拘束規定を、改訂版に差し替えとする 	5

➤ 活動内容

- ア) 新入職員への研修（身体拘束廃止の考え方、身体拘束廃止規定）
- イ) 身体拘束規定・解除に向けたケアのポイントの見直し、改訂
- ウ) 安全器具を4階の中央管理とし、管理の徹底を施行
- エ) 身体拘束実施状況の実態調査
- オ) 新たな安全器具購入の検討

(8) 療養委員会

➤ 人員構成（平成25年3月31日現在）

- 委員長 小林 里子
- 委員 西脇 千恵美、根岸 由佳、秋元 力也、井汲 咲貴、峯岸 史恵
- 顧問 看護部長 黒井 有子

➤ 目的

- ア) 快適な療養環境を整える
- イ) 療養生活に必要な物品を整える

➤ 成果目標

- ア) 季節の行事を取り入れ、潤いのある療養環境を目指す
- イ) 効果的な遊びりテーションが行えるよう支援する
- ウ) 患者に使用する寝具、オムツ、タオル類が適切に使われるよう定数の見直しやシステムの改善を行う

➤ 運営

- 委員会 毎月1回 第3金曜日 15:30～

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/20	<ul style="list-style-type: none"> 顔合わせ ・今後の予定について 今後の目標、実施してみたいこと ・遊びりマニュアルについて 	6
5/18	<ul style="list-style-type: none"> 菖蒲湯の行事報告 ・スカイガーデン喫茶戸田リハについて 遊びり倉庫の整理について ・DVD管理について 	7
6/15	<ul style="list-style-type: none"> スカイガーデン喫茶戸田リハの行事報告・1階倉庫の整頓について 遊びり倉庫の整理について ・年次交換について ・七夕について 8月行事について 	8

開催日	議事内容	参加数
7/20	・私物洗濯を東基に出す際の管理について ・七夕会の報告 ・夏祭りの打ち合わせ ・秋のコンサートについて	8
8/17	・秋のコンサートについて ・夏祭り最終打ち合わせ	7
9/28	・夏祭りの反省会、報告 ・秋のコンサートについて ・その他	4
10/19	・年次交換について ・ピンクカーテンの処分 ・不潔庫の鍵について ・秋のコンサート打ち合わせ ・クリスマス会について	8
11/16	・秋のコンサート反省会 ・リハ着、パジャマの出し方の変更について ・クリスマス会について ・ゆず湯について	7
12/21	・ゆず湯の報告 ・節分について ・遊びり道具（カラオケ）について ・クリスマス会打ち合わせ	5
1/18	・クリスマス会報告 ・節分について ・ひな祭りについて ・遊びりマニュアルについて ・伝票について	8
2/15	・絵手紙について ・オムツについて ・節分行事の報告 ・ひな祭り行事の打ち合わせ ・遊びり道具について	7
3/15	・来年度の委員報告 ・ひな祭り行事報告 ・今年度の反省 ・来年度に向けての課題について	6

➤ 活動内容

ア) 季節ごとの行事の実施

年1回の音楽会（コンサート）の実施

イ) 絵手紙教室 毎月1回第4日曜日 14：00～各病棟持ち回りで実施

ウ) 遊びりテーションの道具の保管を4階として、使用管理ノート利用で統一
遊びりテーションマニュアルを改訂して各病棟で保管する

エ) 各病棟のリネン類の出入庫をスタッフ確認

紛失防止の為に、私物委託・納品伝票を作成し、私物洗濯の管理修正

➤ 行事開催実績

開催日	内容	場所
5/1、2	菖蒲湯	各病棟浴室
5/31	スカイガーデン喫茶戸田リハ	スカイガーデン
7/2	七夕会	各病棟食堂談話室
9/2	スカイガーデン夏祭り	スカイガーデン
11/11	秋のマリンバ&ピアノコンサート パートⅢ	各病棟食堂談話室
12/20、21	ゆず湯	各病棟浴室
12/23	クリスマス会	各病棟食堂談話室
2/3	節分	各病棟食堂談話室
3/3	ひな祭り	各病棟食堂談話室

(9) 介護教室推進委員会

➤ 人員構成（平成25年3月31日現在）

委員長 坂口 信恵

委員 景山 智子、壇 智子、間宮 宏樹、平野 久子、加藤 多賀子、行方 信、大森 真由美
斎藤 紘子

顧問 黒井 有子

➤ 目的

ア) 家族に介護についての基本的な知識を学んでもらうことで、病棟における個別指導の導入的役割を果たす

- イ) 長期的な介護生活の中で、介護者自身の健康を保つ方法を学んでもらう
- ウ) 集団で学ぶことで家族同士の交流、介護についての不安表出の場となる

➤ **目 標**

- ア) 年 20 回開催
- イ) 退院に備えて車いすの介助・入浴・着替えの介助・合併症の予防を 1 クールとし、各クールの境は設けずに 4 回受講で完了
- ウ) 介護教室と病棟の連携を強化する介護教室での実施内容、家族の状況、病棟での様子等の情報を教室、病棟間で共有する
- エ) 新規参加者が、退院後の生活を知る機会とし退院患者との交流の場を作る

➤ **運 営**

毎月第 4 金曜日 15:30～

➤ **議 題**

介護教室開催、介護教室同窓会開催、フォローアップ教室開催について

➤ **開催実績**

開催回数 20 回 延べ参加者数 404 名

クール	開催日	テーマ・内容	担当者	参加数
1	6/2	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	29
	6/16	体験！車いすの介助・心理の会	斎藤 平野 加藤	22
	7/7	体験！入浴・着替えの介助・心理の会	景山 間宮 壇	30
	7/21	合併症の予防	行方 大森 坂口	23
2	8/4	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	24
	8/25	体験！車いすの介助・心理の会	斎藤 平野 加藤	35
	9/8	体験！入浴・着替えの介助・心理の会	景山 間宮 壇	27
	9/29	合併症の予防	行方 大森 坂口	19
3	10/13	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	26
	10/27	体験！車いすの介助・心理の会	斎藤 平野 加藤	15
	11/10	体験！入浴・着替えの介助・心理の会	景山 間宮 壇	18
	11/17	合併症の予防	行方 小林 坂口	16
4	12/1	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	13
	12/15	体験！車いすの介助・心理の会	斎藤 平野 加藤	17
	1/19	体験！入浴・着替えの介助・心理の会	景山 間宮 壇	20
	2/2	合併症の予防	行方 大森 坂口	20
5	2/16	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	21
	3/16	体験！車いすの介助・心理の会	斎藤 平野 加藤	15
	3/30	体験！入浴・着替えの介助・心理の会	景山 間宮 壇	14
	4/6	合併症の予防	行方 大森 坂口	13

➤ **実施報告**

平成 24 年度の参加者 417 名（前年度 309 名）。病棟の食堂での開催という限られたスペースや老々介護、重介護患者の増加に伴い、指導内容を強化しました。参加する家族のニーズが高く、毎回家族のニーズに近づけた内容にし、介護される側する側の気持ちの大切さを伝えるように工夫した教室を心掛けました。

体験教室において、家族同士の繋がり、ストレスの発散、情報交換の場、なにより退院後のイメージを持ってもらうことを目的に、心理の会も継続しています。結果、自宅退院率 81%以上をキープすることができました。今後の課題として、介護教室参加後のアンケートを充実したものにし、

さらなる指導を強化していきたいと考えています。病棟スタッフの介護教室に対する意識も高まってきたので、フィードバックの方法を検討し根強いものにしていきたいと思ひます。

平成 24 年 4 月 22 日に第 3 回目の介護教室家族同窓会を、30 名（患者 12 名）の参加者で開催しました。退院して 3 年目の方たちの参加であり、時の経つのを忘れさせる程の体験談や、大変なことを大変だと思わない明るく前向きな姿勢で介護を楽しんでいるようにも感じられました。家族同士アドバイスしたり、同じ悩みを共有したりと、苦勞話だが笑い話として話している姿が印象的でした。また患者からは普段言えない感謝の気持ちを伝えたり、終始和やかな雰囲気での茶話会でした。

平成 24 年 5 月 20 日には、平成 22 年 5 月～2 月までの介護教室参加者を対象に、退院に向けての指導から、退院後の在宅生活に沿った指導とし、「無理をしない介護」をテーマに、介護技術を指導して行くことを目的としたフォローアップ教室を開催しました。退院して 3 か月～1 年が経過した家族が 5 名参加しました。参加者は、4 名は退院して 1～3 か月目。1 名は既に 9 か月目であり懐かしさでの参加だった。退院して 3 か月目にアンケートを依頼しているが、その時にはフォローアップ教室への参加を希望しているが、時が経つにつれ何らかの対応策を自ら見いだせている方が多く、最終的には必要性があまり感じてない家族が多くなっている。自己紹介時の現状の話は興味深く聞き入っている様子から、同窓会へのニーズが高いと感じました。次回は、趣向を変え同窓会への参加を促し、介護の先輩としてのアドバイスを貰う方法としていくことを考えています。

（10）患者参加型プロジェクトリーダー会議

- 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）
 - 委員長：橋本 祐子
 - 委員：阿部 正子、笹野 彩乃、中井 浩美
 - 顧問：看護部長 黒井 有子
- 目的
 - ア) 患者参加型ファイル実施率 100%達成
 - イ) ICF の精神を学び、看護計画へ活かす
- 運営
 - 月 1 回 第 2 金曜日 15：30～16：30
- 開催報告

開催日	議事内容	参加数
4/19	・看護まつり委員会（4・5 月のみ） （5 月 18 日実施予定 準備・検討）	4
5/18	・看護まつりを実施・反省会	4
6/8	・今年度の目標確認 ・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・介護指導について ・各階の参加型ファイルを持ち寄り、内容を検討	4
7/13	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・ファイルの置き場所の周知徹底 ・各階からの検討事項	4
8/3	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項 ・介護チェックリストについて	4

開催日	議 事 内 容	参加数
8/3	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項 ・介護チェックリストについて	4
9/14	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・ファイルの内容改善について検討 ・各階からの検討事項	4
10/22	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項	4
11/16	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項	3
12/14	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項	4
1/11	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項 ・介護チェックリストについて	5
2/14	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階からの検討事項	4
3/8	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・介護チェックリスト について ・各階からの検討事項 ・1年間の反省会	5

➤ 活動計画

- ア) 今年度も患者参加型ファイル実施率を上げていくために毎月発表。
- イ) 介護が必要な患者・家族に対する介護指導チェック表の開発・使用・評価
- ウ) 看護まつりの企画・運営
- エ) ファイル内の用紙を修正・評価

(11) 外出・外泊推進検討プロジェクト

➤ 人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

- 委員長：松原 昌子
- 委員：松田 裕美、行方 信
- 顧問：看護部長 黒井 有子

➤ 委員会方針

在宅復帰を決定するために外出・外泊の体験が欠かせないものであるという事を認識し、それが安全安心に行えるよう部署を超えて支援する。

➤ 目 標

病棟・職種を超えて外出・外泊の為のアプローチを確立する

➤ 成果目標

- ① 自宅退院については退院 1 か月以上前から 1 回以上の外泊を行うことができる
- ② 安心して外泊に行くための方策を検討
- ③ 外出・外泊後の評価

➤ 運 営

毎月第 4 火曜日 15：30～

➤ 委員会開催

月日	議事内容	出席数
4月	・外出外泊実績数・指導書作成計画	4
5月	・外出外泊実績数・外泊説明用紙完成・起き上がり方の説明書完成	5
6月	・外出外泊実績数・嚙下指導について	5
7月	・外出外泊実績数・勉強会計画・外泊チャンス日・車椅子指導	4
8月	・未実施	
9月	・外出外泊実績数・RH向けアンケート・勉強会のアンケート集計中	3
10月	・外出外泊実績数・外出訓練・9月勉強会アンケート結果報告	4
11月	・外出外泊実績数・車椅子スロープ購入について	4
12月	・外出外泊実績数・年末年始外泊について	3
1月	・外出外泊実績数・外泊指導に向けての用紙作成・退院後訪問・外出訓練	4
2月	・外出外泊実績数・外出をお考えの方に・車椅子スロープ購入について・RHS指導の窓口について・次年度の課題	4
3月	・外出外泊実績数・RH指導連絡・プロジェクトにRHスタッフ誘うことについて	3

外出・外泊中に転倒・内服ミスのアクシデントあり。安全に実施できるよう、事例を各部署で把握し再発に努める必要あり。外泊説明用紙は活用できている。

外泊実施率72%、自宅退院事例でも実施できていないケースあり。担当スタッフ中心に推奨していく。

4階病棟で外出訓練、3階・2階病棟で院内での車椅子指導を開始。安全に外出受診できるようになってきている。また、4階では外出率が向上している。現状では訓練日のスタッフ負担が大きいため、今後方法を再検討していく必要あり。3階・2階病棟では実施率を向上させるために方法を検討していく必要あり。

2 F 病棟

課長 日坂 典子

病棟概要

▶ 患者概要

2階病棟は43床の回復期リハビリテーション病棟です。

疾患別では脳血管障害約72%、骨関節疾患約22%、廃用症候群約5%です。平均在院日数は82.5日となっています。

在宅復帰率は80.4%と昨年度より上昇しています。今後も在宅へ向けてのアプローチを行っていきたいと思います。

▶ スタッフ概要

1年間で中途入職者、退職者、異動が数名ありましたが、平成25年3月31日現在、常勤が看護師18名・准看護師1名・介護福祉士6名・看護補助3名、看護クランク1名、非常勤が看護師1名・介護福祉士1名・看護補助3名で構成しケアにあたりました。

※産休・育休職員を除く

職種	役職	氏名
看護師	課長	日坂 典子
	副主任	松原 昌子、井関 和江（臨床指導者）
	臨床指導者	阿部 正子
	スタッフ	菊池 園香、堤 克美、丸田 真理子、小池 美由紀、佐藤 静香 中村 理恵、松田 美紀、林 奈央子、西本 真那実、重田 愛子 鈴木 揚子、日野 貴子、影山 智子、山崎 藍、木皿 みつる
准看護師	〃	周 紹萍
介護福祉士	〃	大和田 清香、間宮 宏樹、根岸 由佳、西脇 千恵美、檀 智子 林 美津江、岩切 かず美
看護補助	〃	橋本 禮子、神田 美佐子、高山 洋平、大沢 由美子、 森北 美沙、秦 巖
クランク	〃	中野 マユミ

病棟目標と経過

▶ チームアプローチを発揮して患者・家族へ適切な環境を提供する

ア) 安全な環境の提供

アクシデント「0」KYT、5R、5Sの定着を計画として挙げてきましたが、転倒転落、誤薬の件数が多い状況となっています。日々のカンファレンスの充実、アセスメント能力の向上を図り、継続したリスク管理を行っていく必要があると考えています。

イ) 快適な環境の提供

患者が安心してリラックスした状況での入浴環境を目指してきましたが、業務的になってしまいうこともあり、目標達成には至りませんでした。遊びリハビリテーションの充実に関しては、介護福祉士を中心に運営し強化日を設けたことで、看護師も積極的に参加し、患者と楽しい時間を共有できるようになりました。

ウ) 患者・家族の思いに寄り添ったチーム作り

患者参加型看護計画の充実をはかるために参加型ファイルの見直しを行ない、患者にあったファイルを作成することができました。また、モジュール会議の定着を図ったことで、担当看護師・介護士のみが知り得ていた情報を共有することができるようになりました。多職種でのカンファレンスの充実を図り、更に患者・家族に寄り添った看護・介護を提供していきたいと考えております。

➤ 回復期リハビリテーション病棟スタッフとして使命を理解する

ア) 日常生活機能評価 B 項目 10 点以上患者の受け入れ：30%

日常生活機能評価をモジュール単位で実施し、評価のばらつきをなくした。日常生活機能評価 10 点以上の患者の受け入れは 42%と目標はクリアできました。

イ) 在宅復帰率：80%

患者参加型ファイルの見直しや介護教室への参加を促すことで、在宅復帰率は昨年度に比べ、80.4%に回復することができました。

ウ) 自宅退院患者の外出・外泊訓練率：90%

自宅退院患者への外出・外泊訓練率は目標を達成することは出来なかった。これは自宅の状況が整わない中で外出・外泊が困難なこともあります。短時間の外出からでも家族に促せるような関わりを、引き続き行っていききたいと思います。

➤ 回復期リハビリ病棟スタッフとして、看護人・組織人としての成長

ア) 院外研修への参加

埼玉県看護協会の研修など、早期に参加希望をとり参加を促したことで、ほぼ全員が研修に参加することができました。介護福祉士も全員が院外研修に参加できるような関わりを継続し、伝達講習することで病棟スタッフの成長を図っていききたいと思います。

イ) モジュール会議・リーダー会議の連携

モジュール会議は昼のカンファレンス時間を利用して定着することができたが、リーダー会議の定着が図れなかったため、連携をはかることは出来ませんでした。今後もモジュール会議を継続しながら会議の質を向上し、リーダー会議の定着により、より良い看護・介護が提供できるように情報の共有に努めていきます。

ウ) 介護職会議の定着

介護職会議は毎月の開催は出来ませんでした。今後も継続し介護職の働きやすい環境の整備と、より良い介護の提供に向けた環境作りを実施していきたいと考えております。

3 F 病棟

課長 坂口 信恵

病棟概要

➤ 患者概要

平成 24 年度の入院患者の疾患別割合は、脳血管疾患 73.0%・整形疾患 22.9%・廃用症候群 1.9% でした。12～1 月と脳血管疾患・整形疾患の入院が極端に多い月があり、平均在院日数は 108.6 日でした。また、重症患者を 44.3%受け入れ、83.1%と高い改善率を出しています。患者・家族の背景として、認知症・高齢者の独居・独身者が多く、さらに家族の介護力の低下、要介護度の高い患者、家族間に複数の要介護者がおり、困難なケースもありましたが自宅退院率は 84.2%と昨年より上まることができました。

➤ スタッフ概要

一年間の動態は、中途入職者・退職者・異動の転出が数名あり、平成 24 年 3 月 31 日現在で看護師 14 名、准看護師 5 名、介護福祉士 9 名、看護補助 1 名の計 29 名で患者・家族ケアにあたりました。それぞれのライフスタイルで産休・育休・介護休暇と一年を通して頻繁にありましたが、既存のスタッフと病棟を越えての協力で乗り越えることができました。また、潜在看護師の復職支援にも力を入れています。

※産休・育休職員を除く

職 種	役 職	氏 名
看 護 師	課 長	坂口 信恵
	主 任	
	副 主 任	清水 睦子、佐藤 絵馬
	臨 床 指 導 者	本橋 亜紀子
	ス タ ッ プ	松田 裕美、仲村 奈美、笹野 彩乃、古川 ゆかり、白尾 裕子 山田 千恵子、大野 寛子、鈴木 淑江、坂下 志穂、菊地 君江
准 看 護 師	〃	中野 和子、吉池 典子、佐藤 純子、有路 さつき、永井 和也
介 護 福 祉 士	〃	小林 里子、平野 久子、青木 智恵、秋元 力也、在原 芽久 加藤 多賀子、青木 慎吾、倉持 雄一、崔 承光
看 護 補 助	〃	春山 泰子

病棟目標と経過

➤ 患者・家族を中心に、医療チームで今後の新たな生活への再構築を支援できる

重症患者をスムーズに受け入れるシステム作りとして、ベットコントロール方法の整備、看護必要度にあわせた人員配置、病棟を超えての支援システムの充実、業務のスリム化、亜急性期看護ケアの充実、チームアプローチの強化、看護師・介護福祉士との協働受け持ちによる重症患者への支援の強化、外出・外泊訓練の標準化、摂食嚥下訓練のシステムの強化を実施しました。目標に挙げた数字目標はほぼ達成できました。4 月の診療報酬改定後、早期に新・回復期リハビリ病院入院料 1 を取得することができました。

➤ 個々にあわせた家庭に繋げるための生活環境作りができる

患者家族参加型看護計画（実施率 80%）介護教室推進委員会との連携（実施率 50%）安全・安心・安全な癒しのある環境作り（患者家族満足度調査より 70～80%）を実施しました。全患者を対象に参加型看護計画をプロジェクト委員からアプローチしました。患者・家族の声を大切に、思いの表出を心がけたことで多くの患者を自宅退院させることに繋がったと思います。また、介護教室へは定期的な参加があり委員会との連携も、ノートを利用した連携をしました。病棟スタッフからは、指導導入に役立ったとの声が聴かれました。さらなる連携を強化するための検討が今後の課題と考えています。

癒しのある環境作りでは、各委員会を中心に活動出来ました。特にインシデント・アクシデントでは、スタッフによる約束違反でのインシデントが前年度（101 件）より半減（53 件）しました。身体拘束委員を中心に、カンファレンスが充実でき、できるだけ患者への心理的負担を軽減する努力をしました。

患者が楽しみにしている入浴は、プライバシー保護とゆっくりできる視点で対応を心がけました。リハビリ時間を確保するために、一部業務的になってしまったところがありましたが、引き続き同じ視点で取り組んでいきます。

➤ 看護・介護者として、組織人として成長できる

クリニカルラダーレベル 8 名アップ（1～2 段階）、院外看護研究発表 1 件、院外院内研修参加は、一部分のスタッフは自己のスキルアップに向けて積極的な参加が見られましたが、促さないで参加が得られない状況は続いています。病棟会を利用して伝達講習を計画しましたが、毎回過半数以下の参加率で思うように進みませんでした。伝達講習、周知する場にするため、2 月より勤務調整をしました。来年度も継続していきたいと考えています。

年 3 回の所属長による面接を実施しています。定期的な面接の中で、目標シートが有効に活用できるように心がけました。目標達成率 70～80%であり、前年度の振り返り、課題も見いだせていました。職員満足度調査からスタッフのやりがい感 75%でした。有給休暇取得率 100%。今後は 25%のスタッフのやりがい感をフォローしていきたいと考えています。

4 F 病棟

係長 橋本 裕子

病棟概要

➤ 患者概要

平成 24 年度の入院患者の疾患別内訳は、脳血管疾患 72%、整形疾患 20.4%、廃用症候群 5.7% の割合でした。

また、診療報酬が改定された為、回復期リハビリ入院基本料 1 が増額され、重症者の割合や改善率・在宅復帰率も数値が改定されました。

重症受け入れ患者が 40%と昨年度に比べて 2 倍近い割合でした。また、改善率は 58.1%と高い数値を出しています。平均在院日数は 84.6 日と昨年度より 9.2 日少なくなっており、在宅復帰率も 78.7%と既定を超える事が出来ました。これも外出・外泊を多く体験してもらったことも関連していると思います。

そして、老々介護・認知介護・日中独居となる高齢者の患者も多く、退院指導・介護指導に力を入れていきます。

➤ スタッフ概要

平成 25 年 3 月 31 日現在の職員は看護師 17 名、准看護師 4 名、介護福祉士 6 名、看護補助 4 名、看護クラーク 1 名の計 32 名で構成され、患者のケアにあたりました。

今年度は、新卒 3 名、中途入職者 2 名が入職し、新卒入職者へはプリセプターを通し障害を持った患者の心理・患者・家族を含めた関係作りを中心に病棟全体で支援してきました。

また何名かの退職・転勤者が出ましたが、既存のスタッフと共に協力し、いくつかの困難を乗り越え、チーム力を発揮しながら、在宅復帰率を前年度より上げることができました。

※産休・育休職員を除く

職 種	役 職	氏 名
看 護 師	係 長	橋本 祐子、今川 寛海
	副 主 任	加藤 正美、野口 亜紀子
	臨床指導者	今川 寛海、石田 陽子、加藤 正美
		渡辺 美智子、橋本 恵美子、佐藤 瑠夏、行方 信、本下 早苗 佐藤 秀美、大川 輝美、井口 眞理、関根 美紗緒、内田 日和
准 看 護 師		中井 浩美、土川 純子、蛭田 菜月、土屋 彩乃
介 護 福 祉 士		大森 真由美、斎藤 紘子、井汲 咲貴、吉田 祐功、高田 たず子 峯岸 史恵
看 護 補 助		田代 都子、渡邊 恵、野島 幹子、湊 綾乃
ク ラ ー ク		榊原 薫

病棟目標と経過

➤ 自宅生活が快適に過ごせる環境の支援をする

今年度特に力を入れたことは、自宅生活を快適に過ごす事を考えて、チームカンファレンスや他職種と意見交換を多く行いました。その結果、在宅復帰率を 78.7%と目標の 75%をクリアすることが出来ました。家族指導・介護指導 8 例実施し、快適に過ごせるように努めてきました。重症者が多く、指導ができなかった患者・家族も存在しました。次年度からは、重症者の方も指導が出来るように、スタッフ全員でスキルアップしていきます。

さらに、今年度は入院1か月以内の患者を中心とした外出訓練を開始し、18組の方に出席して頂きました。また、1週目ICでの指導を強化し、外出・外泊に移行できるように指導を続けてきました。そのため、外出・外泊の延べ人数は、366名と昨年度より51名増やすことが出来ました。

また、摂食・嚥下プロジェクトでは昨年度できなかった口腔ケア指導を1例実施し、自宅退院に向けての準備態勢が整いました。

➤ 入院生活が安心・安全で過ごせる環境をつくる

個々の受け持ち患者・家族との時間を取るように、患者参加型ファイルを使用しています。

今年度の患者参加型ファイルの実施率は、62.9%の達成率であり、目標の100%よりも低い数字となりました。次年度は、スタッフ全員が意識をして実施率を上げて退院された後も活用できるファイル作りをしていきます。

アクシデントレポートについては、多職種で話し合い再発に努めてきましたが、外出時での転倒など外出時に起きるアクシデントがありました。次年度は、外出・外泊時には家族指導を徹底しアクシデント数を減らす努力を考えています。

また、今年度から急変時の対応や亜急性期の看護を学習し、病棟集会でも勉強会を実施して、準備体制を整えています。

入浴時の配慮としても、入浴まで自室や食堂で待っていただくようにして焦らせない入浴を実施しています。

遊びリテーションのマンネリ化をなくし、飽きないように工夫をしています。

➤ 専門家としての知識・技術を付けて成長する

看護・介護人として成長する為に、研修会の参加を促していますが、ママさんナースが多い現状として、全員は参加できませんでした。そこで、病棟集会を利用し研修後の伝達講習を3回行いました。今後も継続していけるように講習会数を増やしていきます。

今年度も、年3回、面接を実施し、スタッフの目標達成にできるように働きかけてきました。

個々の取り組んでみたい事、1年後の自分の展望について話しながらスタッフの看護感・介護感を引き出せるように取り組みました。今年度、個々の目標達成率が50%と半数のスタッフが、達成感を実感できました。

また、クリニカルラダーⅠ－2・Ⅱ－1・Ⅱ－2レベルのスタッフが1ランクずつ上げる事ができ、さらにⅢ－1レベルが1人から2人、Ⅲ－2レベルが1人から2人になることが出来ました。しかし、昨年度同様Ⅱ－2レベルが多くリーダーレベルのスタッフの教育が急務であります。

今年度もスタッフ育成に努力していきたいと思っております。

診療支援部門

リハビリテーション科

係長 土屋 喜隆

年次報告

リハビリテーション科では回復期リハビリテーションにおいて、患者さんの心身の障害像を適切に分析し、社会復帰へのスムーズな移行を目指して業務を行っております。

24年度に入り新たに新入職員を迎え、スタッフ数、PT47名、OT31名、ST18名合計96名のスタッフで365日体制の業務に取り組んでまいりました。今年度は大きく以下の4つの項目を目標に掲げて質の高いリハビリテーションを提供できるようスタッフ一丸となって勤めてまいりました。

① 休日リハビリテーション提供加算（休日を含め週7日間のリハビリテーションの提供）とリハビリテーション充実加算（一人一日あたり6単位以上のリハビリテーションの提供）の提供

結果：共に目標は達成することができ、患者様一人に対し1日あたり脳血管疾患患者で平均8単位以上、運動器疾患患者で平均7単位以上、全体平均8単位を提供できた。

② スタッフ連携・教育の充実

結果：例年同様週2～3回の科内勉強会を実施し個々の知識・技術の向上に努めると共に「プリセプター・クラスター制度」を継続しております。また、クラスター内での後輩・先輩セラピストと共同治療を行うなど、より臨床の場面での意見交換・指導を行いより一貫したリハビリを提供しております。また、中堅スタッフが指導する機会が増えたことで指導する側としてのスキルアップ、意識改革にもつながっており双方に相乗効果をもたらしていると考えています。また、研究チームを5人～10人程度のグループで編成し年間を通し活動し、外部へ向けた学術発表致しました。

③ 地域での医療連携強化

結果：戸田地域訪問リハ事業に関して、10月より訪問リハビリテーション上戸田から戸田リハクリニックへ完全移行となり、訪問リハ職員常勤PT4名で活動致しました。また、当地域での在宅・外来リハビリテーションの充実、自宅退院後のリハビリ充実を目標に戸田中央総合病院、GV蕨、GV安行、戸田リハクリニック間にて患者さんの情報交換や勉強会の共催など、施設間連携がはかれました。人事交流としても異動を積極的に行えることができました。

④ 回復期リハビリテーション病棟入院料1 継続

結果：各病棟にて各職種リハビリ専従の増員、新規入院重症患者3割以上の受け入れに対し退院時、日常生活機能改善3割以上の獲得、在宅復帰率7割以上という条件を全て満たすことができました。

その他として、業務内容の充実・効率化として、電子カルテ・オーダーリングシステムを用いてリハビリテーションに必要な情報をリアルタイムに引き出し、リハビリスケジュール調整、多職種間の情報交換ツールとしても活用してまいりました。今後もシステムの見直しを踏まえて委員会・職種間で話し合い、患者さんへのサービス内容の充実につなげていきたいと考えています。

人員構成 (平成 24 年 4 月 1 日現在)

役 職	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
部 長	野宮 一志 (TMG リハ部部長)		
係 長		土屋 喜隆	
主 任	湯浅 晃史 小峰 隆弘 鈴木 敦子	中川 崇之	一木 友徳
副主任	竹内 章朗 原田 慎也 竹林 淳子 清水 達也 亀井 達也	須賀 あさ子	

役 職	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
科 員	恩田 朋子 早川 麻美	米沢 真理 櫛田 来実	小森 綾子 池澤 玲奈
	本多 直道 岩村 高志	中村 実 田村 耕	渡邊 有希子 奥山 みゆき
	鈴木 由喜枝 柏瀬 周示	石井 美帆 岩波 千咲	郷 麻衣子 堀口 紗智
	愛澤 泰之 栗城 大輔	久下 沼 薫 滝沢 宏和	中村 悠輝 志塚 千紘
	佐藤 香織 鈴木 勝年	池之上 和樹 朝倉 未紗	戸田 香純 高尾 奈生子
	関 正利 白井 秀忠	甫仮 拓郎 赤羽 良介	河野 杏奈 吉田 美穂
	廣瀬 利彦 真嶋 菜穂	松永 郁美 鈴木 麻未	一戸 安希子 星 友基
	水上 有映 森田 悠太	梁川 統史 長谷川 雄一	川上 真梨 原田 夏実
	吉池 史雄 神田 一樹	深井 祥 柏木 智絵	中垣 友徳
	高 英玉 小林 賢司	須藤 由佳 鈴木 茜	
	下日向 健太 鳴海 真悠子	細谷 洋子 塩澤 明日美	
	丸山 英樹 山田 結香子	斉藤 真奈美 駒木根 麻沙子	
	吉井 亮太 眞島 圭祐	緑川 陽子 吉清水 理子	
	大塚 香菜 渡辺 裕之	磯崎 佳代子 根本 直宗	
	吉野 智美 森田 康昭		
	内山 優 岩澤 悠		
	金栗 亮介 金子 佳奈		
	関口 彩花 原谷 美紀子		
	室田 晴美 山口 俊哉		

運営方針

① リハビリテーション科理念 “心 技 体で心を救う”

② 理念の実行方法

- ア) 出会った人々を大切にし、尊重し、自らの人間形成につなげる
- イ) 患者さんのため、そして自分のため積極的に専門的知識・技術を豊にする機会を作る
- ウ) 自らの健康管理に留意し、常に最高の状態で患者さんに接する

③ 目標とするセラピスト像

- ア) 患者様の QOL 向上を最大目標とし、それにつながる ADL、つまり患者さんが意識をせず生活の一部となるような心地よい ADL を提供できるセラピスト

- イ) その実現のために OT、ST、PT の専門知識・技術の向上に努め、更に所属施設の特徴に対応できるセラピスト
- ウ) 既存の専門知識・技術を基に高次の認知情報処理、すなわち想像力と創造力を働かせ、治療の仮説モデルを作ることができるセラピスト
- エ) そしてリハビリテーションプログラムの過程において他の専門職とのチームアプローチすなわち学際領域における協働を実現できるセラピスト

④ 方針

当科の主な対象疾患は、脳血管障害・廃用症候群・運動器疾患などの亜急性期、回復期であります。患者さんが、日常生活の中で「ただ動ける、ただ出来る」というのではなく、「より楽に、より心地よく、より様々な場面で自由度が高く、より機能的に動ける」というように、つまり本当の意味で生活の一部となるような行為動作の治療を施行しています。

患者さんを中心としたチームが、共通理解の得られた目標に向かうチームアプローチのコンセプトを基本と考えています。そのためにも、PT/OT の治療スペースは同リハビリテーション室内に設定しており、ST 室も隣接した設定としています。

また、当院から社会復帰へとスムーズに橋渡すために、他の医療機関である老健、特養、外来リハビリテーション、在宅リハビリテーション機関との連携をとり情報交換をすると共に、カンファレンスや家屋調査を、患者さんの必要度に合わせて行っています。

また、電子カルテ・オーダーリングシステムをより効率的に使用することにより、増加する新入職員への教育体制を強化、「質の高いマンパワー」を育成すること、それにより患者さん一人一人に必要なリハビリテーションサービス・時間をしっかりと提供できる環境を整えていきたいと考えています。

おわりに、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の維持に向けて近隣地域医療機関からの重症患者様の受け入れ、その患者様の日常生活活動の改善、そして入院患者様の在宅復帰率の向上を目標に今年度以上に質の高いリハビリテーションを提供していくために来年度も人員育成として技術・知識面、精神面を充実できるよう積極的に取り組んでいきたいと考えています。

実績

➤ 24 年度疾患別

内 容		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
脳血管疾患等	算定人員	115	124	123	123	116	123	113
	単位数	22,387	23,471	24,101	24,500	23,139	21,882	23,752
廃用症候群	算定人員	9	7	4	6	11	12	11
	単位数	1,656	964	622	949	1,509	1,837	1,583
運動器疾患	算定人員	47	43	47	45	45	44	42
	単位数	5,471	6,707	6,553	7,521	7,990	6,824	6,751
初期加算	算定人員	0	0	2	1	2	0	1
	単位数	0	0	24	15	50	0	17
早期加算	算定人員	22	26	21	12	26	17	23
	単位数	898	908	1,161	434	1,419	846	1,119
摂食機能療法	算定人員	43	43	38	47	46	45	49
	単位数	715	706	698	871	871	781	819
リハ総合計画評価料		136	145	141	139	141	140	135
退院時指導		0	0	0	1	0	0	1

診療支援部門－リハビリテーション科

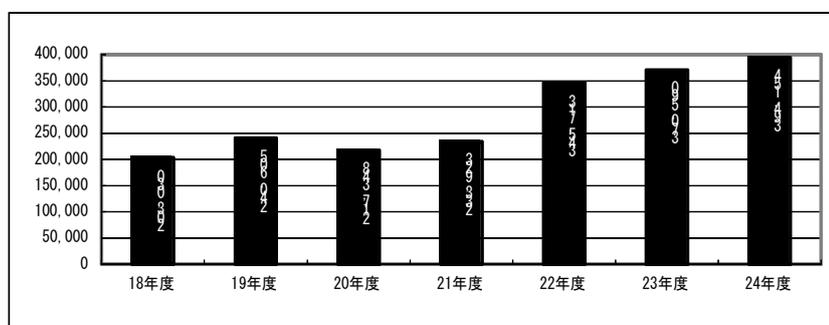
内 容		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
脳血管疾患等	算定人員	115	113	116	120	131	1,432	119.3
	単位数	22,145	23,019	22,732	23,228	24,507	278,863	23,238.6
廃用症候群	算定人員	13	9	8	4	4	98	8.2
	単位数	1,857	1,642	962	392	588	14,561	1,213.4
運動器疾患	算定人員	37	43	47	42	36	518	43.2
	単位数	6,338	7,198	6,926	5,758	5,872	79,909	6,659.1
初期加算	算定人員	3	2	0	0	1	12	1.0
	単位数	80	39	0	0	103	328	27.3
早期加算	算定人員	24	25	14	6	4	220	18.3
	単位数	961	1,299	597	266	112	10,020	835.0
摂食機能療法	算定人員	41	41	41	32	41	507	42.3
	単位数	738	798	660	455	712	8,824	735.3
リハ総合計画評価料		136	138	130	129	136	1,646	137.2
退院時指導		0	0	0	0	0	3	0.3

➤ 平成 24 年度疾患別リハビリテーションの算定状況平均値（月別にて集計）

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
脳血管疾患等	8.25	8.31	8.43	8.40	8.37	8.18	8.62	8.65	8.57	8.02	8.39	8.10
廃用症候群	6.99	6.47	8.18	8.19	7.94	7.59	8.04	7.80	7.33	6.50	6.32	6.46
運動器疾患	5.93	6.54	7.08	7.75	7.78	7.39	7.86	7.86	7.53	6.90	7.29	6.59
合 計	7.62	7.78	8.10	8.24	8.20	7.96	8.42	8.42	8.25	7.69	8.11	7.72

➤ 年度別推移

内 容	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
a. 脳血管疾患等	単位	153,196	182,452	188,555	189,487	251,810	267,951	278,863
b. 廃用症候群	単位	-	-	-	-	13,338	17,319	14,561
c. 運動器	単位	13,880	24,355	22,635	28,896	61,419	62,915	79,909
d. 初期加算	単位	-	-	-	-	-	-	328
e. 早期加算	単位	-	-	4,089	7,241	8,619	12,027	10,020
f. ADL加算	単位	34,572	33,110	-	-	-	-	-
g. 摂食機能療法	回	548	681	1,238	7,167	8,974	8,823	8,824
h. 退院時リハビリテーション指導料	件	37	7	2	3	1	2	3
i. リハビリテーション総合計画評価料	件	797	-	829	1,132	1,552	1,553	1,646
合 計		160,266	203,030	240,605	217,348	345,713	348,185	373,333



実習生受入れ

➤ 目的

養成校で修得した知識と技術を、臨床で確認し、患者の評価・目標設定・プログラム・治療・リスク管理等を、実践的に学習させ、スペシャリストとしての知識、技術を習得させる。

➤ 実績

ア) 理学療法部門

No	期間(開始～終了)	養成校	内容	学科
1	5/28～7/20	仙台医療技術専門学校	臨床(7W)	PT
2	6/18～8/4	杏林大学	臨床(8W)	PT
3	8/1～8/7	社会医学技術学院	検査(1W)	PT
4	8/6～9/29	臨床福祉専門学校	臨床(8W)	PT
5	8/26～10/12	了徳寺学園リハビリテーション専門学校	臨床(8W)	PT
6	9/24～9/29	社会医学技術学院	見学(1W)	PT
7	10/8～12/1	東都リハビリテーション学院	臨床(8W)	PT
8	1/7～2/16	医学アカデミー	評価(6W)	PT
9	1/15～3/9	日本医療科学大学	臨床(8W)	PT
10	2/18～3/8	埼玉県立大学	評価(3W)	PT

イ) 作業療法部門

No	期間(開始～終了)	養成校	内容	学科
1	4/9～6/1	北里大学	臨床(8W)	OT
2	4/9～6/1	新潟医療福祉大学	臨床(8W)	OT
3	6/4～7/20	埼玉県立大学	臨床(7W)	OT
4	8/6～8/7	目白大学	見学(2日)	OT
5	8/27～10/19	昭和大学	臨床(8W)	OT
6	9/3～9/15	横浜リハビリテーション専門学校	評価(2W)	OT
7	10/22～12/2	国際医療福祉大学	臨床(6W)	OT
8	10/29～11/16	日本リハビリテーション専門学校	評価(3W)	OT
9	1/15～3/9	日本医療福祉大学	臨床(8W)	OT
10	1/28～2/9	帝京平成大学	評価(2W)	OT
11	2/18～3/8	埼玉県立大学	評価(3W)	OT

ウ) 言語聴覚療法部門

No	期間(開始～終了)	養成校	内容	学科
1	H24 5/14～6/23	国際メディカルテクノロジー専門学校	評価(6W)	ST
2	H24 7/2～8/25	西武学園医学技術専門学校	臨床(8W)	ST
3	H25 2/25～3/23	帝京平成大学	評価(4W)	ST

外部学会・研修会参加記録

No	月 日	研修名	内容	参加者
1	5/12	重度脳障害者のシーティングセミナー	その他	小峰
2	5/19～20	環境適応講習会「移動からの応用歩行」	中枢	竹内他 4名
3	5/31	診療報酬改定研修会	その他	土屋、木村
4	8/4～5	第 17 回新潟神経言語障害学セミナー	中枢	吉田
5	8/5	非麻痺側から考える片麻痺の ADL アプローチ	中枢	田村他 2名
6	8/31～9/1	呼吸療法認定士講習会	循環	真嶋他 6名
7	9/15～17	第 9 回訪問リハビリテーション管理者研究会	その他	倉林
8	10/11～13	リハビリテーション・ケア合同研究会札幌 2012	その他	小峰
9	11/3,4,17,18	環境適応講習会 in 新潟	中枢	甫仮
10	11/10,11,24,25	環境適応講習会	中枢	吉田
11	11/24～25	第 8 回シーティングシンポジウム	その他	小峰
12	12/16	作業療法士が関わる摂食・嚥下	中枢	赤羽
13	12/22～23	運動制御を改善させる為の評価と介入	中枢	鈴木
14	7,9,10,11,1月	理学療法士臨床ブラッシュアップコース	整形	真水
15	2/2	回復セラピストマネージャー フォローアップ研修	その他	土屋

TMG 内研修参加記録

No	日程	研修会名	講師等
1	24. 4.7	新人教育プログラム「放射線科の業務内容および臨床画像について」	
2	24. 5.12	新人教育プログラム ・「臨床検査とは ～TMG における臨床検査部の職域紹介 ・「主な検査データの見方～各検査の意義」 ・「感染予防」	木暮 憲幸（戸田中央臨床検査研究所） 塚原 晃（戸田中総合病院検査科） 川又 大右（戸田中央臨床検査研究所）
3	24. 6.16	新人教育プログラム「摂食・嚥下」	赤沼 賢吾（戸田中央総合病院）
4	24.7.7	新人教育プログラム「脳神経疾患の理解のために病態の理解に役立つ画像の見方」	杉浦 誠（熱海所記念病院）
5	24.8.18	新人教育プログラム「リハビリテーション部プレリーダー研修（3年目対象）」	箕輪 由紀子（TMG 本部人事部）
6	24.9.1	PT 部会「急性呼吸不全に対する呼吸理学療法」	岸川 典明（愛知医科大学病院）
7	24.10.20	ST 部会「認知症について」	植田 恵（帝京平成大学）
8	24.12.1	OT 部会「高次脳機能障害心と身体で支えるリハビリテーション」	橋本 圭司 （独立行政法人成育医療研究センター）
9	25. 1.5	新人教育プログラム ・「片麻痺患者の起居動作について －PT の視点 私の視座」 ・「心血管疾患リハビリテーション」 ・「呼吸リハビリテーション」	馬場 志（新座志木中央総合病院） 柳 英利（新座志木中央総合病院） 渡邊 賢治（新座志木中央総合病院）

No	日程	研修会名	講師等
10	25. 1.12	新人教育プログラム ・「急性期の作業療法」 ・「新人教育プログラム総論 OT 領域」 ・「新人教育プログラム OT 領域 当院療養病棟における作業療法」	大塚 長門（西東京中央総合病院） 土屋 喜隆（戸田中央リハビリテーション病院） 小泉 雪子（東所沢病院）
11	25.2.2	戸田地域勉強会「訪問リハビリを取り 巻く環境と制度、訪問リハビリの実際」	倉林 泰士郎（戸田中央リハクリニック）
12	25. 2.23	新人教育プログラム「呼吸器領域の画 像診断」	山梨 美紀夫
13	25.2.25、 27	リハビリテーション部役職者研修	箕輪 由紀子（TMG 本部人事部）
14	25.3.2	OT 部会「情動と感情とリハビリテーシ ョン」	野宮 一志（戸田中央総合病院）
15	25.3.13	ST 部会「情動と感情とリハビリテーシ ョン」	野宮 一志（戸田中央総合病院）

薬剤科

係長 古賀 雅恵

年次報告

平成 24 年度は薬剤師の退職があり、人員不足に悩まされた一年でした。研鑽については、看護部との共同演題で学会発表を行うことができ、大きな成果が得られたと思います。

新たな試みとして、入院判定会議に薬剤師として毎回参加しました。参加することにより入院前はもちろん、入院後の薬剤治療が以前より円滑に行えるようになったと感じます。

前年度に引き続き看護部主催の介護教室に参加しました。患者さんの家族からの質問も少しずつ増え、薬剤師として活躍できる場と認識し、今後も積極的に参加して行く予定です。

病棟業務では今年度も『カンファレンスへの参加』ができず、満足のゆく内容が得られませんでした。

平成 25 年度は薬剤師の人員確保の継続と更なる研鑽、チーム医療の一員として行う病棟業務に力を入れて行こうと思います。

人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

係 長：古賀 雅恵
科 員：楊箒 有理

発行物

①院内採用医薬品集	2 回
②薬効順医薬品集	2 回
③DI ニュース	11 回 (No113～No123)
④薬剤科からのお知らせ	33 回
⑤おくすり通信	2 回 (No20～No21)

薬剤の種類（平成 25 年 3 月 31 日現在）

採用薬品種類	231 種類
新規採用薬品種類	13 種類
使用削除薬品種類	3 種類
要事採用薬	36 種類

院内副作用報告

No	報告日	副作用等の症状・異常所見	報告	
			厚生労働省	製薬会社
1	24.6.1	肝機能障害	×	×

実績

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
処方箋発行枚数	859	921	742	876	900	789	850
入院	856	914	738	871	893	784	856
外来（院内）	3	7	4	5	7	5	3
注射箋	23	37	67	78	47	59	36
調剤件数	1,905	1,943	1,404	1,720	1,832	1,475	1,658
入院	1,900	1,925	1,396	1,713	1,822	1,462	1,900
外来	5	18	8	7	10	13	5
服薬指導件数							
算定可	0	0	0	0	0	0	0
算定不可	127	142	118	137	146	105	127
退院時加算	0	0	0	0	0	0	0
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
処方箋発行枚数	820	922	920	786	856	10,241	853.4
入院	813	917	896	780	843	10,148	845.7
外来（院内）	7	5	24	6	13	93	7.8
注射箋	43	70	69	74	77	680	56.7
調剤件数	1,481	1,891	1,773	1,547	1,641	20,270	1,689.2
入院	1,470	1,878	1,744	1,534	1,619	20,110	1,675.8
外来	11	13	29	13	22	160	13.3
服薬指導件数							
算定可	0	0	0	0	0	0	0
算定不可	91	67	85	105	96	1,331	110.9
退院時加算	0	0	0	0	0	0	0

実績（DI室）

区分/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
医薬品疑義回答	5	4	6	8	12	10	14
1 薬剤鑑定	0	2	0	0	0	1	1
2 用法用量	1	0	0	0	2	2	2
3 性状	2	0	1	1	0	0	1
4 副作用	0	0	0	0	2	0	0
5 薬効・薬理	0	0	0	3	1	2	3
6 相互作用	0	0	0	0	0	0	2
7 在庫確認	1	2	4	4	7	5	4
8 その他	1	0	1	0	0	0	1
区分/月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
医薬品疑義回答	12	16	14	11	10	122	9.3
1 薬剤鑑定	0	0	0	1	0	5	0.4
2 用法用量	1	4	3	2	1	18	1.5
3 性状	1	0	1	1	4	12	1.0
4 副作用	0	0	0	1	0	3	0.3
5 薬効・薬理	7	5	1	2	1	25	2.1
6 相互作用	0	0	0	0	1	3	0.3
7 在庫確認	3	7	9	4	2	52	4.3
8 その他	0	0	0	0	1	4	0.3

学会・研修会参加

No	学会・研修会名	講師等	会場	日程
1	3 施設合同薬剤科研修会 「ミルセラ注について」	中外製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	4/4
2	3 施設合同薬剤科研修会 「緑内障について」	参天製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	4/11
3	3 施設合同薬剤科研修会 「シムレクト静注用について」	ノバルティスファーマ(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	4/18
4	3 施設合同薬剤科研修会 「フォルテオ注キットについて」	日本イーライリリー(株)学 術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	5/9
5	平成 24 年度東京薬科大学卒後教育講 座（春期）「痛風・高尿酸値血症診療 の最近の進歩」他合計 3 演題	東京薬科大学薬学部病態 生理学教室教授 市田 公美	東京医科大学病院	5/13
6	3 施設合同薬剤科研修会 「抗 MRSA 薬キュビシン静注用について」	MSD(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	5/23
7	3 施設合同薬剤科研修会 「ヒューマリン・ヒューマログについて」	日本イーライリリー(株)学 術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	5/30
8	3 施設合同薬剤科研修会 「ベタニス錠について」	アステラス製薬(株)学術担 当	戸田中央総合病院 第二会議室	6/6
9	3 施設合同薬剤科研修会 「アドエアディスカスについて」	グラクソ・スミスクライ ン(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	6/27
10	3 施設合同薬剤科研修会 「メインテート錠について」	田辺三菱製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	7/4
11	3 施設合同薬剤科研修会 「肺動脈性肺高血圧症について」	グラクソ・スミスクライ ン(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	7/11
12	3 施設合同薬剤科研修会 「ハンプ注射用 1000 について」	第一三共製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	7/18
13	3 施設合同薬剤科研修会 「大腸癌術後補助療法について」	ヤクルト(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	7/25
14	3 施設合同薬剤科研修会 「ラボナール注について」	田辺三菱製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	8/1
15	3 施設合同薬剤科研修会 「鎮静剤について」	丸石製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	8/8
16	日本病院薬剤師会関東ブロック第 42 回学術大会 「薬剤師新時代～チーム医療の新た なステージに向けて～」	日本病院薬剤師会	パシフィコ横浜	8/11 8/12
17	3 施設合同薬剤科研修会 「麻薬拮抗剤について」	アルフレッサファーマ(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	8/22
18	3 施設合同薬剤科研修会 「乳癌ガイドラインについて」	中外製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	9/5
19	3 施設合同薬剤科研修会 「ビオスリー配合錠について」	東亜新薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	9/12
20	TMG 薬剤部褥瘡治療勉強会 「褥瘡治療薬剤について～実際に触 れてみよう～」	茂原中央病院薬局長 飯塚 雄次	科研製薬(株)本社	9/15
21	3 施設合同薬剤科研修会 「ミラペックス LA について」	ベーリンガーインゲルハ イム(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	10/3

No.	学会・研修会名	講師等	会場	日程
22	2012 年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「生活者の健康支援の実践」 「メタボリックシンドロームと特定保健指導」 「バイタルサイン実践 1,2 糖尿病対応」	東京慈恵医科大学付属病院 新橋健診センター所長 和田 高士 日本医科大学武蔵小杉病院 内科学教室 網谷 賢一 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 伊藤 淳雄	明治薬科大学	10/7
23	TMG 薬剤部糖尿病研修会 「糖尿病治療薬を安全に使用する～過去の事例を今後の医療防止につなげよう～」	戸田中央総合病院 薬剤科係長 岩下 恵	戸田中央総合病院 第二会議室	10/20
24	3 施設合同薬剤科研修会 「イグザレト錠について」	バイエル製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	10/31
25	2012 年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「地域医療保険計画」 「ヘルスケア産業論」	認定 NPO 法人セルフメディケーション推進協議会 村田 正弘 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課係長 井上 健士	明治薬科大学	11/4
26	3 施設合同薬剤科研修会 「クアトロバック皮下注シリンジについて」	アステラス製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	11/7
27	3 施設合同薬剤科研修会 「クレキサソ注キット 2000IU について」	科研製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	11/9
28	2012 年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「生活者の健康支援の実践」 「目で見るバイキング」 「健康運動指導実践」	三木山陽病院栄養科管理栄養士・運動指導士 西村 登喜子 (株)健康創研代表取締役 日本健康運動研究所代表 健康運動指導士 菅野 隆	明治薬科大学	12/2
29	平成 24 年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会 「医薬品バーコードについて」 他合計 8 演題	厚生労働省医薬食品局安全対策課 医療事故情報専門官 小川 倫洋	東京医科歯科大学	12/14
30	3 施設合同薬剤科研修会 「ギリアデル脳内留置用剤 7.7 mg について」	エーザイ製薬(株)学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	2/8
31	回復期リハビリテーション病棟協議会第 21 回研究大会 in 金沢 「クオリティオブ回復期～人を幸せにするリハビリテーションを目指して～」	医療法人社団勝木会 や わたメディカルセンター 院長 勝木 保夫	金沢劇場 金沢 21 世紀美術館 石川県社会福祉会館	3/1 3/2

学会・研修会発表

- ・回復期リハビリテーション病棟協議会第 21 回研究大会 in 金沢（平成 25 年 3 月 1 日・2 日）
『入院時持参薬の確認方法及び運用管理の見直しによる効果』
口頭発表演者：楊 箸 有理

栄養科

係長 藤本 美穂

年次報告

平成 24 年度は、人員の入れ替わりがありましたが、スムーズに業務の引き継ぎができ、概ね例年通りの実施となりました。栄養指導件数に関しては、前年度に比べ月平均 2 件、年間 22 件増加となっており、嚥下調整食に対する指導が増えています。

また、前年度から取り組んできました『リゾットプロジェクト』についてまとめ、院外に発信しました。『リゾット』を食形態は全粥と大きく変わらず、多様な味覚に対応でき、かつ、少量で高カロリーな主食と定義し、院内の摂食・嚥下機能推進委員会で試食、検討を重ね、バラエティーに富んだ『リゾット』を計 5 回、患者さんに提供することが出来ました。患者さんの評判も良く、食事摂取量も増える傾向にあったことから、患者さんの食の楽しみ、満足度を上げられたのではないかと考えます。今後も継続的に実施していきたいと思えます。

現在当院では、患者さんの食事摂取場面の確認を多職種協働で行う、『摂食・嚥下ラウンド』を実施しています。来年度は栄養面からもアプローチしていくことが加わった『NST・摂食・嚥下ラウンド』に発展予定です。多職種協働で患者さんの食事摂取場面を確認すると同時に、栄養状態の確認も行なっていきます。患者さんの栄養を担う立場として、積極的にラウンドに参加していきたいと思えます。また食事相談にも力を入れ、今まで以上に患者さんひとりひとりに合わせた食事提供を行い、『食』を通して患者さんの回復に貢献していきたいと考えています。

基本理念

“衛生的で効率的な食事提供”

- ① クックチルによる温かく安全な食事提供
- ② 喫食率向上のための取り組み
 1. 患者さんひとりひとりに合った食事の提供
 2. 全ての患者さんに食事の楽しみを

人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

係長： 藤本 美穂（管理栄養士）
 科員： 深田 美佳（管理栄養士）
 委託業者： 日清医療食品北関東支店(株)

実績（栄養指導）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
栄養指導件数	16	12	8	13	10	13	6
外来	0	0	0	0	0	0	0
入院	16	12	8	13	10	13	6
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
栄養指導件数	8	14	6	9	9	124	10.3
外来	0	0	0	0	0	0	0
入院	8	14	6	9	9	124	10.3

実績（栄養指導の内訳）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳疾患	1	1	1	2	0	3	1	0	1	2	1	1	14
高血圧症	8	7	5	4	5	2	2	4	4	0	3	1	45
糖尿病	6	4	2	7	5	6	3	4	8	4	5	6	60
その他	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	5
合計	16	12	8	13	10	13	6	8	14	6	9	9	124

実績

① 実施給食数

月	実施給食数					エネルギー (Kcal)	蛋白(g)	材料費 (円/食)
	常食	軟食	流動食	治療食	計			
4月	4,515	2,976	329	3,425	11,245	1,675	66.6	759
5月	5,331	3,083	144	3,135	11,693	1,710	66.8	787
6月	5,108	3,433	122	2,657	11,310	1,714	66.7	873
7月	5,090	3,382	27	3,122	11,621	1,739	68.1	873
8月	4,384	3,677	75	3,470	11,606	1,763	68.9	860
9月	4,195	3,915	102	2,959	11,171	1,780	69.0	837
10月	4,087	4,408	121	2,518	11,134	1,753	68.3	850
11月	3,788	4,434	174	2,140	10,536	1,741	68.5	891
12月	4,101	4,646	219	2,224	11,190	1,744	68.3	862
1月	4,176	4,826	300	2,136	11,438	1,729	67.8	837
2月	4,331	4,015	243	2,021	10,610	1,751	67.7	861
3月	4,949	4,563	375	1,819	11,706	1,724	67.7	864
合計	54,055	47,358	2,231	31,626	13,5260	-	-	10,154
月平均	4,505	3,947	186	2,636	11,272	1,718	68.0	846

② 治療食の内訳（年間数／月平均）

No	治療食	年間食数	月平均食数
1	胃・十二指腸潰瘍食	706	59
2	糖尿食 I	2,149	179
3	糖尿食 II	6,027	502
4	糖尿食 III	11,402	950
5	心臓高血圧食	6,372	531
6	腎臓食	4,768	397
7	透析食	0	0
8	経管栄養	2,106	176
	合計	33,530	2,794

③ セレクト食（回数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
13	12	14	10	12	14	12	13	14	9	12	15	150	12.5

実績（行事食他）

月	行事食		その他
	日	内容	
4月	2	お造り	
	3	リゾット(鮭バター醤油味)	
5月	5	端午の節句	5/15・22・29・6/5・12・19 実習生見学
	28	お造り	
6月	25	はも・金銀豆腐	(東京家政大学短期大学部)
7月	7	七夕	
	27	土用の丑の日	
8月	13	冷しゃぶ	
	28	秋分の日	
9月	22	栗ごはん	9/25・10/2・9・16・23 実習生見学
	28	お造り	
10月	15	お造り	(東京家政大学)
11月	20	茶碗蒸し	
12月	24	クリスマス	
	31	年越しそば	
1月	1・2	おせち	
2月	3	節分	
	14	バレンタイン	
3月	3	ひな祭り	
	20	春分の日(彼岸)	

学会・研修会参加（外部）

No	学会・研修会名	主催・講師等	会場	日程
1	第55回日本糖尿病学会学術集会	日本糖尿病学会	パシフィコ横浜	5/17～19
2	総会・衛生講習会	川口保健所管内 給食研究会	川口保健所	6/15
3	第11回在宅栄養研究会	尚寿会大生病院 大前 由紀雄 他	浦和コミュニティーセンター	7/19
4	第17.18回共催 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術学会	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	札幌プリンスホテル他	8/31
5	第15回東京摂食・嚥下研究会	聖隷三方原病院 大野 友久 他	首都大学東京荒川キャンパス	10/6
6	かんたん!とろみ調整食品を使用した半固形化栄養法 ～経鼻チューブから胃ろうまで～	藤田保健衛生大学病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 三鬼 達人	和光堂西新宿ビル	10/25
7	第32回食事療法学会	(公社)日本栄養士会	軽井沢プリンスホテル	3/2.3
8	栄養関係者全体研修会	川口保健所	川口保健所	3/4

学会・研修会参加（内部）

No	学会・研修会名	会 場	日程
1	TMG 学会	東京ビックサイト	5/27
2	CMS 学会	東京国際フォーラム	9/30
3	TMG 栄養部 全体勉強会	新宿ロイヤルビル 3F ハロー貸会議室	10/20
4	TMG 栄養部 エリア別勉強会	戸田中央総合病院 第2会議室	11/7
5	TMG 栄養部機能別勉強会 症例検討会	TMG 研修センター	12/8
6	TMG 栄養部 事例発表会	戸田市商工会館	1/26

勉強会開催（栄養科内）

No	内容	出席者数	日程
1	昨年度のインシデント・アクシデントの報告	12名	6/13.14
2	食中毒について	12名	8/6.8
3	掃除について	12名	10/31.11/1
4	食品の取り扱いについて	12名	12/27.28
5	事故防止マニュアルテスト	12名	2/19.21
6	嚥下調整食について	12名	3/25.26

医療福祉科

係長 山中 寛子

年次報告

平成 24 年度は、診療報酬改定があり、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を維持するための条件が更に厳しくなりました。そのため、軌道にのるまでは多少の混乱もあった年でした。

しかし、そのような中で、910 件と前年度を越える新規の入院相談を頂くことができました。予約から入院までの待機日数は、前年度より 1～2 日のび男女共に 10 日を越えてしまいましたが、予約後のキャンセル件数は 2 件減少し 78 件に留まりました。また、自宅に退院された患者さんは、72.5%と前年度の 64%を大きく上回っており、嬉しい結果となりました。

しかし、近隣に同機能の病院も更に増えており、回復期リハビリテーション病院として、更に前進していくことが必要だという危機感も待っております。院内では、チームアプローチを柱とした新たな研修もはじまり自分たちの取り組みをフィードバックし、次の取り組みに生かしていく努力を行っています。また、そのような取り組みを行う中で、地域の関係機関の皆様との連携の重要性も再認識しております。

25 年度は、院内の連携のみならず地域の関係者の皆様との連携の重要性を改めて見直し、更によりよい関係を築けるよう活動していきたいと考えております。そして、患者さんとそのご家族に満足して頂ける取り組みを行っていききたいと思います。

人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

係長：山中 寛子
主任：川嶋 亜由美（育休中）
科員：古川 珠美、小川 留美子

直接援助業務

(1) 件数

① 診療科目別総相談件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
回復期	852	893	879	865	984	734	825	831
療養	0	0	6	8	1	0	5	1
その他	2	0	0	1	0	3	1	0
合計	854	893	885	874	985	737	831	832
区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
回復期	732	830	799	772	9,996	833	99.6%	99.7%
療養	0	2	8	0	31	2.58	0.3%	0.1%
その他	0	0	0	0	7	0.58	0.1%	0.2%
合計	732	830	807	772	10,034	836.2	100%	100%

② 援助内容別件数

No	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	受診援助	2	9	1	0	0	2	2	2
2	入院援助	318	354	343	314	384	258	328	302
3	退院援助	513	504	526	523	587	447	484	504
4	療養上の問題	7	13	10	29	12	21	16	5
5	経済的問題援助	3	2	5	3	1	6	6	1
6	就労問題援助	0	0	0	0	0	0	0	0
7	住宅問題援助	0	0	0	0	0	0	0	0
8	教育問題援助	0	0	0	0	0	0	0	0
9	家族問題援助	0	0	0	0	0	0	0	0
10	日常生活援助	0	0	0	1	0	1	1	0
11	心理情緒的援助	0	0	0	0	0	0	0	0
12	人権擁護	0	0	0	0	0	0	0	0
13	その他	1	0	0	0	0	0	0	0
合 計		844	882	885	870	984	735	873	814
No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	受診援助	0	0	0	0	18	1.5	0.2%	0.3%
2	入院援助	260	408	329	313	3,911	325.9	39.1%	34.8%
3	退院援助	447	407	471	457	5,870	489.2	58.8%	62.6%
4	療養上の問題	18	6	10	3	150	12.5	1.5%	1.6%
5	経済的問題援助	2	6	2	0	37	3.1	0.4%	0.4%
6	就労問題援助	0	0	0	1	1	0.1	0.0%	0.0%
7	住宅問題援助	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
8	教育問題援助	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
9	家族問題援助	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
10	日常生活援助	0	0	0	0	3	0.3	0.0%	0.0%
11	心理情緒的援助	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
12	人権擁護	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
13	その他	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.3%
合 計		727	827	812	774	9,990	832.6	100%	100%

③ 援助手段別件数

No	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	面 接	212	226	237	227	233	171	226	242
2	協 議・調 整	506	486	394	441	537	388	446	529
3	電 話	705	817	809	785	826	694	831	663
4	文 書	38	21	26	13	25	24	11	8
5	家 屋 調 査	1	2	5	5	3	2	7	5
6	訪 問・外 出	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		1,462	1,552	1,471	1,471	1,624	1,279	1,521	1,447
No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	面 接	186	204	171	172	2,507	208.9	14.7%	15.1%
2	協 議・調 整	429	368	400	356	5,280	440.0	31.1%	32.1%
3	電 話	621	765	720	704	8,940	745.0	52.6%	51.4%
4	文 書	21	12	14	16	229	19.1	1.3%	1.2%
5	家 屋 調 査	5	3	4	2	44	3.7	0.3%	0.2%
6	訪 問・外 出	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合 計		1,262	1,352	1,309	1,250	17,000	1,416.7	100.0%	100%

④ 相談対象者別件数

No	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	本人	52	58	58	67	58	52	77	69
2	家族	381	420	401	382	401	336	401	367
3	医師	172	182	129	165	192	147	167	161
4	看護師	280	268	233	241	290	205	251	245
5	リハビリスタッフ	205	197	157	172	230	145	172	200
6	その他院内職員	18	26	18	23	24	27	29	16
7	病院・施設	489	517	542	503	618	432	528	491
8	ケアマネージャー	128	99	91	118	103	108	143	108
9	行政機関	6	3	10	6	6	5	12	7
10	職場・学校	0	0	0	0	0	0	0	0
11	その他	10	10	11	5	7	16	12	17
合計		1,741	1,780	1,650	1,682	1,929	1,473	1,792	1,681
No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	本人	55	57	56	45	704	58.7	3.6%	3.5%
2	家族	328	353	376	343	4,489	374.1	22.7%	23.0%
3	医師	142	168	134	130	1,889	157.4	9.6%	9.8%
4	看護師	244	226	236	221	2,940	245	14.8%	15.5%
5	リハビリスタッフ	148	165	160	129	2,080	173.3	10.5%	10.8%
6	その他院内職員	21	33	20	19	274	22.8	1.4%	2.1%
7	病院・施設	386	519	428	446	5,899	491.6	29.8%	27.6%
8	ケアマネージャー	103	67	103	91	1,262	105.2	6.4%	6.3%
9	行政機関	8	5	10	3	81	6.4	0.6%	0.6%
10	職場・学校	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
11	その他	12	8	8	12	128	10.7	0.6%	0.9%
合計		1,447	1,601	1,531	1,439	19,746	1,645.6	100%	100%

入院相談業務

① 入院相談件数

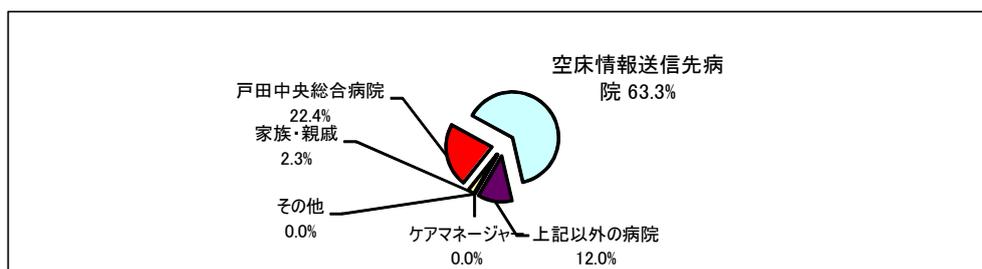
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
回復期病棟	74	88	73	63	89	53	80	84
療養病棟	0	0	1	1	0	0	2	1
合計	74	88	74	64	89	53	82	85
区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	前年度	前年比
回復期病棟	63	93	68	76	904	75.3	74.0	+1.3
療養病棟	0	0	1	0	6	0.5	0.2	+0.3
合計	63	93	69	76	910	75.8	74.2	+1.6

② 紹介者

No	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	本人	0	0	0	0	0	0	0	0
2	家族・親戚	3	3	4	0	2	1	3	0
3	戸田中央総合病院	20	22	18	19	25	10	21	23
4	空床情報送信先病院	40	49	47	42	58	35	48	51
5	上記以外の病院	9	14	5	3	4	7	10	11
6	ケアマネージャー	0	0	0	0	0	0	0	0
7	その他	2	0	0	0	0	0	0	0
合計		74	88	74	64	89	53	82	85

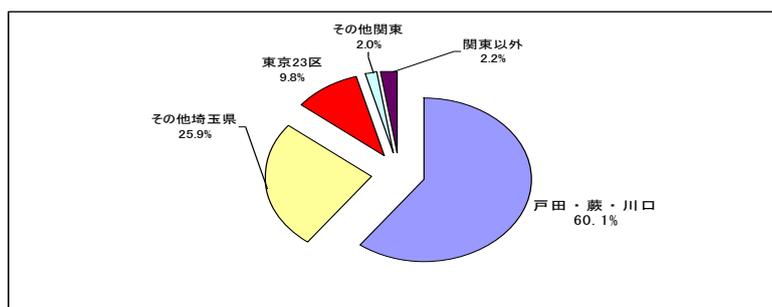
No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	前年度	前年比
1	本人	0	0	0	0	0	0.0	0.0	±0.0
2	家族・親戚	0	0	0	2	18	1.5	3.9	▲2.4
3	戸田中央総合病院	9	18	8	14	207	17.3	16.3	+1.0
4	空床情報送信先病院	42	63	46	51	572	47.7	43.9	+3.8
5	上記以外の病院	12	12	15	9	111	9.3	10.4	▲1.1
6	ケアマネージャー	0	0	0	0	0	0	0.1	▲0.1
7	その他	0	0	0	0	2	0.2	0.1	+0.1
合計		63	93	69	76	910	75.8	74.8	+1.0

※空床・待機状況等についての情報を毎週月・木曜日に 58 病院に送信しています!!



③ 紹介元病院（地域別）

地域	人数	施設数	割合
戸田・蕨・川口	325	11	60.1%
その他埼玉県	140	18	25.9%
東京23区	53	32	9.8%
その他関東	11	10	2.0%
関東以外	12	12	2.2%
合計	541	83	100%



④ 紹介元病院（全 84 病院 紹介件数順）

No	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	戸田中央総合病院	15	18	14	13	17	22	12	19	9	11	10	7	167
2	川口市立医療センター	4	3	3	5	7	3	4	5	6	7	4	6	57
3	秋葉病院	5	3	2	2	4	4	2	4	1	3	1	10	41
4	済生会川口総合病院	2	7	4	6	5	7	4	4	3	3	5	1	51
5	三愛病院	3		3	3	1	4	4	2	4	7	2	2	35
6	安東病院	1												1
7	埼玉社会保険病院	1		2		1		2	1		1	1		9
8	川口工業総合病院	1	1		2	1		1	1	2	2	1	2	14
9	中島病院	2		1	2	1	1		1	1		1		10
10	公平病院	1			1	2	1	1	1	3	1	3		14
11	さいたま市立病院	1	3	4	1	1	1		1	2	2	1		17
12	板橋中央総合病院	1												1
13	さいたま赤十字病院	1	2	1	1	3	1			2		1	4	16
14	博慈会記念総合病院	1								1				2
15	国立国際医療研究センター	1						1						2
16	益子病院	1						1			1			3
17	獨協大学越谷病院	1												1
18	東北労災病院	1												1
19	健康長寿医療センター	1		1				1					1	4
20	和秀総合病院	1												1
21	宇治病院	1												1
22	朝霞台中央総合病院		1	1		1								3
23	東川口病院		1	1	1							1		4
24	府中恵仁会病院		1											1
25	藤枝平成記念病院		1											1
26	杏林大学医学部附属病院		1											1
27	駿河台日本大学病院		1											1
28	前田病院		1											1
29	川口誠和病院		1	1										2
30	日本医科大学附属病院		1		1					1				3
31	クニアキ病院		1											1
32	帝京大学医学部附属病院			1				2		2				5
33	池上総合病院			1										1
34	旭川赤十字病院			1										1
35	寿康会病院			1	1									2
36	東京医科歯科大学医学部附属病院			1			1							2
37	東京女子医科大学東医療センター			1										1
38	東京北社会保険病院				1									1
39	せんぼ東京高輪病院				1			1						2
40	東京医科大学病院				1	1			1	1		1		5
41	昭和伊南総合病院				1									1
42	丸山記念総合病院				1									1
43	高島平中央総合病院				1									1
44	慶応義塾大学病院				1									1
45	東大和病院					1								1
46	埼玉医科大学総合医療センター					1						1	1	3
47	JR 東京総合病院					1								1
48	新宮市立医療センター					1								1
49	三方原病院						1							1
50	虎ノ門病院						1			1				2

No	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
51	福岡リハビリテーション病院						1							1
52	市川総合病院						1							1
53	常磐台外科病院						1							1
54	瀬戸内徳洲会病院						1							1
55	聖路加国際病院						1	1					1	3
56	目白病院							1						1
57	草加市立病院							1			2		1	4
58	新座志木中央総合病院							1						1
59	川崎幸病院							1						1
60	済生会栗橋病院							1						1
61	深谷赤十字病院							1						1
62	埼玉病院								1				1	2
63	高崎総合医療センター								1					1
64	東京慈恵会医科大学附属病院								1					1
65	三之町病院								1					1
66	自治医科大学附属さいたま医療センター								1				1	2
67	関西電力病院									1			1	2
68	旭中央病院									1				1
69	西新井病院									1		1		1
70	館林厚生病院									1				1
71	明理会中央総合病院										1			1
72	東京ハートセンター										1			1
73	練馬光が丘病院										1			1
74	東京女子医科大学病院										2			2
75	練馬総合病院											1		1
76	東京都保険医療公社豊島病院											1		1
77	日本医科大学千葉北総病院											1		1
78	新百合ヶ丘総合病院											1		1
79	久喜総合病院											1		1
80	済生会中央病院											1		1
81	赤羽岩淵病院												1	1
82	千葉・柏たなか病院												1	1
83	都立墨東病院												1	1
	合計	46	47	44	46	49	52	43	45	43	45	40	41	541

⑤ 入院待機日数（入院予約となつてから入院当日までの日数）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度	前年比
回復期病棟	男性	8.9	10.6	12.9	11.9	6.9	11.6	3.7	4.8	9.8	6.4	22.2	13.1	10.2	8.8	+1.4
	女性	13.5	8.3	7.8	17.7	9.5	14.1	9.2	8.6	10.4	11.6	17.4	18.6	12.2	9.9	+2.3
療養病棟	男性	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.0	+0.3
	女性	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	12	0	1.8	0.4	+1.4

⑥ 予約後キャンセル件数

キャンセル理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自宅退院のため	0	2	2	3	1	2	2	0	0	1	2	2	17	21.9%
他病院転院のため	1	7	8	3	2	3	2	1	2	2	4	14	49	62.8%
病状変化のため	1	0	2	0	0	3	0	1	1	1	0	0	9	11.5%
その他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	3.8%
合計	3	9	12	7	3	8	4	2	3	4	7	16	78	100%

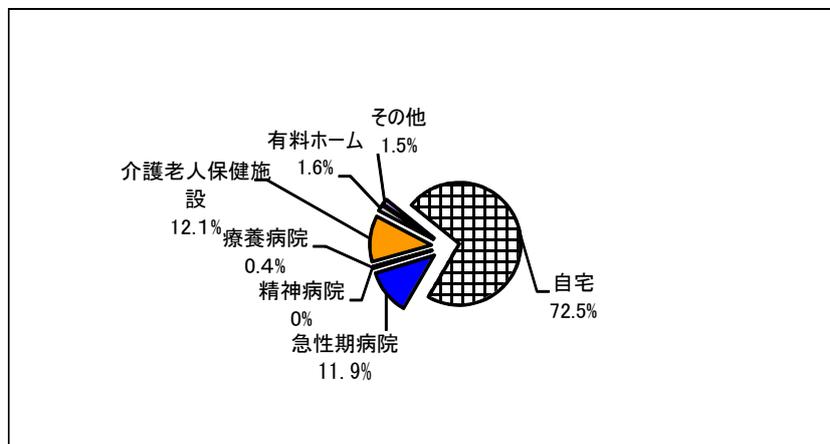
退院援助業務

① 退院数と退院先その内訳

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
急性病院	1 戸田中央総合病院	2	2	1	5	3	5	2	6	2	3	1	3	35
	2 埼玉社会保険病院	1												1
	3 秋葉病院	1			1	1		1						4
	4 済生会川口総合病院	1				1	1			1				4
	5 三愛病院		1		1						3	2		7
	6 さいたま市立病院		1											1
	7 川口工業総合病院		1	1										2
	8 中島病院				1									1
	9 健康長寿医療センター				1									1
	10 さいたま赤十字病院					1								1
	11 川口市立医療センター							1			1			2
	12 寿康会病院							1						1
	13 帝京大学医学部附属病院									1				1
	14 公平病院										1			1
	15 草加市立病院											1		1
	16 西新井病院											1		1
	17 東京医科大学病院												1	1
小計		5	5	2	9	6	8	3	7	3	8	5	4	65
療養病院	1 東所沢病院						1							1
	2 戸田病院												1	1
小計							1						1	2
精神病院														0
小計		5	5	2	9	6	9	3	7	3	8	5	5	67

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
施設 介護老人保健施設	1 かわぐちナーシングホーム	1												1	
	2 トワーム指扇	1												1	
	3 グリーンビレッジ蔵		1	4	5		1	4	1	1		3	1	21	
	4 ねぎしケアセンター		1					1						2	
	5 あさがお		1	1			1	1		2		1		7	
	6 サンビュー埼玉		1											1	
	7 ファインハイム		2					2						5	
	8 さくらの杜		1											1	2
	9 北柏ナーシングセンター		1											1	
	10 コスモス苑		1						1	1		1		4	
	11 みぬま		1											1	
	12 グリーンビレッジ朝霞台				1									1	
	13 うらわの里			1				1	1					3	
	14 ミレニウムマッシーランド			1			2	1						4	
	15 高齢者ケアセンターのぞみ			1						1				2	
	16 ケアセンター八潮						1							1	
	17 グリーンビレッジ安行							1						1	
	18 トワーム指扇								1					1	
	19 川口ケアセンター								1					1	
	20 こうのす共生苑								1					1	
	21 エスポワールさいたま									1	1			1	3
	22 ほくとはなみずき												1		1
	23 戸田市立老人保健施設												1		1
小計		2	10	9	5	4	6	10	5	4	0	7	4	66	

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設	有料ホーム	1 ベストライフ朝霞		1										1
		2 メデイス武蔵浦和					1							1
		3 レストヴィラ武蔵浦和						1						1
		4 ルレーヴ南浦和						1						1
		5 まどか蔵										1		1
		6 グランダ南浦和										1		1
		7 みちくさ											1	1
		8 アミーユ南与野											1	1
		9 育進												1
		小計	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	2	1
特別養護ホーム	1 かわぐちさくらの杜												1	1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
高齢者住宅	1 ウェルハウス	1							2					3
	2 ふるさとホーム高崎箕郷町						1							1
	3 カーサ・ラ・ヴィーダ川口								1					1
	4 みんなの家・上尾瓦葺										1			1
	小計	1	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	0	6
その他	1 グループホームニチイケアセンターほほえみ赤羽		1											1
	小計	8	17	11	14	11	18	13	15	7	11	14	11	150
自宅退院		37	34	29	37	34	39	32	30	31	32	29	31	395
死亡退院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		45	51	40	51	45	57	45	45	38	43	43	42	545



間接援助業務

① 地域連携・紹介元挨拶

No	月日	病院名（会議名）	担当者
1	5/23	第3回川口工業総合病院連携施設懇談会	小川、古川
2	6/12	川口脳卒中地域連携研究会事務担当者会議	小川
3	9/11	第12回さいたま脳卒中地域連携研究会	山中
4	10/31	帝京大学病院連携懇談会	山中
5	11/15	第13回済生会川口総合病院地域医療連携の会	小川、古川
6	11/29	戸田中央総合病院連携懇談会	山中
7	2/13	平成24年度第3回埼玉県医師会脳卒中地域連携研究会	山中、小川、古川
8	2/19	第6回川口脳卒中地域連携研究会	山中
9	3/13	川口工業総合病院第4回連携施設懇談会	山中
10	3/26	川口脳卒中地域連携研究会 事務担当者会議	山中

② 社会資源開拓（見学等）

No	月日	病院名（会議名）	担当者
1	1/24	総合リハビリテーションセンター障害者支援施設見学会	小川

③ 教育・見学者へのオリエンテーション・PR

No	月日	内容
1	5/9,5/16,1/16	帝京大学医学部附属病院研修医 病院見学
2	8//23	とだ小林医院 リハビリテーション病院見学

④ 学会・院外研修会への参加

No	月日	内容
1	5/12,5/19	社会福祉実習指導者講習会
2	10/30	埼玉県回復期リハビリテーション・ソーシャルワーカー連絡協議会 第8回
3	12/22～24	2012年度実習指導養成認定研修

⑤ TMG 医療福祉科研修などへの参加

No	月日	内容
1	4/21	TMG 医療福祉部定例会
2	9/8	TMHG 医療福祉部全体研修「ソーシャルワークの本質を問い直す」
3	7/4 9/5 12/5	TMG 医療福祉部 B グループ研修
4	6/28 9/27 12/19	TMG 医療福祉部 C グループ研修
5	11/15	第14回ステップアップ研修講師
6	7/14,11/10	医療福祉部 責任者会議
7	6/2,10/6,1/5	医療福祉部 運営委員会
8	12/12,1/16,2/13	TMG 医療技術部マネジメント研修
9	2/2	リーダー・オブザーバー会議
10	2/23	医療福祉部「実践報告会」

放射線部門

医事課係長 桜井 孝

実績（撮影件数）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
単	純 撮 影	52	60	53	60	62	65	56
	入 院 時	46	47	44	46	49	52	43
	入 院 中	6	13	9	14	13	13	13
区 分		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
単	純 撮 影	59	54	59	61	65	706	58.8
	入 院 時	45	44	45	41	44	546	45.5
	入 院 中	14	10	14	20	21	160	13.3

実績（フィルム使用枚数）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
半	切	96	100	96	103	110	114	96
大	四 切	6	23	11	20	24	20	20
計		102	123	107	123	134	134	116
区 分		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
半	切	105	93	104	97	102	1,216	101.3
大	四 切	15	15	13	9	28	204	17.0
計		120	108	117	106	130	1,420	118.3

実績（撮影件数・委託分）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
C T	撮 影 件 数	3	0	0	0	8	9	8
M R I	撮 影 件 数	0	0	0	0	0	0	0
区 分		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
C T	撮 影 件 数	5	5	11	5	6	60	5.0
M R I	撮 影 件 数	1	0	3	0	3	7	0.6

検査部門

医事課係長 桜井 孝

年次報告

入院時に検体検査で血液学的検査・生化学的検査・免疫学的検査、生理検査で心電図を実施し、入院中に関しては適宜、主治医の判断で検査を実施しています。検査は(株)戸田中央臨床検査研究所に委託しています。至急の判定を要する検査に関しては FAX にて随時情報提供をしていただいております。

人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

責任医師：佐藤 信也（院長）

実績（検体検査）

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
尿・糞便検査	163	190	152	146	172	179	122
血液学的検査	1,065	1,306	1,158	1,140	1,224	1,076	1,057
生化学的検査 I	2,120	2,586	2,404	2,232	2,486	2,197	2,087
生化学的検査 II	4	2	1	6	10	5	2
免疫学的検査	250	278	279	262	276	292	232
微生物学的検査	61	44	85	39	73	88	34
病理学的検査	0	0	0	0	0	0	0
区 分	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
尿・糞便検査	148	161	123	131	149	1,836	153.0
血液学的検査	979	1,104	1,035	858	951	12,953	1,079.4
生化学的検査 I	2,015	2,284	2,058	1,747	1,948	26,164	2,180.3
生化学的検査 II	0	10	4	4	10	58	4.8
免疫学的検査	241	286	275	217	284	3,172	264.3
微生物学的検査	38	52	54	29	42	639	53.3
病理学的検査	0	2	0	0	0	2	0.2

実績（生理検査）

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
心電図	45	50	46	46	47	54	45
区 分	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
心電図	44	43	43	42	42	547	45.6

地域医療連携

医事課係長 桜井 孝

年次報告

平成 24 年度の入院件数は前年実績より 5 件の減少と変化の無い結果でありました。地域別にみた紹介元医療機関の構成比においては、さいたま市の割合が微増となっております。

今後の地域連携強化策としては、戸田市はもちろん他市の医療機関とも積極的に連携をとっていき、スムーズな受け入れを心掛け、また連携パス（脳卒中・大腿骨）実施病院の拡充、地域医療機関や介護保険施設等を対象としたリハビリテーション研究会の継続などを通して、地域に根ざした期待される病院として、より信頼される病院となるような活動をするを 25 年度の重点課題としています。

実績（紹介率）

（単位：％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
61.7	52.1	57.1	58.2	58.8	56.6	62.5	52.0	70.8	66.7	60.9	55.9	59.3

実績（紹介元地域別）

地域		入院件数	構成比	地域		入院件数	構成比
埼玉 県	戸田市	193	35.3%	県 外	板橋区	13	2.4%
	川口市	133	24.4%		新宿区	11	2.0%
	さいたま市	128	23.4%		港区	7	1.3%
	草加市	4	0.7%		文京区	5	0.9%
	朝霞市	3	0.5%		足立区	4	0.7%
	和光市	2	0.4%		北区	3	0.5%
	川越市	2	0.4%		中央区	3	0.5%
	久喜市	2	0.4%		その他都内	10	1.8%
	その他県内	4	0.7%		その他全国	19	3.5%
小計	471	86.3%	小計		75	13.7%	
			合計	546	100.0%		

実績（紹介元の施設別・地域）

① 戸田市 193 件

No	医療機関名	件数
1	戸田中央総合病院	168
2	公平病院	14
3	中島病院	9
4	なかじまクリニック	1
5	戸田市立市民医療センター	1

② 川口市 133 件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	川口市立医療センター	56	5	益子病院	3
2	済生会川口総合病院	51	6	寿康会病院	2
3	川口工業総合病院	14	7	川口誠和病院	2
4	東川口病院	4	8	安東病院	1

診療支援部門－地域医療連携

③ さいたま市 128件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	秋葉病院	45	5	埼玉社会保険病院	9
2	三愛病院	36	6	自治医科大学附属さいたま医療センター	2
3	さいたま市立病院	18	7	丸山記念総合病院	1
4	さいたま赤十字病院	16	8	宇治病院	1

④ 草加市 4件

No	医療機関名	件数
1	草加市立病院	4

⑤ 朝霞市 3件

No	医療機関名	件数
1	朝霞台中央総合病院	3

⑥ 和光市 2件

No	医療機関名	件数
1	国立病院機構埼玉病院	2

⑦ 川越市 2件

No	医療機関名	件数
1	埼玉医科大学総合医療センター	2

⑧ 久喜市 2件

No	医療機関名	件数
1	JA 埼玉県厚生連久喜総合病院	1
2	済生会栗橋病院	1

⑨ その他県内 4件

No	医療機関名	件数
1	新座志木中央総合病院	1
2	獨協医科大学越谷病院	1
3	秀和総合病院	1
4	深谷赤十字病院	1

⑩ 板橋区 13件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	帝京大学医学部附属病院	5	4	高島平中央総合病院	1
2	東京都健康長寿医療センター	4	5	常盤台外科病院	1
3	板橋中央総合病院	1	6	豊島病院	1

⑪ 新宿区 11件

No	医療機関名	件数
1	東京医科大学病院	5
2	東京女子医科大学病院	2
3	国立国際医療研究センター病院	2
4	慶應義塾大学病院	1
5	目白病院	1

⑫ 港区 7件

No	医療機関名	件数
1	せんぼ東京高輪病院	2
2	国家公務員共済組合連合会虎の門病院	2
3	東京慈恵会医科大学附属病院	1
4	東京都済生会中央病院	1
5	赤坂見附前田病院	1

⑬ 文京区 5件

No	医療機関名	件数
1	日本医科大学付属病院	3
2	東京医科歯科大学医学部附属病院	2

⑭ 足立区 4件

No	医療機関名	件数
1	博慈会記念総合病院	2
2	西新井病院	2

⑮ 北区 3件

No	医療機関名	件数
1	明理会中央総合病院	2
2	東京北社会保険病院	1

⑯ 中央区 3件

No	医療機関名	件数
1	聖路加国際病院	3

⑰ その他都内 10件

No	医療機関名	件数
1	東京女子医科大学東医療センター	1
2	杏林大学医学部附属病院	1
3	JR 東京総合病院	1
4	駿河台日本大学病院	1
5	池上総合病院ハートセンター	1
6	東大和病院	1
7	大崎病院東京ハートセンター	1
8	府中恵仁会病院	1
9	東京都立墨東病院	1
10	練馬光が丘病院	1

⑱ その他全国 19件

No	医療機関名	件数
1	その他	19

事務部門

事務部

事務長 吉井 政昭

年次報告

平成 24 年度は、経営面における基礎ともいえる診療報酬改定の年であり、特に今回は医療保険・介護保険請求のダブル改定となりました。回復期リハビリテーション病棟においては、診療報酬の基となる入院基本料が 3 段階に区分され、前年度の体制維持では報酬が下がる結果となり、施設基準の見直しが行われた『入院基本料 1』の獲得が収益維持の絶対条件となりました。一定の期間を要しましたが全病棟において新基準をクリアし、年度内早期に『入院基本料 1』の承認を得ることによって収益を確保することが出来ました。

設備面では、4 月に開園した屋上庭園『スカイガーデン』が行政広報誌や各種マスコミに数多く取り上げられ、当院のアピールポイントが更に増す結果に繋がっています。リハビリの訓練スペースとしての活用は勿論、患者様とご家族、また職員の憩いの場として活用する事を今後も継続していきます。

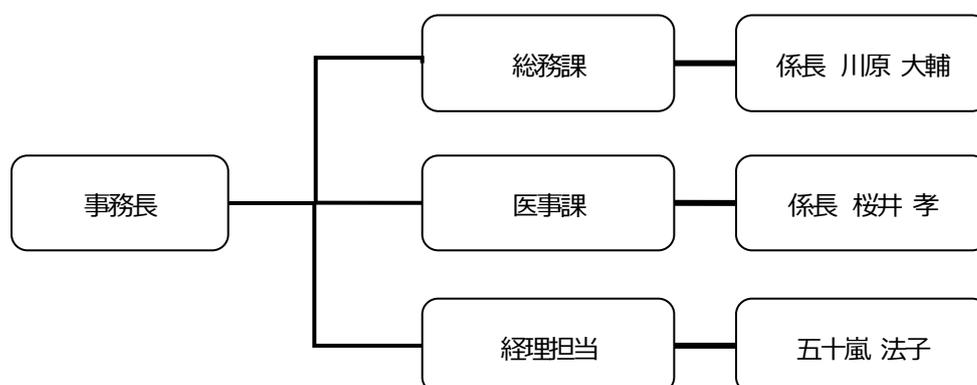
開院 2 年目となった『戸田中央リハクリニック』においては、6 月より毎水曜日に 19 時までの延長診療を開始したほか、材料を用いた特色のある訓練内容にも取り組んでいます。7 月よりグループ内からの移設という形で「訪問リハビリ」を開始し、事務職員の増員も行いました。外来・訪問の二本立てで地域完結型医療の推進を図っています。

事務部門は、総務課・医事課・クリニックが常時連携を取りながら、少人数でも効率よく日々の業務にあたり、平成 24 年度も安定した経営に寄与する事が出来ました。

人員構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

事務長：吉井 政昭

組織図



動態

(平成 25 年 3 月 31 日現在) () 内パート、院内での職種変更も含

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
採用 転入 異動	事務長													
	医事課	1												1
	総務課										1			1
	経理担当													
合計		1									1			2
退職 転出 異動	事務長													
	医事課	1									1			2
	総務課												1	1
	経理担当													
合計		1									1		1	3

事務部会議

①関連施設経営管理会議

- 目的 各院（施設）長より運営状況・課題等を報告し、情報と方向性の共有を図る
- 開催日 第2水曜日 8:30～
- 出席者 理事長、各施設（4施設）院長・施設長・所長・事務長他

②関連施設報告会

- 目的 各院（施設）の運営状況・課題等を報告し、情報と方向性の共有を図る
- 開催日 第1・3水曜日 9:00～
- 出席者 理事長、各施設（7施設）、事務長他

会議・委員会

病院の運営において、会議・各委員会が活発で意義あるものにするには、活性化に繋がります。そこでの事務部の役割をしっかりと明確にして責任を果たすべく努力しております。

①事務ミーティング

- 目的 各自が担当する会議・委員会からの報告や周知、各部署の状況や問題点について情報の共有を図る
- 開催日 第1木曜日及び第3月曜日 17:10～
- 出席者 事務長、事務部全職員

医事課

係長 桜井 孝

年次報告

24年度は診療報酬改定があり、回復期リハビリテーション病棟入院料においても大きな改定となりました。従前の回りハ入院料1の上に新たな新回りハ入院料1が設定され、この施設基準は看護配置や職種配置などの人員配置の引き上げ、重症患者の受け入れ率、在宅復帰率等の引き上げなど厳しい内容となりました。この状況において、医事課としてやるべきことは、施設基準に必要な情報を素早く収集・発信し、他部署と密な連携をとることでした。この結果、4月、5月、6月と病棟毎に新回りハ入院料1を取得することができました。

また、8月には関東信越厚生局による個別指導及び適時調査が行われました。結果は大きな問題点は挙げられておりませんが、日々の業務を見直す良い機会となりました。

25年度は新回りハ入院料1を継続維持すること、そして2月に受審（更新）する病院機能評価に向けた準備に、課員力を合わせていきたいと思っております。

人事

(1) 人員構成（平成25年3月31日現在）

係長：桜井 孝

副主任：金田 綾乃

課員：玉田 歩、坂本 美智子、小関 唯香

(2) 入退職・異動

▶ 田家 由里・・・平成25年1月21日付（戸田中央リハクリニックへ）

実績（取扱レセプト枚数）

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社 保	29	31	32	34	37	40	43
生 保	5	4	1	9	8	10	7
社 保 公 費 併 用	1	4	10	3	2	3	1
国 保	145	146	139	143	132	134	132
国 保 公 費 併 用	2	1	1	0	0	0	0
労 災 保 険	0	1	2	2	5	4	5
交 通 事 故	0	0	0	0	0	0	0
計	182	184	185	191	184	191	188

保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社 保	29	28	34	29	46	412	34.3
生 保	5	4	7	6	9	75	6.3
社 保 公 費 併 用	2	1	1	1	1	27	2.3
国 保	133	138	138	142	142	1,664	138.7
国 保 公 費 併 用	1	2	3	3	2	15	1.3
労 災 保 険	1	4	3	2	1	30	2.5
交 通 事 故	0	1	1	0	0	2	0.2
計	171	178	187	183	201	2,225	185.4

実績（公衛生相関係）

単位：件

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
介護保険意見書	34	27	20	22	17	19	16
インフルエンザ予防接種	0	0	0	0	0	0	0
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
介護保険意見書	18	24	20	28	19	264	22.0
インフルエンザ予防接種	99	29	3	0	0	131	10.9

実績（レセプト査定率）

単位：円

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社 保	0	0	2,420	80	120	0	0
国 保	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	2,420	80	120	0	0
査定率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社 保	0	0	0	0	0	2,620	218.3
国 保	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	2,620	218.3
査定率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.22%	0.00%	—

実績（レセプト返戻率）

単位：円

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社 保	0	1,346,767	1,151,141	1,968,827	0	2,370	1,205,820
国 保	820,706	0	0	1,187,152	0	0	812,229
計	820,706	1,346,767	1,151,141	3,155,979	0	2,370	2,018,049
返戻率	0.60%	0.96%	0.00%	2.13%	0.00%	0.00%	1.62%
保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社 保	997,804	0	0	0	1,161,300	7,834,029	652,835
国 保	0	3,514,914	2,575,756	300	922,186	9,833,243	819,437
計	997,804	3,514,914	2,575,756	300	2,083,486	17,667,272	1,472,248
返戻率	0.69%	2.51%	1.69%	0.00%	1.51%	1.03%	—

総務課

係長 川原 大輔

年次報告

平成 24 年度は自身転入直後保険改定の年であり、計画通りの新回復期リハ I 取得に始まり、同時進行でのクリニック訪問リハの立ち上げ、学会発表の準備、また例年実施される立入り検査のほか、厚生局による個別指導・適時調査等々。日々に業務をこなすのに精一杯であり実感を得られないうちに過ぎ去った感がありますが、通常業務は課員により卒なく遂行され、総合的に無事に乗り切れた一年ではなかったかと思われます。

次年度は、機能評価更新の年であり、それに関連した全てのマニュアルや診療報酬上における問題点など様々な業務の見直しやクリニカルインジゲーター取組みに際しての HP 刷新などその他諸々の新たな取り組み。開設 11 年目となるためハード・ソフト面でも多くの改修を費やす必要性もあります。

引き続き、リハビリ病院としての情報発信、またリハビリ専門性のアピールなどそれらをスタッフが円滑に行えるような環境づくりを目指してまいります。

人事

(1) 人員構成 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

①総務課

係長：川原 大輔

主任：太田 朋美

課員：五十嵐 法子 (経理担当)、太田 あゆみ、塚田 真美、市川 集

(2) 異動・退職

太田 あゆみ ……平成 25 年 1 月 21 日付け 戸田中央クリニックより転入

塚田 真美 ……平成 25 年 3 月 31 日付け退職

実績 (官公庁手続き等)

①保健所

病院報告 (患者票・従事者票)、麻薬施用者免許申請書 (更新)、麻薬管理者年間届、特殊診療病床数に関する調査票、医療法第 25 条に基づく立ち入り検査事前提出書類、開設許可一部変更等

②関東信越厚生局

入院基本料及び施設基準に係る届出、入院基本料及び施設基準に係る届出 (現状報告)、酸素の購入価格に関する届出書、保険医及び保険薬剤師に係る登録、個別指導及び適時調査に関する調査票等

③消防・警察

消防訓練実施計画報告書、消防訓練実施結果報告書、消防用設備等点検結果報告書、緊急車両及び訪問サービス提供に関する駐車許可申請等

④労働基準監督署

就業規則、定期健康診断結果報告書 (夜勤従事者)、電離放射線健康診断結果報告書、時間外労働・休日労働に関する協定書等

⑤中央環境管理事務所

特別管理産業廃棄物処理実績報告書等

⑥埼玉県・戸田市役所

建築基準法第 12 条第 1 項の規定による定期検査結果報告、身体障害者福祉法に関する医師指定申請、介護保険法に関するサービス提供体制届出、生活保護指定申請、不在者投票に関する手続き等

実績（各種保険手続き）

①健康保険、厚生年金保険

被保険者資格取得及び喪失、健康保険者被扶養者異動届、被保険者氏名変更届
健康保険出産手当金請求書、健康保険出産育児一時金請求書、健康保険傷病手当金請求書
育児休業保険料免除申出書、傷病手当金請求書

②雇用保険

被保険者資格取得、被保険者資格喪失、氏名変更、雇用保険被保険者離職証明書
育児休業給付申請書、育児休業者職場復帰給付申請書

報告

①月平均労働時間数

平均労働時間数	職 種	24 年度	23 年度
	医 師	161.25	161.25
	看 護 師 ・ 准 看 護 師	164.33	164.28
	介 護 福 祉 士 ・ 看 護 助 手	160.82	161.70
	病 棟 ク ラ ー ク	164.42	167.18
	薬 剤 師	180.38	175.90
	管 理 栄 養 士	165.99	164.71
	医 療 福 祉 科	177.72	174.99
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	171.02	171.02
事 務 部	176.92	175.16	

②有給休暇消化率

年間有給休暇消化率	職 種	24 年度	23 年度
	医 師	22%	22%
	看 護 要 員	66%	57%
	薬 剤 師	31%	41%
	管 理 栄 養 士	26%	34%
	医 療 福 祉 科	29%	33%
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	72%	60%
	診 療 放 射 線 技 師	0%	0%
事 務 部	20%	13%	

③水光熱費

No	区 分	24 年度		23 年度		増減		
		使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額	
1	電 気	566,922	10,181,176	520,758	7,841,258	+4,6164	+2,339,918	
2	水 道	上 水	21,304	8,274,442	21,399	8,313,944	▲95	▲39,502
		下 水	21,304		21,399		▲95	
3	ガ ス	124,334	9,445,216	115,080	7,949,553	+9,254	+1,495,563	

報告（病院行事等）

（1）平成 24 年度 TMG 新入職員入職式

日 時：4 月 2 日（月）10：00～

会 場：戸田市文化会館

出席者数：18 名

職 種	男性	女性	計
看護師	0	2	2
介護福祉士	1	1	2
理学療法士	3	4	7
作業療法士	1	1	2
言語聴覚士	1	2	3
社会福祉士	1	0	1
事務	0	1	1
計	7	11	18

（2）TMG ソフトボール大会

日 時：4 月 8 日（日）8：00～

会 場：戸田市道満ソフトボール球場

参加数：74 名

結 果：2 部リーグ残留

一回戦 ○ 戸田リハ 15-3 ● 八王子
 二回戦 ● 戸田リハ 0-11 ○ 北総・船橋連合

（3）平成 24 年度 昇格式

日 時：4 月 16 日（月）16：00～

会 場：戸田市文化会館

昇 格 者：6 名

氏名	所属	新役職
竹田 聖子	看護部	看護部長
今川 寛海	看護部	看護係長
鈴木 敦子	リハビリテーション科	主 任
中川 崇之	リハビリテーション科	主 任
一木 友徳	リハビリテーション科	主 任
木村 真弓	リハクリニック リハビリテーション科	係 長

（4）第 50 回 TMG 学会

日 時：5 月 27 日（日）10：00～16：30

会 場：東京ビッグサイト

参加数：77 名

学 会 長：田園調布中央病院 院長 成瀬 博昭

永年勤続：10 年

（医 師）松村 敦

（看 護 部）坂口 信恵、大森 真由美、大和田 清香、井口 眞理
 橋本 禮子、春山 泰子

（リハビリ）土屋 喜隆、湯浅 晃史

（5）TMG 医局症例検討会

日 時：5 月 27 日（日）10：00～

会 場：東京ビッグサイト

(6) TMG 定時総会

日 時：5月23日(水) 18:00～
会 場：京王プラザホテル

(7) 消防訓練

日 時：6月7日(木) 13:10～14:00
参加人員：52名(男性20名、女性32名)
訓練内容：消火訓練・通報訓練・避難訓練

(8) 慰霊祭(戸田中央総合病院合同)

日 時：8月7日(金) 13:00～14:00
会 場：戸田中央総合病院 本館屋上

(9) 納涼祭(戸田中央総合病院合同)

日 時：8月7日(金) 18:45～
会 場：ふれあい広場

(10) 第32回 CMS学会

日 時：9月30日(日) 10:00～17:30
会 場：東京国際フォーラム
参加数：68名
学 会 長：千葉愛友会記念病院 院長 市村 三紀男

(11) 第49回 TMG大運動会

日 時：10月14日(日) 8:30～
会 場：戸田市道満陸上競技場
参加数：98名
成 績：Bブロック 準優勝(7チーム中)

ブロック	施設名	障害物リレー	トンネル	大玉転がし	綱引き	玉入れ	担送リレー	絆走	最速王(女)	最速王(男)	最強リレー	合計点	順位
A	戸田中央総合病院	70	80	50	100	50	60	80	20	15	50	575	4
	戸塚連合	100	60	70	70	60	80	100	25	10	100	675	1
	新座志木中央総合病院	50	70	100	80	75	100	50	10	25	80	640	3
	朝霞連合	80	100	80	60	100	70	70	5	10	70	645	2
	西東京中央総合病院	60	50	60	60	75	50	60	5	5	60	485	5
B	戸田中央リハビリテーション病院	100	80	70	80	60	100	70	5	5	70	640	2
	牧野連合	70	100	100	100	75	80	100	15	10	80	730	1
	八王子山王病院	60	60	60	60	30	30	40	5	5	50	400	6
	茂原中央病院	30	50	30	60	50	50	80	5	5	60	420	5
	狭山神経内科病院	40	70	40	60	100	70	60	5	5	30	480	4
	一橋病院	50	40	50	70	40	40	30	10	5	40	375	7
	北総船橋連合	80	30	80	70	75	60	50	10	10	100	565	3
C	小平中央リハビリテーション病院	40	40	60	80	30	30	30	5	5	30	350	7
	本部連合	50	100	70	100	40	100	40	5	5	100	610	1
	熱海所記念病院	30	30	80	70	100	80	100	5	5	40	540	3
	戸田中央産院	80	60	30	60	60	50	70	5	5	70	490	6
	戸田中央臨床検査研究所	100	80	30	60	80	40	50	5	5	50	500	5
	世田谷神経内科病院	60	70	50	60	50	70	80	5	20	60	525	4
	新座病院	70	50	100	70	70	60	60	10	5	80	575	2

ブロック	施設名	障害リレー	トンネル	大玉転がし	綱引き	玉入れ	担送リレー	絆走	疊(ま)孝	疊(ま)學	最強リレー	合計点	順位
D	奥沢病院	60	50	60	100	60	40	40	10	5	60	485	5
	田園調布中央病院	80	40	70	70	40	100	50	5	5	50	510	4
	東所沢病院	40	60	50	80	50	50	60	5	5	70	470	6
	グリーンビレッジ安行	100	100	40	60	100	80	80	5	5	80	650	1
	佐々総合病院	70	80	80	60	70	70	100	5	10	100	645	2
	松井病院	50	70	100	60	80	60	70	5	5	40	540	3

(12) 病院忘年会

日 時：12月5日(水) 19:00～
 会 場：ホテルブリランテ武蔵野
 参加人員：230名

(13) 消防訓練

日 時：1月17日(木) 13:10～14:00
 参加人員：30名(男性11名、女性19名)
 訓練内容：消火訓練・通報訓練・避難訓練

(14) TMG 医局症例検討会

日 時：1月19日(土) 15:30～
 会 場：京王プラザホテル

(15) 新年医局交礼会

日 時：1月19日(土) 18:20～
 会 場：京王プラザホテル

(16) 院内旅行

日 時：1月26日(土)～27日(日)
 旅 程：栃木県 鬼怒川グランドホテル夢の季
 参加数：131名

(17) CMS 新春観劇会

日 時：2月23日(土) 16:00～
 会 場：明治座
 内 容：「かたき同志」

(18) CMS 事務認定試験

日 時：2月16日(土) 15:00～
 会 場：戸田中央看護専門学校・戸田中央総合病院第2会議室・戸田市商工会館
 結 果：

事務初級		医事中級		医事上級		総務中級		総務上級		経理上級		合計	
受験	合格	受験	合格										
2	2	2	0	1	0	2	0	1	0	1	1	9	3
100%		0%		0%		0%		0%		100%		33%	

会議・委員会

定例会議報告

◆ 会議構成

No	名 称	開催日	構 成 員
1	管理会議	毎週月曜日 14:00～	院長、事務長、看護部長
2	医局合同会議	第3月曜日 12:00～	院長、事務長、看護部長、医局員、各科（課）所属長
3	所属長連絡会議	第1月曜日 12:00～	院長、事務長、看護部長、各科（課）所属長
4	入院判定会議	毎週月・木曜日 12:00～	院長、看護部長、各病棟看護師、医療福祉科員、リハビリ科員

（1）管理会議

目 的：病院の運営管理に関する院長の諮問機関として管理会議をおく

諮問内容：

- ア. 組織、委員会からの事項を決裁する予算、重要な事業計画等の管理運営の基幹に関する事項、病院の将来構想に関する事項等について調査・審議・決定する
- イ. 人事に関すること及び諸費用として総額 10 万円以上を要するものについては、稟議書をもって管理会議にて決裁する
- ウ. 管理会議は（ア）の達成に向けて指導力を発揮する
- エ. 各会議・委員会からの上申事項等を決裁する

報 告：議事録に記載

（2）医局合同会議

目 的：診療業務を円滑に運営するため医局合同会議をおく

内 容：

- ア. 管理会議等での決定事項を各診療科・各部署に周知する
- イ. 各診療科・委員会からの意見の検討。病院の診療統計資料に基づき評価改善を行う

報 告：議事録に記載

（3）所属長連絡会議

目 的：病院業務を円滑に運営するため所属長連絡会議をおく

内 容：

- ア. 病院業務を円滑に運営するため各科（課）所属長間の検討・調整を行う

- イ. 医療界の最新情報や医療問題についてディスカッションを行い、病院運営に役立てる
 - ウ. 管理会議等の決定事項を周知する
 - エ. 職員からの意見を基に話し合い、意見・要望事項を管理会議に提出する
 - オ. 各診療科・委員会からの意見の検討。病院の診療統計資料に基づき評価改善を行う
- 報 告：議事録に記載

(4) 入院判定会議

- 目 的：入院の可否を決定する
- 構 成：院長、看護部長、各病棟看護師、リハビリテーション科、ソーシャルワーカー
- 開催日時：週 2 回（月・木）12：00～
- 開催場所：医療福祉相談室
- 報 告：
- ア. 会議結果

月	回数	入院予約		入院不可		入院決定率	
		(回復期)	(療養)	(回復期)	(療養)	(回復期)	(療養)
4月	6	7	0	10	0	41.2%	-
5月	9	6	0	16	0	27.3%	-
6月	8	3	0	7	0	30.0%	-
7月	8	4	0	7	0	36.4%	-
8月	7	9	0	15	0	37.5%	-
9月	6	4	0	14	0	22.2%	-
10月	7	9	0	12	1	42.9%	0%
11月	9	3	0	20	0	13.0%	-
12月	7	3	0	10	0	23.1%	-
1月	7	9	0	14	0	39.1%	-
2月	7	4	0	13	0	23.5%	-
3月	7	2	0	15	0	11.8%	-
合計	88回	63件	0件	153件	1件	29.2%	0%

イ. 入院不可理由

No	理由	件数	比率
1	回復期病棟でのリハビリ適応に乏しいため	49	31.8%
2	病状管理不可	30	19.5%
3	認知症がありリハビリ継続・対応が難しいため	29	18.8%
4	高次脳機能障害が著名で、対応が難しいため	9	5.8%
5	自立度が高いため入院の適応に乏しいため	14	9.1%
6	リハビリゴールと思われるため	4	2.6%
7	回復期病棟非該当	3	1.9%
8	四肢麻痺でADL全介助、リハビリ適応に乏しいため	5	3.2%
9	骨折後免荷期間が長い	2	1.3%
10	高次脳機能障害のみで外来レベル	1	0.6%
11	薬の対応不可	4	2.6%
12	社会背景的問題	3	1.9%
13	廃用症候群のため	1	0.6%
合計		154件	100%

委員会報告

◆ 委員会構成

No	委員会名称	開催日	回数
1	安全衛生委員会	第3月曜日 12:30~	12
2	環境整備委員会	第2月曜日 16:00~	12
3	広報委員会	第4月曜日 16:20~	12
4	レクリエーション委員会	適宜	0
5	医療情報システム管理委員会	第3木曜日 14:00~	6
6	放射線安全管理委員会	適宜	1
7	教育委員会	第3火曜日 12:30~	12
8	倫理委員会	適宜	0
9	電子カルテ運用検討委員会	隔月第4火曜日 15:00~	6
10	地域リハビリテーション研究会運営委員会	適宜	2
11	摂食・嚥下推進委員会	隔月第1金曜日 16:20~	6
12	感染症対策委員会	第2水曜日 14:00~	12
13	褥瘡対策・NST委員会	第4月曜日 15:30~	12
14	医療安全管理委員会	第4木曜日 14:00~	12
15	医療ガス安全管理委員会	適宜	3
16	栄養管理委員会	隔月第3水曜日 16:00~	6
17	防災対策委員会	第4火曜日 12:00~	6
18	薬事委員会	3ヵ月ごと	4

(1) 労働安全衛生委員会

- 目的：労働基準法第18条に基づき、下記事項について調査審議する
- ア. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
 - イ. 健康の保持促進を図るための基本となるべき対策に関すること
 - ウ. 労働災害の原因及び再発防止対策で衛生にかかるものに関すること
 - エ. 労働者の健康障害の防止及び健康の保持促進に関する重要事項について

構成：平成25年3月31日現在

委員長	露口 都子	医師
委員	吉井 政昭	事務長
〃	黒井 有子	看護部長
〃	中川 崇之	リハビリテーション科副主任
〃	桜井 孝	医事課係長
事務局	川原 大輔	総務課係長

報告：

- ア. 衛生管理者の専任（追加）
- イ. 雇入時健康診断
 - 24年度中途入職者を対象に実施
 - 実施医療機関：戸田中央総合健康管理センター

ウ. 定期健康診断

- 夜勤従事者対象
平成 24 年 8 月 28 日（火）～29 日（水） 65 名実施
- 全従事者対象
平成 25 年 2 月 26 日（火）～28 日（木） 230 名実施

(2) 環境整備委員会

目 的：

患者さんの立場に立ち、より良い入院環境を目指す。
患者さんが満足し、安心して医療・看護を受けられるよう接遇教育を実施する。
病院環境の整備・美化につとめ、快適な療養環境を整え、患者サービス向上に努める。

構 成： (平成 25 年 3 月 31 日現在)

委員長	黒井 有子	看護部長
副委員長	古賀 雅恵	薬剤科 係長
委員	恩田 朋子	リハビリテーション科
〃	川原 大輔	総務課 係長
〃	古川 珠美	医療ソーシャルワーカー
〃	本下 早苗	4 階病棟 看護師
〃	有路 さつき	3 階病棟 准看護師
〃	西本 真那美	2 階病棟 看護師
〃	柳川 進一	ダスキン
	安田 なみよ	ダスキン
事務局	古賀 雅恵	薬剤科 係長

開 催 日： 毎月第 2 月曜日 1 回開催

報 告：

ア. 職員の接遇教育：3 ヶ月に 1 回、接遇に関する院内統一のテーマを決めて各部署で実施

平成 24 年 4 月 10 日～平成 24 年 7 月 9 日：あいさつ・言葉遣い月間

「あいさつは 心と心の 良いきずな」

平成 24 年 7 月 10 日～平成 24 年 10 月 15 日：電話対応月間

「電話でも 相手に見える 態度と気持ち」

平成 24 年 10 月 16 日～平成 25 年 1 月 21 日：身だしなみ月間

「身だしなみ 服装、髪型 明るい笑顔」

平成 25 年 1 月 22 日～平成 25 年 4 月 8 日：片付け月間

「片付けも 事故予防の 第一歩」

イ. 屋上でのガーデニングの実施

ひまわりとミニトマト：平成 24 年 5 月 25 日(金)に植え付け ⇒ 各病棟で個々に収穫

パンジーと二十日大根：平成 24 年 10 月 29 日(月)に植え付け ⇒ 収穫に至らず

アネモネ、チューリップ、小松菜：平成 25 年 3 月 16 日(土)に植え付け

サフィニア：平成 25 年 3 月 28 日(木)に植え付け

⇒ 『赤い花を増やすプロジェクト』へ参加

ハンギングバスケットの制作：平成 24 年 12 月 23 日(日)、平成 25 年 3 月 28 日(木)制作

ウ. 病院敷地内の草刈り

平成 24 年 4 月 7 日(土)・6 月 23 日(土)・11 月 10 日(土)・平成 25 年 3 月 16 日(土)実施

エ. 近隣施設の清掃

平成 24 年 4 月 7 日 (土)・6 月 23 日 (土)・11 月 10 日(土)・平成 25 年 3 月 16 日(土)実施

オ. 病院周辺の美化 (清掃)、駐輪場の整頓、スカイガーデンの巡視

各部署 2 週間交代で、毎朝実施

カ. 玄関と中庭のプランターの管理：各部署 2 週間交代で水やりを実施

キ. 院内巡視：月 1 回、委員会の時に実施

ク. 『みなさまの声』への返答

ケ. 患者満足度調査の実施・集計：1 回実施

平成 24 年 9 月 9 日(日)～平成 24 年 9 月 30 日(日)に実施、その後集計

コ. 職員満足度調査の実施・集計：1 回実施

平成 24 年 8 月 14 日(火)～平成 24 年 9 月 1 日(土)に実施、その後集計

サ. 院内環境の改善

病棟の個室以外の院内全てのトイレに便座クリーナーを設置

院内全ての洗面台の石鹸入れを撤去し、使い捨てのハンドソープを設置

各病棟のカンファレンス室の窓に緑のカーテンとして、ゴーヤを植えた

業者による定期的な更衣室の清掃を決定：1 ヶ月に 1 回 (末日)

業者による 4 階浴室脱衣所の清掃

業者による院内の窓ガラスと網戸の清掃：平成 24 年 12 月 14 日(金)

業者による院内ワックス清掃

平成 24 年 6 月 17 日(日)、7 月 16 日(月)・18 日(水)、11 月 16 日(金)～17 日(土)

11 月 25 日(日)、平成 25 年 3 月 14 日(木)

クリスマスツリーの設置

(3) 広報委員会

目 的：「病院と地域社会双方向のコミュニケーション」を円滑にするために、病院事業を「広く報じる」ことを実施し、患者さん・地域社会と良好な関係を保ち、「多くの戸田中央リハビリテーション病院のファン」を作ることとする。

審議事項：

- ア. 病院広報に関する事項
- イ. 病院ホームページに関する事項
- ウ. その他広報全般に関する事項
- エ. 年度重点項目
 - 年 4 回の定期的な病院広報誌の発行と及び充実
 - ホームページの内容充実と定期的な更新

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委 員 長	吉井 政昭	事務長
委 員	黒井 有子	看護部長
〃	兼本 佐和子	看護部 係長
〃	古川 珠美	医療福祉科
〃	竹内 章朗	リハビリテーション科 副主任
事 務 局	桜井 孝	医事課 係長

報 告：議事録による

活動報告：

ア．広報誌『smile』の発刊

発行号	発刊月	発刊部数	TOPICS
第 28 号	24 年 8 月	院内報 150	◇院長だより ◇新任医師・看護部長紹介 ◇看護部通信「看護まつり」 ◇24 年度新入職員紹介 ◇第 50 回 TMG ソフトボール大会 ◇戸田リハ屋上庭園“スカイガーデン”OPEN！
第 29 号	25 年 1 月	院外報 222	◇院長だより ◇新年のご挨拶 ◇看護部通信「摂食・嚥下チームの紹介」 ◇リハビリテーション科より ◇医療福祉科より ◇戸田中央リハクリニック

■ 院長だよりの紹介

第 28 号

この 4 月に診療報酬・介護報酬のダブル改定がありました。病院は行った医療サービスが何点になるかがそれによって決まられ、それによって収入がおのずと決まります。政権が自民党時代末期には、改定の度に診療報酬は下げ続けられたため病院の倒産が増えました。さらに経済的締めつけが医療崩壊の一因となったと言われていています。民主党に代わってからは医療崩壊を食い止めるという旗印の下、ほんの少し改善しましたが、国家財政は火の車の大借金ですから無い袖は振れないというのが実情です。ただその改定で垣間見れるのは、医療機関の機能分化・住み分けと差別化です。誤解を恐れず一言で言いますと、「良いものには手厚く、悪いものにはつめたい」と言った感じです。当院が提供しています回復期リハビリテーションに関してはその傾向が特にはっきりしてきました。今まで 2 段階であったランク付けを、今回の改定で新たにトップランクが追加され 3 段階になりました。トップランクになるためには高いハードルを課せられております。この高いハードルにつきまして、これも誤解を恐れずに一言で言いますと「重症の患者さんをより多く受け入れ、今まで以上にたくさんの人々を自宅に帰しなさい」と言ういわば相反する要求です。戸田中央リハビリテーション病院はずっと以前から概ねこのハードルをクリアしていましたので、細かい調整を重ね早々に 3 病棟全てがトップランクの新回復期病棟 1 を獲得することが出来ました。それもこれも当院職員のチームワークのなせる業とわれながら感心しております。

第 29 号

明けましておめでとうございます。

新政権への期待からか株価は上昇し経済の先行きに少し明るい兆しが見えてきました。尖岳列島では中国の挑発行為が相変わらず続いており、新政権は威嚇射撃も検討するといった噂も出ています。どちらも後に引けなくなることを思うと怖くなります。年始に NHK の特別番組で中国とどう付き合うかというテーマでの対談形式の番組を見ました。結論は民間レベルでの交流をどんどん広げ、日本という国が良い国であるということを知ってもらうという事に収束した気がします。日本に来た多くの中国人は日本が良い国であると言ってくれるそうです。平和を維持するためにも、みんなが羨み、訪れたがる良い国づくりが必要であり、そのためにも先ず若い世代が希望を持ち、高齢者が安心できる国にしていかなければいけないと感じました。そしてその一部は我々がお手伝いできることであり、自分の足元を固めることが平和に繋がるといった壮大な結論となりました。

皆様の健康とご多幸を願います。

(4) レクリエーション委員会

目的：職員の健康の増進と福利厚生に関し、必要な審議及び企画の業務を行う。

構成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委員長	川原 大輔	総務課 係長
委員	今川 寛海	4 階病棟 係長
〃	吉池 史雄	リハビリテーション科
〃	小川 留美子	医療福祉科
〃	太田 朋美	総務課 主任

内容報告：開催なし

(5) 医療情報システム管理委員会

目的：診療情報が適切に提供できるよう基準・手順の整備、記録の標準化、医療支援システム（電子カルテ）の運用、クリニカルパスの適正化、地域連携パス大腿骨の活用

構成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委員長	西野 誠一	医師
副委員長	黒井 有子	看護部長
委員	古賀 雅恵	薬剤科 係長
〃	日坂 典子	2F 病棟 看護課長
〃	佐藤 絵馬	3F 病棟 看護師主任
〃	橋本 裕子	4F 病棟 看護係長
〃	山中 寛子	医療福祉科 係長
〃	小峰 隆弘	リハビリテーション科 主任
〃	桜井 孝	医事課 係長
事務局	兼本 佐和子	看護係長

報告：毎月第 3 火曜日 1 回開催

審議事項：

- ア．院内脳卒中パスについて
- イ．電子カルテ導入後問題検討
- ウ．院内記録物の標準化
- エ．委員会議事内容

開催月	議事内容	参加数
4 月	平成 24 年度方針（地域連携パス活用、院内脳卒中パス適正化など）、電子カルテについて、シーティングチームの書類について	10
5 月	電子カルテについて、シーティングチームの書類について、個人情報にかかわる確認書について	9
6 月	脳卒中地域連携パスについて、シーティングチームの書類について、個人情報にかかわる確認書について、入院時持参薬確認表について	8
7 月	院内脳卒中パスについて、シーティングチームの書類について、個人情報にかかわる確認書について、カルテ綴りについて	10

開催月	議事内容	参加数
9月	院内脳卒中パスについて、カルテ綴りについて、電子カルテについて、治験患者の書類について	11
10月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、カルテ綴りについて	9
11月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、家屋調査記録について、リハスタッフの記録について、カルテ綴りについて	9
12月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、摂食・嚥下ラウンド記録について、カルテ綴りについて	9
1月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、リハスタッフの記録について、カンファレンス記録について	9
2月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、機能評価再受審について、カルテ綴りについて	10
3月	電子カルテについて、院内脳卒中パスについて、機能評価再受審について、カルテ綴りについて、採血項目変更について	10

(6) 放射線安全管理委員会

目的：放射線障害予防規定の適正で効率的運用を図るために予防規定第10条に定める放射線安全委員会を定める

審議事項：

- ア．放射線障害の発生の防止に係ること
- イ．放射線障害の防止のための管理区域に係ること
- ウ．放射線発生装置の維持・管理に係ること
- エ．放射線発生装置の使用に係ること
- オ．測定に係ること
 - 使用施設、管理区域境界及び病院境界の漏洩線量の測定
 - 個人被ばく線量の測定
- カ．放射線障害の発生を防止するために必要な教育に係ること
- キ．訓練業務従事者に対しての健康診断に係ること
- ク．使用、保管、自主点検並びに教育及び訓練にかかる記録に係ること
- ケ．放射線発生装置に危険時（地震、火災等の災害）が起こったことに係る

構成：平成25年3月31日現在

委員長	佐藤 信也	院長
委員	黒井 有子	看護部長
〃	三井 裕子	放射線科（非常勤）
〃	吉井 政昭	事務長
オブザーバー	江川 公伸	戸田中放射線 科長
事務局	桜井 孝	医事課 係長

報告：議事録による

(7) 教育委員会

目的：職員の質の向上を図るために、知識、技術、接遇に関する教育と教育環境の整備を行う。

構成：平成25年3月31日現在

委員長	黒井 有子	看護部長
委員	土屋 喜隆	リハビリテーション科 係長
〃	太田 朋子	総務課 主任
〃	山中 寛子	医療福祉科 係長
〃	阿部 正子	2階病棟 看護師
〃	本橋 亜紀子	3階病棟 副主任
〃	加藤 正美	4階病棟 主任

会議報告：各科の研修状況（院内、院外）報告、希望図書の見直し

回数	開催日	議題他
第1回	4/16	・新入職研修報告、今年度の研修計画について
第2回	5/15	・研修報告 ・新入職者、2年目フォローアップ研修について
第3回	6/19	・チームアプローチ研修 ・フォローアップ研修計画
第4回	7/17	・チームアプローチ研修打ち合わせ
第5回	8/21	・チームアプローチ研修Ⅱ
第6回	9/18	・チームアプローチ研修Ⅱ、新入職者フォローアップ研修
第7回	10/16	・チームアプローチⅢ、新入職者フォローアップ研修
第8回	11/20	・チームアプローチⅢ
第9回	12/18	・チームアプローチⅢ、倫理研修、急変時対応研修
第10回	1/15	・チームアプローチⅣ、倫理研修
第11回	2/19	・チームアプローチⅣ、倫理研修
第12回	3/19	・今年度の評価、次年度の研修計画について

(8) 倫理委員会

目的：病院において行う医療、医学研究及び医学教育等が、倫理的配慮のもとに行われもって患者等の人権及び生命が十分に擁護されるよう審議する。

審議事項：

ア. 医療倫理（臨床現場における倫理）

- 特定の臨床上の事例において生ずる問題
- 患者のケアの事例において生ずる問題
- 医師患者関係（説明義務、守秘義務、善感注意義務など）
- 最先端医療（研究的側面、不足の危険性を伴う）

イ. 医学研究倫理

- 戸田中央リハビリテーション病院で行われる研究等に関し、研究者から申請された実施計画及びその成果の出版公表予定の内容

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委 員 長	*退職後不在	
委 員	露口 都子	医師
〃	黒井 有子	看護部長
〃	吉井 政昭	事務長
〃	外部有識者	民生委員、町会長
〃	外部有識者	顧問弁護士

報 告：平成 25 年 3 月 27 日 倫理勉強会（教育委員会合同開催）

（9）電子カルテ運用検討委員会

目 的：電子カルテ本稼動後の適正かつ効率的運用を図るために電子カルテ運用検討委員会を定める。

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委 員 長	西野 誠一	医師
委 員	黒井 有子	看護部長
〃	兼本 佐和子	看護係長
〃	小峰 隆弘	リハビリテーション科 主任
〃	山中 寛子	医療福祉科 係長
〃	古賀 雅恵	薬剤科 係長
〃	藤本 美穂	栄養科 係長
〃	細山 英紀	(株)エムビーテック
事 務 局	桜井 孝	医事課 係長

内容報告：適宜開催、議事録による

（10）地域リハビリテーション研究会運営委員会

目 的：地域リハビリテーション研究会の企画から運営を行う

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委 員 長	佐藤 信也	院長
副 委 員 長	吉井 政昭	事務長
委 員	一木 友徳	リハビリテーション科 主任
〃	米沢 真理	リハビリテーション科 副主任
〃	吉池 史雄	リハビリテーション科
〃	稲垣 達也	戸田中リハビリテーション科
オブザーバー	野宮 一志	TMG 本部リハビリ部長
事 務 局	川原 大輔	総務課 係長

報告内容：地域リハビリテーション研究会開催報告による

(11) 摂食・嚥下推進委員会

目的：嚥下障害患者の機能及び QOL の向上のため、また安全かつ適切な食事提供のため、多職種でのチームアプローチを効果的に推進する。

構成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委員長	西野 誠一	医師
副委員長	黒井 有子	看護部長
委員	藤本 美穂	栄養科 係長
〃	深田 美佳	栄養科
〃	兼本 佐和子	2F 病棟 看護師
〃	大野 寛子	3F 病棟 看護師
〃	渡辺 美智子	4F 病棟 看護師
〃	一木 友徳	リハビリテーション科 副主任
〃	小峰 隆弘	リハビリテーション科 主任
〃	甫仮 拓郎	リハビリテーション科 OT
〃	桜井 孝	医事課 係長
事務局	兼本 佐和子	2F 病棟 看護師

報告：隔月第 3 金曜日 1 回開催

役割：

- (1) 摂食・嚥下障害に関するアプローチの標準化
- (2) 摂食・嚥下カンファレンスの実施、他職種によるチーム医療の徹底
- (3) 院内及び院外の関連部署との連携に関すること
- (4) 職員の教育に関すること
- (5) 研究の推進

開催報告：

開催月	議事内容	参加数
4 月	摂食機能療法について、嚥下カンファレンスについて、VE 検査について	11
6 月	摂食機能療法について、嚥下ラウンドについて、高齢患者のスクリーニングについて	10
8 月	VF 検査について、嚥下ラウンドについて、その他	10
10 月	物品購入について、VE 検査について、嚥下ラウンドについて、院内研修会について、摂食機能療法について	10
12 月	嚥下ラウンドについて、スプーンについて、院内研修会について、摂食機能療法について	7
2 月	嚥下ラウンドについて、外来 VF 検について、VE 検査同意書について、院内研修会について、摂食機能療法について	8

(12) 感染症対策委員会

目的：委員会は感染予防に関する事項について調査審議すると共に感染対策を推進する事を目的とする

構成：平成25年3月31日現在

委員長	佐藤 信也	院長
副委員長	露口 郁子	医師
委員	黒井 有子	看護部長
〃	吉井 政昭	事務長
〃	古賀 雅恵	薬剤師 係長
〃	鈴木 敦子	リハビリテーション科 副主任
〃	藤本 美穂	栄養科 係長
〃	松原 昌子	2F 病棟 副主任
〃	清水 睦子	3F 病棟 副主任
〃	佐藤 瑠夏	4F 病棟 看護師
臨時委員	桜井 孝	医事課 係長
事務局	松原 昌子	2F 病棟 副主任

委員会開催：

月日	議事内容	出席数
4月	・抗菌薬使用状況 ・インフルエンザ感染状況・肺炎ワクチン・勉強会について	11
5月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・流行性角結膜炎疑いについて ・近隣施設での疥癬について	10
6月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・ラウンド実施結果報告・7月の勉強会の内容について・環境整備委員会より	11
7月	・抗菌薬使用状況 ・7月勉強会について ・スタッフの帯状疱疹について・環境整備委員会より	10
9月	・抗菌薬使用状況・感染状況報告 ・ラウンド実施結果報告・インフルエンザワクチン接種・厚労省の指導	12
10月	・抗菌薬使用状況・インフルエンザワクチン実施予定内容・医療監査	10
11月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・インフルエンザワクチンについて ・マニュアルについて	9
12月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告・インフルエンザワクチン接種状況・疥癬疑い患者について・ノロウイルスについて	10
1月	・感染状況報告 ・ラウンド実施結果報告・マニュアルについて・クロストリジウムディフィシル発生状況・インフルエンザ発生状況・栄養科よりノロウイルス発生について	10
2月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・インフルエンザ対策について ・手足口病・HB ワクチン接種について	9
3月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 インフルエンザ発生状況・ノロウイルス発生について	9

院内感染の発生状況についての記録・分析：

ア．MRSA 検出状況

月	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	計
4 月				0
5 月		1		1
6 月			1	1
7 月				0
8 月		1	1	2
9 月	1			1
10 月			1	1
11 月				0
12 月				0
1 月			1	1
2 月		1	1	2
3 月				0
計	1	3	5	9

イ、緑膿菌検出状況

月	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	計
4 月				0
5 月		3	2	5
6 月				0
7 月				0
8 月		3	1	4
9 月	1		3	4

月	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	計
10 月	2		2	4
11 月			1	1
12 月			1	1
1 月				0
2 月				0
3 月			1	1
計	3	6	11	20

ウ．インフルエンザ検出状況

- インフルエンザ A 陽性 0 名
- インフルエンザ B 陽性 0 名
- スタッフインフルエンザ罹患 7 名

エ．職員インフルエンザ予防接種

接種日 11 月 12 日・13 日・15 日日 13：00～会議室

対象者 全職員(リハクリ・委託業者も含む)

接種者／接種率 病院職員 名中 名／接種率 %

委託業者 ダスキン 名中 名／接種率 %

日清 名中 名／接種率 %

オ．針刺し事故状況（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

針刺し事故者 0 名

カ. 院内感染教育に関する事項

No	月 日	内 容
1	4/2	新人研修 スタンダードプリコーション ・ 防護用具の使用方法 ・ 手洗い ・ 消毒薬
2	7/19	職業感染
3	1/20	マニュアルの変更内容の周知 (ノロウイルス対策・クロストリジウム対策)

キ. 院内感染の調査及び対策有効性の評価

- 院内ラウンドの実施 (年 3 回)
- 実 施 日：平成 22 年 6 月・9 月・1 月
- 調査部署：各病棟・リハビリ室・栄養科 (厨房)
- 評 価：ゴミの分別不十分、尿器の消毒不適切、ゴミがあふれている、包交車の整理整頓不十分、GOJO 日付けなし、カンファレンス室に吸引が設置されていない、リキャップ、清洗室のドアが閉まっていない、テーブル食べこぼしあり、ウロバッグが床に接地している。

ク. 院内感染による発生患者の増減等により対策の有効性の評価

インフルエンザの発生はスタッフが多かった。患者への影響は少なかった。スタッフの体調管理等医療人としての意識向上が重要と反省する。

ノロウイルス大量発生を危惧していたが、疑い 1 例と栄養科スタッフに発生。適切な対応が取れていた為、感染拡大を予防できた。

クロストリジウムの発生についても適切な対応ができ、他患者への感染拡大はなく軽快した。

ケ. 院内感染に関する技術及び医療器具の改善、指導、監督

- ゴージャー使用の遵守
- スタンダードプリコーションの推奨・実施
- ノロウイルス発生に備えてのマニュアル調整・物品の管理

(13) 褥瘡対策・NST 委員会

目 的：

- ア. 褥瘡発生の予防と対策について組織的に取り組む
- イ. 全職員が褥瘡に関しての認識を深められるよう教育環境を整える
- ウ. 褥瘡発生の予防と対策について組織的な取り組みを行う為の推進役になる

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委員長	露口 都子 並木 祐樹	医師
副委員長・事務局	石田 陽子	4 階病棟 看護師
委 員	黒井 有子	看護部長
〃	藤本 美穂 深田 美佳	栄養科 係長 栄養科
〃	楊箸 有理	薬剤科
〃	日野 貴子	2 階病棟 看護師
〃	古川 ゆかり	3 階病棟 看護師
〃	石田 陽子	4 階病棟 看護師
〃	小峰 隆弘 森 智美	リハビリテーション科 主任 〃 副主任

運 営：毎月1回（計11回）

開催報告：

開催日	議 事 内 容	参加数
4/16	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、NST 活動の反省と課題 今年度の方針	10
5/28	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 車椅子レンタルについての承諾書作成	10
6/25	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 車椅子用クッションについての承諾書作成	13
7/23	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具について検討	9
8/27	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 車椅子レンタル・オーダーシート記入法	11
9/24	事務局不在のため中止	
10/22	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 新人職員対象による褥瘡委員会からの院内勉強会	9
11/26	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 体圧分散用具について検討	12
12/17	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	11
1/28	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 体圧分散用具について検討	8
2/25	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 体圧分散用具について検討	9
3/25	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 今年度の反省と来年度の目標	9

活動内容（職員教育も含む）：

- ア. 褥瘡ラウンド・カンファレンスの定例実施
- イ. 体圧分散用具の使用状況
- ウ. シーティングによる車椅子レンタルの活用法

（14）医療安全管理委員会

目 的：患者と職員の安全と安心の確保を通じ組織に与える損失を最小に抑える

構 成：平成25年3月31日現在

委 員 長	幡谷 史子	医師
副 委 員 長	今川 寛海	4階病棟 係長
〃	中川 宗之	リハビリテーション科 主任
委 員	吉井 政昭	事務長
〃	黒井 有子	看護部長
〃	金田 綾乃	医事課 副主任
〃	古賀 雅恵	薬剤科 係長
〃	深田 美佳	栄養科
〃	松原 昌子	2階病棟 副主任
〃	中村 理恵	2階病棟
〃	清水 睦子	3階病棟 副主任
〃	白尾 祐子	3階病棟
〃	小川 留美子	医療福祉科

活動内容：

- ア. インシデント・アクシデントの集計・分析・検討
- イ. 院内全体研修実施 2回/年(7月及び1月)
- ウ. 年/2件以上(重大事故)レポートRCA分析実施
- エ. KYT評価・修正、フォローアップ研修
- オ. 入院時内服持参薬マニュアル改訂
- カ. 内服自己管理マニュアル改訂
- キ. 院内ラウンド実施
- ク. 外泊時内服管理用紙改訂
- ケ. 薬剤科との協働をリハビリ学会で発表

開催報告：

開催月	議 事 内 容	出席数
4/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24 年 3 月のインシデント・アクシデント報告・検討 ・ 平成 24 年度活動指標について ・ 屯用薬薬袋について 	11
5/17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 平成 24 年度インシデント・アクシデント総件数報告 ・ USB 管理について ・ 盗難について 	10
6/21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月インシデント・アクシデント報告と検討 ・ 車椅子乗車時アームレストの隙間に指を挟み骨折したケースについて ・ 院内ラウンド実施結果報告 ・ 食中毒流行の季節、注意喚起 	10
7/19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ パラマウントベッドより、事故の報告について ・ 青梅で結核集団感染について報告 ・ 熱中症について注意喚起 ・ 平成 24 年 7 月 19 日「SHELL」分析について開催 	11
8/23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ O157 集団感染のニュースあり、注意喚起 ・ 多施設で認知症患者が、清掃業者がペットボトルに入れていた薬剤を誤飲したケースについて 	10
9/27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 院内ラウンド実施、結果報告 ・ RS ウイルス感染拡大傾向、注意喚起 	11
10/25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 外泊時左手関節骨折にしたケースについて ・ 自販機の返金を要求してくる不審者おり、当院・関係病院でも確認されたケースについて ・ インフルエンザ・ノロウイルス流行の季節、注意喚起 	11
11/22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ リハビリ中に急変死亡したケース ・ 急変時アンビューマスクが準備されていなかったケース ・ コンビニエンスストア真空レトルトパックのお惣菜からボツリヌス菌が検出されたケースについて ・ 1 月院内医療安全・感染合同研修について検討 	11

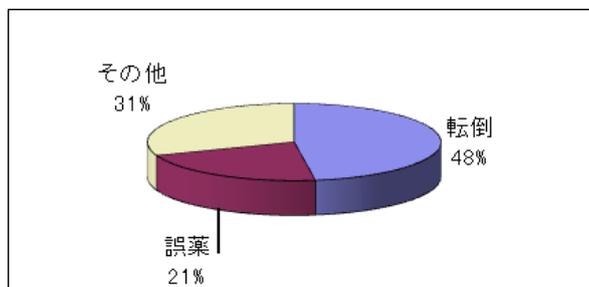
開催月	議 事 内 容	出席数
12/27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 歩行自立レベル患者、外来受診時転倒骨折したケースについて ・ 院内ラウンド実施、結果報告 ・ 離院警察介入したケースについて 	11
1/24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 年末・年始、外泊関連・内服関連のアクシデント増加したケースについて ・ インフルエンザA流行傾向、患者対応の他面会者・事務での対応についても注意喚起 ・ 平成24年1月17日 医療安全・感染合同研修結果報告 ・ 急変時除細動器使用について検討 ・ 1階正面玄関ゴミ箱に、アルコール飲料の缶が捨てられていたケースについて ・ 外泊時内服管理シートについて修正検討 	11
2/28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 外泊時内服管理シート完成、使用開始 ・ 1階女子トイレに嘔吐物の痕跡有、感染についての掲示開始 ・ チーム・病院全体での活動の必要性説明、PDCA サイクル活用し継続性のある活動行っていく 	11
3/30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月インシデント・アクシデント報告・検討 ・ 院内ラウンド実施、結果報告 ・ 今年度の反省と来年度に向けての課題 ・ 各科より報告 	11

レベル 0	・ 未然に防いだ
レベル 1	・ 身体的実害はないが影響はある
レベル 2	・ 軽度の身体的実害を与えた観察・検査の必要性が生じた
レベル 3	・ 重度の実害を与えた検査・治療が必要になる
レベル 4	・ 事故が原因で長期的な治療が必要となった その後に影響を与えた
レベル 5	・ 事故が原因で死亡した

インシデント・アクシデント報告（24年度）

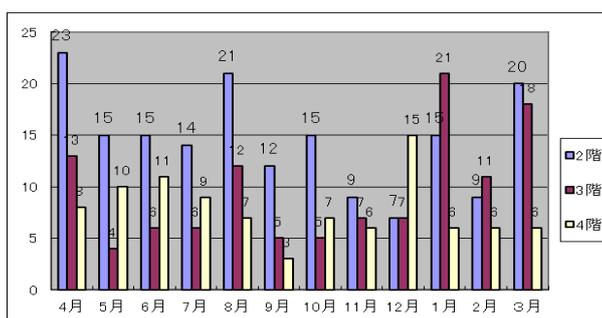
◆インシデント・アクシデント総件数

転倒	誤薬	その他	総件数
384	174	247	805



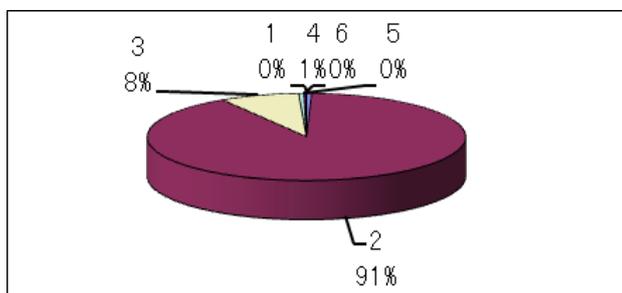
◆転倒件数（病棟・月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2F	23	15	15	14	21	12	15	9	7	15	9	20	175
3F	13	4	6	6	12	5	5	7	7	21	11	18	115
4F	8	10	11	9	7	3	7	6	15	6	6	6	94
計	44	29	32	29	40	20	27	22	29	42	26	44	384



◆転倒件数（レベル別）

レベル	0	1	2	3	4	5	計
	2	348	31	2	1	0	384

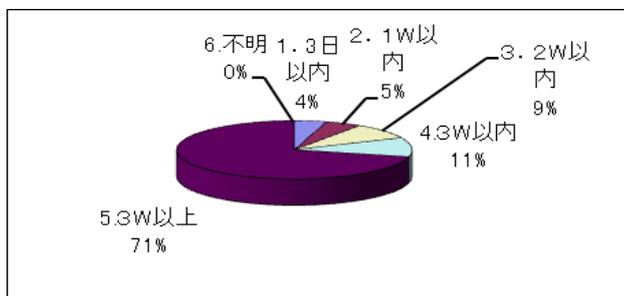


◆転倒件数（回数別）

	2回	3回	4回	5回	6回	7回	10回	計
2F	15	7	1	2	0	0	0	25
3F	15	2	2	0	0	0	0	19
4F	7	5	0	0	0	0	0	12
計	37	14	3	2	0	0	0	56

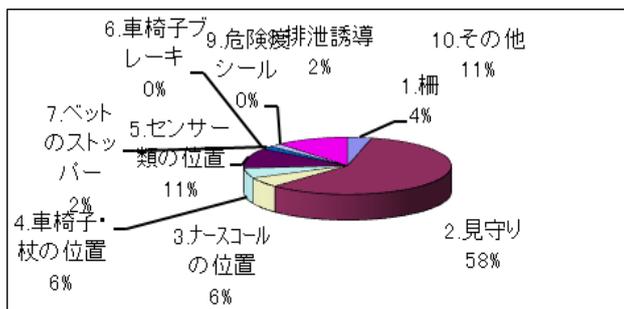
◆転倒件数（期間別）

3日以内	1W以内	2W以内	3W以内	3W以上	不明	計
17	19	34	41	273	0	384



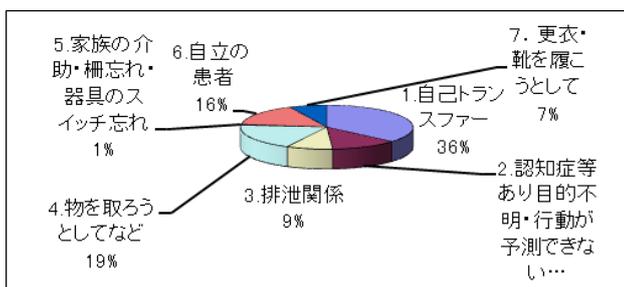
◆転倒・転落件数（約束違反あり）

柵	見守り	トイレの位置	車椅子杖位置	むす類の位置	車椅子ブレーキ	ベッドのストッパー	排泄誘導	危険度シール	その他	計
2	31	3	3	6	0	1	1	0	6	53



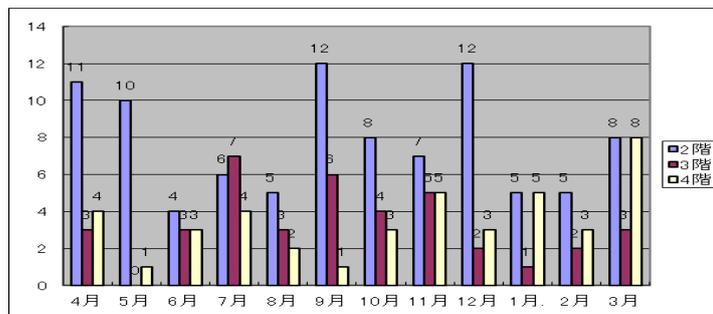
◆転倒・転落件数（約束違反なし）

自己トランスファー	認知症等あり 目的不明・行動 予測できない	排泄関係	物を取ろう として等	家族の介助・ 柵及び器具の スイッチ忘れ	自立の患者	更衣・靴を 履こうとして	その他	計
114	39	27	59	2	50	22	19	332



◆誤薬件数（病棟・月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2F	11	10	4	6	5	12	8	7	12	5	5	8	93
3F	3	0	3	7	3	6	4	5	2	1	2	3	39
4F	4	1	3	4	2	1	3	5	3	5	3	8	42
計	18	11	10	17	10	19	15	17	17	11	10	19	174

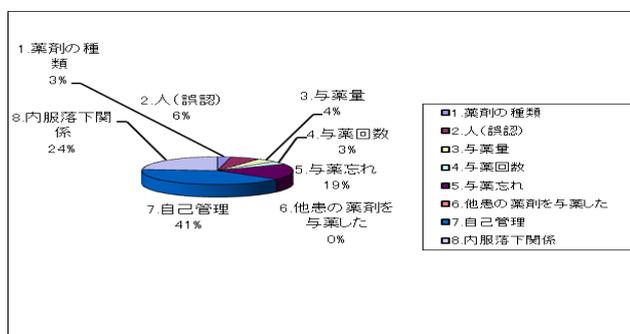


◆誤薬件数（レベル別）

レベル	0	1	2	3	4	5	計
	16	137	21	0	0	0	174

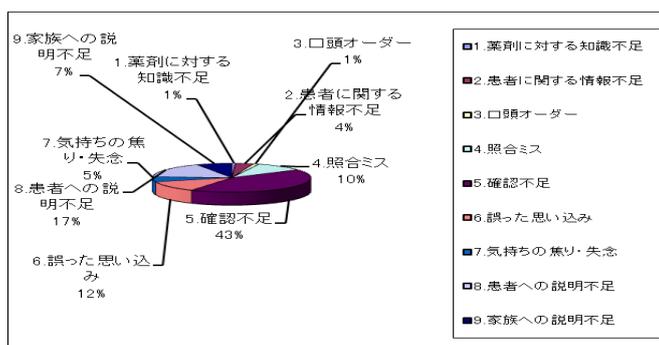
◆誤薬件数（項目別）

薬剤の種類	人（誤認）	与薬量	与薬回数	与薬忘れ	他患の薬剤を与薬	自己管理	内服落下関係	その他	計
4	9	6	5	26	0	57	33	38	178



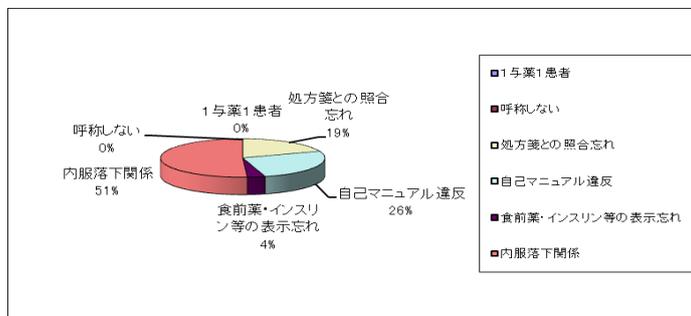
◆誤薬件数（原因別）

薬剤に対する知識不足	患者に対する情報不足	口頭オーダー	照合ミス	確認不足	誤った思い込み	気持ちの焦り・失念	患者への説明不足	家族への説明不足	計
2	9	3	25	107	30	14	42	18	250



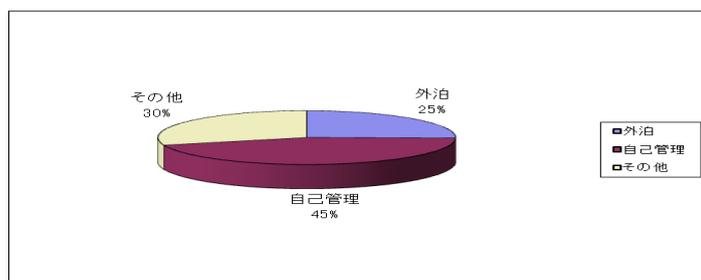
◆誤薬件数（約束違反あり）

1 与薬 1 患者	呼称 なし	処方箋との 照合忘れ	自己マニュアル 違反	食前薬・インスリン 等の表示忘れ	内服落 下関係	その他	計
0	0	11	15	2	29	46	103



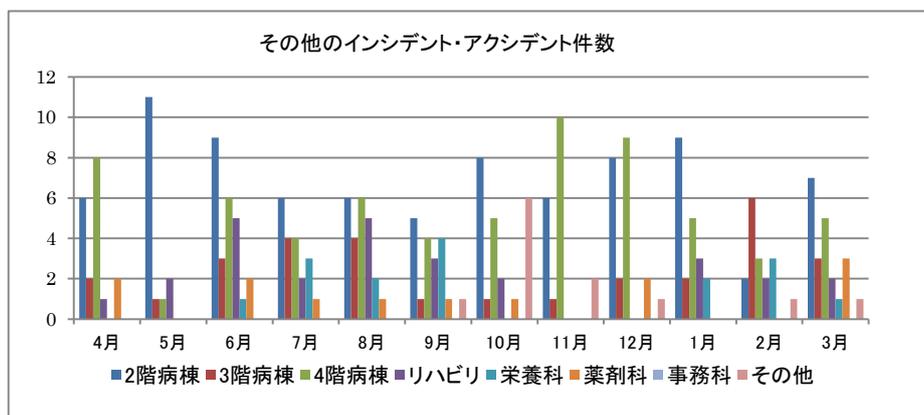
◆誤薬件数（約束違反なし）

外泊	自己管理	その他	計
18	32	21	71



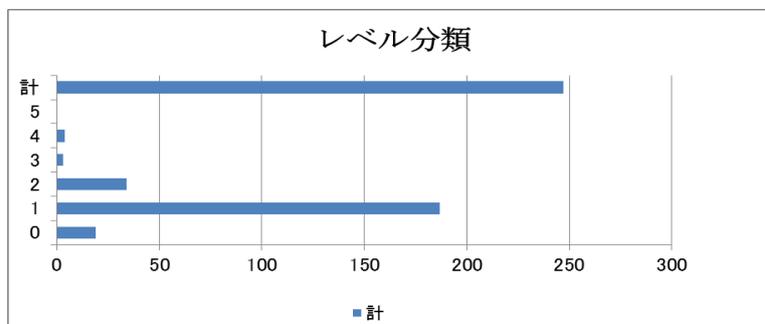
◆その他のインシデント・アクシデント件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2F	6	11	9	6	6	5	8	6	8	9	2	7	83
3F	2	1	3	4	4	1	1	1	2	2	6	3	30
4F	8	1	6	4	6	4	5	10	9	5	3	5	66
リハビリ	1	2	5	2	5	3	2	0	0	3	2	2	27
栄養科	0	0	1	3	2	4	0	0	0	2	3	1	16
薬剤科	2	0	2	1	1	1	1	0	2	0	0	3	13
事務課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1	6	2	1	0	1	1	12
計	19	15	26	20	24	19	23	19	22	21	17	22	247



◆その他インシデント・アクシデント件数（レベル分類）

レベル	0	1	2	3	4	5	計
	19	187	34	3	4	0	247



◆離院・離棟・誤配膳件数

	離棟	離院	誤配膳	計
2階病棟	30	5	3	38
3階病棟	12	1	4	17
4階病棟	36	8	0	44
計	78	14	7	99

(15) 医療ガス安全管理委員会

目的：医療ガス施設の安全管理を図り、患者の安全を確保するために、医療ガスに関する各種の事項について審議する。

構成：平成25年3月31日現在

委員長	佐藤 信也	院長
委員	吉井 政昭	事務長
〃	黒井 有子	看護部長
〃	川原 大輔	総務課 係長
〃	古賀 雅恵	薬剤科 係長
オブザーバー	今井 敏彦	戸田中央総合病院施設課 課長
〃	東京エア・ウォーター(株)	
事務局	川原 大輔	総務課 係長

報告：医療ガス配管設備の安全点検

日時：①平成24年7月9日 ②平成25年1月31日

結果：①異常なし ②異常なし

(16) 栄養管理委員会

主 旨：栄養・給食業務の改善等に関する重要事項を審議し、かつ関係部門との連絡調整の円滑化を図る。

目 的：審議事項は、食事基準・献立・栄養指導・各種調査等、栄養・給食業務の改善及び患者サービスの向上等に関するものとする。

構 成：

委 員 長	西野 誠一	医師
副 委 員 長	藤本 美穂	栄養科 係長
委 員	吉井 政昭	事務長
〃	黒井 有子	看護部長
〃	兼本 佐和子	看護部
〃	林 奈央子	2F 看護師
〃	中野 和子	3F 看護師
〃	土川 純子	4F 看護師
〃	郷 麻衣子	リハビリ科 ST
〃	深田 美佳	管理栄養士

報 告：議事録による

(17) 防災対策委員会

目 的：法令に基づき設置し、併せて院内の特定事項に関する院長の諮問機関として設置する。

審議事項：

- ア. 防火、防災に関する院長からの指示事項
- イ. 消防計画の立案と変更
- ウ. その他病院の防火、防災に必要な事項
- エ. 年度重点項目
- オ. 各部署訓練計画の策定
- カ. 防災倉庫の設置と非常食等防災用品の充実

構 成：平成 25 年 3 月 31 日現在

委 員 長	吉井 政昭	事務長（防火管理者）
委 員	黒井 有子	看護部長
〃	日坂 典子	2 階病棟 科長
〃	坂口 信恵	3 階病棟 科長
〃	橋本 祐子	4 階病棟 係長
〃	湯浅 晃史	リハビリテーション科 主任
〃	小川 留美子	医療福祉科
〃	楊箬 有理	薬剤科
〃	深田 美佳	栄養科
事 務 局	川原 大輔	総務課 係長

報 告：

ア. 消防訓練

日 時：平成 24 年 6 月 7 日（木）13:10～14:00（天候：晴れ）

内 容：昼間の地震発生を想定し、発生からいかに早く入院患者の避難誘導、被害状況、ライフラインの確認を行えるかを訓練する。また初期消火、通報訓練も実施

参 加 数：52 名（男性：20 名、女性：32 名）

日 時：平成 25 年 1 月 17 日（木）13:10～14:00（天候：晴れ）

内 容：夜間の火災発生を想定し、火災発生からいかに早く初期消火、通報及び避難誘導が行えるかを訓練する。中央階段が火に包まれている事態を想定し、避難用スロープを用いる避難訓練及び消火器の取り扱い訓練も実施

参 加 数：30 名（男性：11 名、女性：19 名）

イ. 消防用設備等点検

日 時：平成 24 年 8 月 20 日（月）

点 検 者：能美防災㈱

点検設備：自動火災報知設備、非常用放送設備、ガス漏れ火災警報設備、消防水利、消火器設備、防火・防排煙設備、誘導灯設備、スプリンクラー設備、避難器具設備、自家発電設備、火災通報装置

日 時：平成 25 年 2 月 28 日（木）

点 検 者：能美防災㈱

点検設備：自動火災報知設備、非常用放送設備、ガス漏れ火災警報設備、消防水利、消火器設備、防火・防排煙設備、誘導灯設備、スプリンクラー設備、避難器具設備、自家発電設備、火災通報装置

ウ. 防災実施点検報告書の作成・管理

エ. 年末年始、ゴールデンウィーク防災管理体制

オ. 各種マニュアル・規程の作成・配布・遵守の指導・消防計画、大規模災害マニュアル、新入職員への防災心得

カ. 備蓄品の管理（備蓄配置一覧）

品 名	数 量	保管場所
ク ラ ッ カ ー	1,200	戸田中央総合病院物品倉庫
シ チ ュ ー	1,200	〃
デ ィ ス ポ 食 器	1,000	〃
紙 コ ッ プ	400	〃
割 り 箸	1,000	〃
プラスチックフォーク	200	〃
水（2ℓ ボトル）	96	〃
携帯ラジオ・拡声器	各 1 台	物品倉庫
メガホン・ロープ	50m ² 本、20m ³ 本	〃
救 急 担 架	3 台	各病棟
そ の 他	救急箱、院内図面 職員名簿、病院旗	総務課・看護部長室

(18) 薬事委員会

目的：病院における使用薬品の評価及び新規薬品の採用、その他業務の合理化に資する事項を検討し、病院運営の効率化を図ることを目的とする。

構成：平成25年3月31日現在

委員長	佐藤 信也	院長
委員	吉井 政昭	事務長
〃	黒井 有子	看護部長
〃	古賀 雅恵	薬剤科 係長

開催：3ヶ月に1回（平成24年5月31日、8月23日、11月15日、平成25年2月28日）

報告：

ア. 新規採用薬

No	薬剤名	No	薬剤名
1	ビカルタミド錠 80 mg 「日医工」	8	ツムラ抑肝散エキス顆粒
2	メトトレキサート錠 2 mg 「タナベ」	9	ミルナシブラン塩酸塩錠 25 mg 「AFP」
3	アミオダロン塩酸塩速崩錠 100 mg 「日医工」	10	プラシルカストカプセル 112.5 mg 「日医工」
4	ユリーフ錠 4 mg	11	ビオスリー配合錠
5	デトルシトールカプセル 4 mg	12	エスポー皮下用 6000
6	イーケブラ錠 500 mg	13	アドマックディス®関節注 25 mg
7	エブランチルカプセル 15 mg		

イ. 口座末梢薬剤

No	薬剤名	No	薬剤名
1	ビオフェルミン配合散	3	ラックビー微粒 N
2	ビオフェルミン R 錠		

ウ. 名称変更

No	薬剤名
1	ヒューマリン 3/7 注ミリオペン (←ヒューマリン 3/7 注キット)
2	シロスタゾール錠 100 mg 「サワイ」 (←フレニード錠 100)
3	アシクロビル錠 400 mg 「サワイ」 (←アシロベック錠 400)
4	ベザフィブラート SR 錠 200 mg 「サワイ」 (←ベザテート SR 錠 200)
5	エピナスチン塩酸塩錠 20 mg 「日医工」 (←アレロオフ錠 20)
6	ニセルゴリン錠 5 mg 「サワイ」 (←サワチオン錠 5 mg)
7	アマンタジン塩酸塩錠 50 mg 「サワイ」 (←アマゾン錠 50)
8	スルピリド錠 50 mg 「サワイ」 (←ベタマック錠 50 mg)

エ. 薬剤の切り替え

No	薬剤名	No	薬剤名
1	グリメピリド錠 1 mg 「日医工」 (←グリメピリド錠 1 mg 「杏林」)	7	デルモゾール G クリーム (←リンデロン VG クリーム 0.12%)
2	スターシス錠 90 mg (←ファスティック錠 90mg)	8	デルモゾール G 軟膏 (←デキサン VG 軟膏 0.12%)
3	50%ブドウ糖注射液 「ニッシン」 (20ml) (←大塚糖液 50%(20ml))	9	パロキセチン錠 10 mg 「日新」 (←パキシル錠 10 mg)
4	アトルバスタチン錠 5 mg 「日医工」 (←アトルバスタチン錠 5 mg 「サンド」)	10	アデフロニックズポ 25 (←ボルマゲン坐剤 25 mg)
5	ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg 「杏林」 (←マイスリー錠 5 mg)	11	クエチアピン錠 25 mg 「アメル」 (←セロクエル 25 mg錠)
6	モサプリドクエン酸塩錠 5 mg 「日医工」 (←ガスモチン錠 5 mg)		

オ. 要時採用薬

No	薬剤名	No	薬剤名
1	ベゲタミン A 配合錠	20	ガスコン錠 40 mg
2	ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒	21	プラザキサカプセル 75 mg
3	本草加味逍遙散エキス顆粒	22	レミニール OD 錠 8 mg
4	ベサコリン散 5%	23	エリスロマイシン錠 200 mg 「サワイ」
5	ファンミル R 錠 150 mg	24	ノイロトロピン錠 4 単位
6	アナフラニール錠 10 mg	25	リーマス錠 200
7	アザルフィジン EN 錠 500 mg	26	アドエア 250 ディスカス 60 吸入用
8	フォリアミン錠	27	フルタイド 100 ロタディスク
9	カルナクリン錠 50	28	エンシュアリキッド
10	アシクロビル錠 400 mg 「サワイ」	29	クレメジン細粒分包 2g
11	アドナ錠 30 mg	30	メルカゾール錠 5 mg
12	ペプリコール錠 50 mg	31	バクタ配合錠
13	カモステート錠 100	32	ヒルナミン錠(50 mg)
14	エビスタ錠 60 mg	33	ユーロジン 2 mg錠
15	ビ・シフロール錠 0.5 mg	34	ドネペジル塩酸塩 OD 錠 3 mg 「日医工」
16	プロドナー錠 20	35	ペルサンチン L カプセル 150 mg
17	ソタコール錠 80 mg	36	フランドルテープ 40 mg
18	スピリーバ 2.5µg レスピマット 60 吸入		
19	シアノコバラミン注射液 1000µg 「トーワ」		

地域との交流

地域リハビリテーション研究会

(1) 第13回地域リハビリテーション研究会

- 日 時：平成24年2月21日（火）18：00～20：00
- 内 容：「摂食嚥下の基礎から対応まで ～基礎編～」
- 講 師：戸田中央総合病院 言語聴覚士 赤沼賢吾
- 参加者：43名（22施設）

職 種	参加数
看護職員	7名
介護職員	8名
理学・作業・言語	11名
ケアマネジャー	6名
管理栄養士	2名
その他	9名

(2) 第14回地域リハビリテーション研究会

- 日 時：平成24年6月7日（木）18：00～20：00
- 内 容：「摂食嚥下の基礎から対応まで ～口腔の評価・訓練についての講義・実技～」
- 講 師：戸田中央総合病院 言語聴覚士 赤沼賢吾
- 参加者：69名（25施設）

職 種	参加数
看護職員	17名
介護職員	11名
理学・作業・言語	26名
その他	15名

(3) 第15回地域リハビリテーション研究会

- 日 時：平成24年10月25日（木）18：00～20：00
- 内 容：「摂食嚥下の基礎から対応まで ～食事の際の環境設定について～」
- 講 師：戸田中央総合病院 言語聴覚士 赤沼賢吾
- 参加者：49名（19施設）

職 種	参加数
看護職員	10名
介護職員	5名
理学・作業・言語	25名
その他	9名

ボランティア

受入報告

No.	月日	活動内容	団体・個人	活動時間	活動場所
1	11/11	秋のコンサート	当院リハビリテーション科 鈴木 勝年、渡辺 有希子	14:00	各階食堂
2	毎月第3 日曜日	絵手紙の会	絵手紙教室 大石 里子	15:00	各階食堂

編集後記

一昨年度の年報発行に当たっては、諸般の事情から資料の収集、編集作業に手間取り、発行日が大変遅れてしまったことを反省し、平成 24 年度版年報の作成においては、年度終了後いち早く取り組みを開始した次第です。

「東日本大震災」から 1 年余りが経過してのスタートとなった 24 年度でしたが、未だにその傷跡は大きく残り、埼玉県内にも被災地からの非難を余儀なくされた人たちが、それまでとは全く違う環境での生活を送っている状況です。当院の属する戸田中央医科グループでも災害時医療支援チームの設立等、今後の有事の際への取り組みを積極的に行っています。個々の職員が医療人として成すべきことは何なのかを継続して考えていかなければなりません。

寒い季節からの気候の移り変わりとともに、屋上庭園「スカイガーデン」の草木も花をつけています。当院の位置する『花と緑の街・戸田市』の地域完結型医療の一役を担う病院として、戸田中央医科グループの回復期リハビリテーションの先頭を走る役割を担う病院として、戸田中央リハクリニック共々、今後皆様のお力をお借りしながら日々前進を続けていく所存です。これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。

最後に、年報作成にご尽力いただきました関係各位に、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 6 月

発行者：院長 佐藤 信也

編集責任者：事務長 吉井 政昭

編集担当者： 広報委員会